

2024 年度 (令和6年度) 三鷹市民大学事業総合コース 学習記録

# あゆみ



第 57 号

三鷹市生涯学習センター

表紙の写真は、生涯学習センターフェスティバルでのプレゼンテーションの様子  
(12/7・8 開催)

# 目 次

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 総合コースとは .....             | 2 |
| 5 コース開設概要 .....           | 3 |
| 令和6年度総合コース企画委員会について ..... | 4 |
| 令和6年度総合コース企画委員を終えて .....  | 5 |
| 運営委員会より .....             | 7 |

## 各コースの学習記録

|                                                        |    |
|--------------------------------------------------------|----|
| 【科学】 人と地球と AI 社会のこれから<br>～ AI や科学技術の進歩は人を幸せにするか～ ..... | 11 |
| 【経済】 構造的問題を抱える日本経済と不確実性を増す世界経済<br>～日本の羅針盤はいかに！～ .....  | 27 |
| 【哲学】 暮らしの中のことばと文化 .....                                | 43 |
| 【教育】 教育の <sup>いま</sup> 現在を考える .....                    | 59 |
| 【政治】 人権と民主政治を身近な問題から考える<br>～女性の不在・経済の停滞・報道の責任～ .....   | 71 |

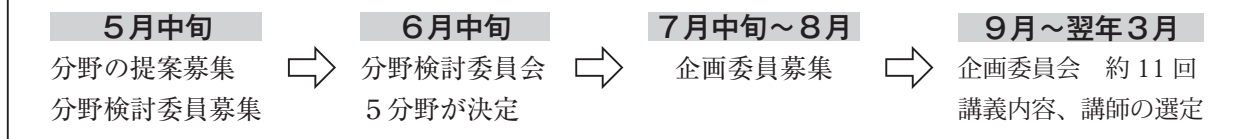
# 総合コースとは

## 総合コースとは

三鷹市の市民大学総合コースは、開設以来今年で57年目を迎えました。当初から「学習の主体は市民にある」という命題を掲げ、コースの企画段階から運営に至るまで、市民自らが主体となっていく講座です。

平成28年度までは、三鷹市社会教育会館を会場に開催（開設当初4年は市民会館で開催）してきましたが、社会教育会館の閉館に伴い、29年度からは会場を三鷹市生涯学習センター（29年4月オープン）に移し、運営や事業理念を市から公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団に引き継ぎ実施しています。

### ★総合コースのカリキュラムができるまで～準備は1年前からスタートします



## 1 総合コースの企画と運営

### （1）分野検討委員会の開催

広く市民から学びたい分野・学習テーマを募り、公募の委員が意見を集約・分類します。2日間にわたって議論を重ね、次年度に開設する5つの分野（コース）を決定します。

### （2）企画委員会の設置

公募による委員と担当職員とで企画委員会を設け、半年以上かけて、広く市民の学習要望をもとに、講義内容やそれにふさわしい講師を検討し、カリキュラムを作成します。

### （3）運営委員会の設置

各コースの学習生から選出された委員と担当職員とで運営委員会を設け、学習生の意見や要望をコース間で情報共有や意見交換し、一人一人が主体的に学習できる環境づくりを行います。

## 2 学習方法

各コースとも、講座回数30回のうち20回はゼミナール形式の講義、10回を自主学習の時間としています。年間を通じて、講義・発表・討論などを積み重ね、学習課題についての問題解決や知識の習得を目指します。自主学習では、講義を契機として各人が互いに意見を交わしたり、交流を深めたり、運営について話し合ったりするなどして、自主的に学習を進めていきます。

## 3 学習の記録『あゆみ』の作成

学習記録『あゆみ』とは、総合コース1年間の学習記録です。

毎年、各コースの学習生が終了時に学習の記録や感想を執筆し発行しています。

## 4 学習成果の発表

学習成果の発表として、12月に開催される『生涯学習センターフェスティバル』に参加しています。科学、経済、教育、政治の4コースが展示に合わせたプレゼンテーションや来場者への説明、アンケートを行いました。哲学コースは自主グループと合同で展示を行ったほか、哲学対話の体験会を開催しました。

更に、3月7日（金）から31日（月）までの期間、模造紙展示を元気創造プラザ1階情報コーナーで行いました。

## 5 コース開設概要

総合コースは、市民主体で企画・運営する講座です。地域や生活に根ざした課題について、ゼミナール形式の継続学習・研究・発表・討論を積み重ね、市民としての自治能力を高めています。そして、学習成果を地域や生活の場に活かし、まちづくりに結び付けていくことを目指しています。

今年度は、次の5つのコースを設け、3コースは金曜日に、2コースは土曜日に1年間にわたって行いました。

会 場 三鷹市生涯学習センター（元気創造プラザ4階）

開設時間 午前10時～正午

| 【分野】 コース                                                                                         | 要 旨                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>【科学】</b><br>人と地球とAI社会のこれから<br>～AIや科学技術の進歩は<br>人を幸せにするか～<br><br>5月10日～3月7日<br>（金曜日 全30回）       | 私たちは、既にAI（人工知能）が当たり前なユビキタスな社会に暮らしています。<br>本コースでは、私たちはAIとどう向き合うべきか、また、そのベースとなる科学技術をどのように活用していくかということを、技術者と利用者の視点で、また、人と社会と地球という軸で学習します。いくつかの講座は、実験的・体験的なワークショップスタイルも取り入れて、一緒に楽しい科学の冒険にでかけましょう。<br>室山 哲也 さん（日本科学技術ジャーナリスト会議会長） ほか          |
| <b>【経済】</b><br>構造的問題を抱える日本経済<br>と不確実性を増す世界経済<br>～日本の羅針盤はいかに！～<br><br>5月10日～3月7日<br>（金曜日 全30回）    | 日本経済は新しい資本主義のもと、成長と分配の好循環を目指しているが、一方で少子高齢化、AIの経済への効率活用、経済安全保障などの課題も山積している。世界ではウクライナ戦争、中東情勢、米中対立、アメリカの大統領選挙など不確実性が増している昨今である。皆様型とこの困難な日本丸の羅針盤にどう取り組むか一緒に考えましょう。<br>東郷 賢 さん（武蔵大学国際教養学部教授） ほか                                               |
| <b>【哲学】</b><br>暮らしの中のことばと文化<br><br>5月10日～3月7日<br>（金曜日 全30回）                                      | ふだんあたりまえに使っている「ことば」ってなんでしょう？話す、書く、きもちを伝える…便利で、なくてはならないけれど、あまり深く考えたことがない気がします。<br>今年は「暮らしの中のことばと文化」をテーマに、言語とは何か、また、ことばをめぐるさまざまなことがらを、哲学、色彩、アート、AIなどとの関わりから深めてみたいと思います。あなた自身の気づきを求めて、ことばの世界を発見してみませんか。<br>中村 昇 さん（中央大学文学部教授） ほか            |
| <b>【教育】</b><br>いま<br>教育の現在を考える<br><br>5月11日～3月8日<br>（土曜日 全30回）                                   | グローバル化する社会にあって、教育は今どのような問題や課題を抱えているのでしょうか。子どもたち、若者たち、教師の現状は？親たち、私たち市民は教育の現状が見えているのでしょうか？ICT教育の導入や英語教育の早期化、若者の貧困と教育格差、教育基本法の改正や教科化された道徳教育、過重労働に疲弊する教師たち…教育の現在をさまざまな視点から学び、望ましい教育とはどのようなものか、学びの本質とは何か、一緒に考えてゆきましょう。<br>大内 裕和 さん（武蔵大学教授） ほか |
| <b>【政治】</b><br>人権と民主政治を<br>身近な問題から考える<br>～女性の不在・経済の停滞・<br>報道の責任～<br><br>5月11日～3月8日<br>（土曜日 全30回） | 市民生活や社会が多岐にわたって複雑化し、生活と政治が切り離せなくなる中、政治の役割がますます増大しています。社会生活のさまざまな面に目を配り、特に戦争などによって脅かされている人権、女性参画の問題、ジャーナリズムの役割と責任等、現在の政治問題を解き明かし、基本から学んでいきます。<br>西田 亮介 さん（日本大学危機管理学部教授／東京工業大学特任教授） ほか                                                     |

※夏・冬休みは除く

# 令和6年度総合コース企画委員会について

企画委員会では、公募による市民の委員と担当職員が一堂に会し、毎年、次年度の開設コースのテーマ、学習内容、講師などについて協議し、決定しています。

令和6年度は令和5年9月から令和6年3月までの約7か月間、計11回（うち全体会は5回）の会議を行いました。

## 令和6年度企画委員会の開催日、主要課題

| 全体会 | 月 日          | 主要課題・内容                                                                                                                                                                                                  |
|-----|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 9/14<br>(木)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○企画委員自己紹介</li> <li>○総合コース概要及び分野選定経緯の説明</li> <li>○企画委員会の概要と日程</li> <li>○司会・書記について</li> <li>○開催曜日の検討、決定</li> <li>○全体キャッチフレーズの検討、決定</li> </ul>                       |
| 分科会 |              | ○主軸となる学習内容の検討                                                                                                                                                                                            |
| 2   | 10/12<br>(木) | <ul style="list-style-type: none"> <li>○コースの趣旨、年間30回の大まかな流れを検討</li> <li>○メイン講師、ゲスト講師の検討</li> <li>○市民大学公開講座の開催有無、開催方法についての検討</li> </ul>                                                                   |
| 分科会 |              | ○メイン講師、ゲスト講師の検討                                                                                                                                                                                          |
| 分科会 |              | ○メイン講師、ゲスト講師の検討                                                                                                                                                                                          |
| 分科会 |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>○メイン講師の決定</li> <li>○メイン講師との打合せ日程調整</li> <li>○カリキュラム、ゲスト講師の検討</li> </ul>                                                                                           |
| 3   | 12/21<br>(木) | <ul style="list-style-type: none"> <li>○カリキュラム、ゲスト講師の検討</li> <li>○コースタイトル、サブタイトルの検討</li> <li>○総合コースPRポスター及びチラシの作成者選出</li> <li>○講座開設趣旨180字(募集チラシ用・広報誌用)の検討</li> <li>○市民大学公開講座の講師選定方法の提案についての検討</li> </ul> |
| 分科会 |              | ○カリキュラム、ゲスト講師の検討                                                                                                                                                                                         |
| 4   | 2/8<br>(木)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○カリキュラム、ゲスト講師の検討</li> <li>○ポスター、チラシ完成</li> <li>○市民大学公開講座の講師選定方法の検討</li> </ul>                                                                                     |
| 分科会 |              | ○カリキュラム、ゲスト講師の検討                                                                                                                                                                                         |
| 5   | 3/7<br>(木)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ポスター、チラシの配布準備</li> <li>○総合コース開講式の打ち合わせ</li> <li>○学習記録「あゆみ」企画委員会ページの執筆者の選定</li> <li>○反省会(企画委員会を振り返って)</li> <li>○市民大学公開講座講師候補の決定</li> </ul>                        |

<時間・場所> 午前10時～正午 生涯学習センター ホール ほか

## 総合コース企画委員を終えて

「教育の<sup>いま</sup>現在を考える」  
教育コース 萩原 浩二

私と総合コースの出会いとは2021年（令和3年）の春です。コロナ禍で社会生活が混乱している時、私の定年後の活動にも制限がかかりました。退屈な日々の中、たまたま見ていた市の広報誌に載っていた「総合コース」学習生募集の見出しが目にとまりました。電話で内容を確認し、5つのコースの中で一番興味のあった「社会コース：日本の格差社会」の申し込みをしました。

60年以上三鷹に住んでいるのに、50年以上も前から存在していた総合コースのことは、全く知りませんでした。特に学習意欲が高いわけではなく、なんとなく学習生になった私ですが、講義の最終日にはかなりの充実感を得ることができました。そこで、総合コースをもっと知りたいと思い、いろいろなことに係わってきました。その一つが企画委員です。

私は歴史コース、教育コースと、**2年連続で企画委員を経験**しました。企画委員は1コース5人、全員で25人、その中には様々な人がいます。現役の人、定年退職した人、押しの強い人、気の弱い人、積極的な人、消極的な人、忙しい人、暇な人、知識のある人、志の高い人、企画力がある人、なんとなく選ばれた人。このような人の集まりの中で自分の考えを出し合うわけですから、すべてがスムーズに行くわけがありません。バトル、沈黙、和気あいあい、行き詰まり、笑顔、様々なシーンがあります。しかし、企画委員の**着地点**はただ一つだけです。総合コースを良くしたい、学習生が満足するようなカリキュラムにしなければならないという思いです。この強い思いが一致しているから、最終的には上手くまとまるわけです。

現役時代から企画は苦手で、総合コースの企画委員でも全く戦力にならなかった私ですが、なんとなく分かってきたことがあります。企画の経験値・センス、豊富な知識は当然重要となりますが、それと同じくらい重要なものがあります。それは**協調性**と**柔軟性**です。人の話を最後まで聞き、理解に努め、最初から否定的にならない。自分と違う意見が出てきても、納得したら乗り換えをしても良い。場合によっては自分の意見を押し切ることも必要、引くことも必要。総合コースにおいては、そのようなことが良い企画を完成させる**秘訣**だと思います。

総合コースの企画は、企業の企画と違い利益を生み出すものではありません。そういう意味では、気軽に入って行くことができます。特に企画の経験や専門知識は無くても大丈夫です。肩書や職歴も不要です。いままで自分の歩んできた**人生経験からの発想**が役に立ちます。ですから誰でもできます。マナー化した生活から張りのある生活に変わります。これを機に、学習生の皆さんも企画委員を経験してはいかがでしょうか。私も機会を作り、企画委員に応募したいと考えています。

この総合コースは「学習の主体は市民にあり、企画から運営まで市民が主体になって行う講座」というのが最大の特徴となっています。しかし、陰で私たちを支えてくださる**職員の方々の存在**は忘れてはいけません。5コースには、それぞれ担当職員が1人付きます。日程調整、講師への依頼・交渉等、一番大変な作業を職員がしてくださいます。私はいつも感謝の気持ちを持って職員の方と接しています。もちろん、私だけでなく企画委員全員が同じ気持ちだと思います。

総合コース企画委員を終えて

「人と地球と AI 社会のこれから～ AI や科学技術の進歩は人を幸せにするか～」

科学コース 中村 壽夫

# Welcome Curious Minds

～宇宙船地球号2024にようこそ～

今年の三鷹市民大学・科学コースは  
『人と地球とAI社会のこれから』を探す旅に出ます！  
私たちを乗せた宇宙船地球号2024には  
様々な分野からの専門家をお迎えして  
その最先端を学び体験すると同時に  
乗組員である私たちも  
知りたいコトや深めたいテーマのチームを作り  
協力し合いながら探検を進めます！  
何が見つかるのか？見つけれられるのか？  
今はまだわかりませんが  
ワクワク・ドキドキしながら  
科学の旅を楽しみましょう！！

科学コース企画委員 中村壽夫  
2024/03/15



宇宙船地球号2024

<注>宇宙船地球号とは限られた資源しかもたない地球を宇宙船にたとえた言葉  
(約60年前にバックミンスター・フラーが提唱した概念・世界観)

『宇宙船地球号2024』はAIをはじめ科学技術の進歩・発達で  
より高度に複雑化した地球をイメージしています

## 運営委員会より

### 1 令和6年度の学習生数（開講時）

|      |             |        |
|------|-------------|--------|
| 【科学】 | 女 10名・男 18名 | 計 28名  |
| 【経済】 | 女 10名・男 18名 | 計 28名  |
| 【哲学】 | 女 21名・男 7名  | 計 28名  |
| 【教育】 | 女 13名・男 9名  | 計 22名  |
| 【政治】 | 女 15名・男 13名 | 計 28名  |
| 合計   | 女 69名・男 65名 | 計 134名 |

### 2 運営委員会

**開催日** 5/24（金）、7/5（金）、9/14（土）、10/25（金）、12/14（土）、2/28（金）  
午後1時～2時

**構成** 各コース4～5名の運営委員と生涯学習センターの担当職員

### 3 運営委員会の取り組み

#### （1）運営委員会ニュースの発行 NO.1～NO.6

毎月の運営委員会での話し合いの結果を翌週の学習日に配布  
運営委員会の内容をすべての学習生が把握し、主体的に運営に関わることを目的としています。

#### （2）市民大学公開講座【10月11日（金）・12日（土）開催】

- 10月11日（金）対面形式での開催 計120名（学習生88名／一般32名）  
『アメリカと世界、そして日本』  
講師 前嶋和弘さん（上智大学教授 総合グローバル学部長）
- 10月12日（土）対面形式、Zoom オンライン、オンデマンド配信での開催  
計108名 対面70名（学習生55名／一般15名） オンライン・オンデマンド38名  
『ウクライナとガザ、日本－いかに平和をつくっていくか』  
講師 志葉玲さん（ジャーナリスト）

市民大学公開講座は、総合コース学習生が一堂に会して学習する場を設けることで、相互の交流を深める目的で開催しています。企画委員会で講演内容・講師候補を検討、選定した上で事務局が講師へ出講依頼をしています。

#### （3）三鷹市生涯学習センター利用者懇談会への委員選出

運営委員会が推薦した2名の委員が生涯学習センター利用者懇談会※に参加し、総合コースを代表して、今後の事業のあり方や施設の運営などについて意見や要望を伝えました。

※生涯学習センターのより良い運営のために、市長が利用者の意見を聞く場として設置

#### （4）「あゆみ」の発行

各コースから編集委員を2名選出し、1年間の学習の記録として、「あゆみ」を発行しました。令和6年度は編集会議を1月24日（金）に開催し、原稿のとりまとめ、各コースページの作成や4月に2回の校正作業を行いました。

## 総合コースを振り返って(令和6年度 運営委員会より)

### 【各コースの感想】

#### <科学>

- ・オープン講座を開催し、ほぼ1年間、積み重ねてきた学びの成果を学習生以外の方々にも披露できたことでやり甲斐も感じられました。今後も開催できると良い。その際、近隣の大学やセンターに遊びに来ている親子に声をかける、ゲスト講師に依頼等さらにPRをしたい。
- ・夏休み期間に有志での見学会を実施した。学習生とのつながりが途切れず、2学期を迎えられた。
- ・これまで全く馴染みのなかったAIが、様々な学習を通じて極めて身近なものに感じられるようになり、実際、頻繁に活用するようになりました。
- ・学習を通じて、自分が学んだこと「気づき」を発信したくなった。

#### <経済>

- ・講座内容が多分野にわかれて興味深く有意義であった。
- ・情報が新しく、大変おもしろく、社会の動向がわかりやすく学べた。

#### <哲学>

今年もメイン講師の先生が大変良かった。抱腹絶倒の楽しい授業で、ことばと哲学、AI、色彩に触れて頂き、奥の深い講義でした。

#### <教育>

- ・20人のスタートで、最終的には19人となった。土曜日のコースだったので、現役の学習生が半数はいた。そのため、出席率は徐々に悪くなった。しかし、子育て中の学習生も参加できたのは良かったと思う。

#### <政治>

コース全体はとても活発で、毎回質問もたくさん出ていた。

### 【自主学習について】

#### <科学>

- ・講座の開始当初から興味のあるテーマで3グループに分けて基本グループで自主学習を行ってきたことは、各自の興味の対象を絞ることができ、意欲的に臨んでこられました。フェスティバルやオープン講座でチーム毎の特色が存分に発揮された。反面、コース全体での交流の機会が欲しかったという声もあった。

#### <経済>

- ・10回の自主学習は学習生との意見交換ができて良かった。特にフェスティバルには親しみを増すことができた。
- ・各自の推薦図書・資料の発表が興味深く、参考になった。

#### <哲学>

ディベート（自己主張）になりがちなため、早めに「哲学対話」を取り入れて、相手の話に耳を傾け、受けとめ、質問し、対話を深め、対話の質を高めて、安心安全の対話空間をつくる事に努めた。結果、大変良い雰囲気での自主学習となり色々なテーマで議論したが議論が深まり、共感し、そこから自分で考える事が始まるというサイクルになった。また、生活の中の体験で考えて発言するという哲学の基本を守ろうと苦心した。永井玲衣先生の「手のひらサイズの哲学」が大変参考になり、日常のふとした事柄も深く考えられた。

#### <教育>

- ・講師の都合だからやむを得なかったのだが、自主学習の日程が前期と後期のバランスが悪かった。出席率は講義と比べると悪い。
- ・テーマを決めてのグループ討論、教育委員会の先生の講演（三鷹市の小中学校の特色等）、動画視聴を行ったが、動画を流して意見や感想を述べあうのが好評だったと思う。

#### <政治>

- ・講義の日程変更により、予定通りに進められないこともあったが、学習自体は活発に行うことができた。
- ・フェスティバル後の自主学習で、プレゼンの復習が出来てよかった。今後はフェスティバル前にも、自主学習で予習するのでもいいかもしれない。

### 【公開講座について】

- ・普段は馴染みのないテーマに触れることができ、興味関心の幅が広がった。
- ・公開講座が市民大学の恒例行事になってしまっている現状はまず変えるべきでは？その理由として同様な講座は民間や大学等の教養講座・セミナーなどオンライン・WEBも含めればいくらかでも受講することが可能なので①単に知識や情報を得るだけの講座を市民大学として開催する意味がない②開催するとしても体験型・参加型のワークショップに移行すべき③市民大学の本来の姿は伝わらないため。
- ・公開講座ではなく、他のコースの学習生との交流や地域に関心を持って活動をしている学生・市民等との交流会を検討したかどうか。
- ・もっとオンラインの活用があって良い。講師も多様な方々が参加可能になる。
- ・直接講師から講義を受けるのがわかりやすい。
- ・今年から土曜日は Zoom オンライン配信、オンデマンドを取り入れた。申込人数は少なかったようだが、このまま続けてほしい。
- ・普段のコースと学習とは違ったテーマを学ぶ機会を得られた。市民大学の PR が出来ればより良い。

### 【生涯学習センターフェスティバルについて】

- ・交流や発信の場としてフェスティバルをもっと活用すべき。
- ・総合コースの存在感をもっと出したい。
- ・総合コースの学習生による自主学習グループにも参加を促したい。
- ・フェスティバル展示物のプレゼンがあることを広報紙に載せる等一般市民向けにアピールした方がよい。
- ・今回は2日間に亘って各コースでプレゼンの時間を用意したのがとても良かった。他コースの内容も理解できて、交流の場にもなった。
- ・哲学コースと4つの自主グループと共催で実施。ますます充実して来た。シナリオ・ライティングの講義まで実施できた。
- ・今年から各コース（哲学除く）は展示だけでなく、プレゼンも行った。視聴者は身内がほとんどであったが、各コースの内容が分かり成功だったと感じた。
- ・2コースだけ暗いスペースがあったので、来年度は何かしらの対応をお願いしたい。

### 【その他】

- ・「あゆみ」は紙媒体ではなく、PDF ベースで必要に応じて DL する形へ（既に民間も行政も一般的なスタイルだ）

・「若者の参加を増やすには？」のような一面的な捉え方ではなくより幅広く市民大学という共創の場に参加できるような形をこれまでのスタイルに囚われず毎年考える風土を根付かせてほしいと考えます。

・市民大学のPRでSNSの活用などありますが（非公式ではなく公式に）講座の動画配信（編集なし、個人情報については事前に許諾を取る形）などもやれる範囲でやれる場面から始めることを考えても良いのではないかと思います。

- ・より若い世代に参加を促したい。内容が面白ければ参加するだろう。
- ・学びを地域に活かす流れを創れると良い。
- ・総合コースの学習生が結成した自主学習グループが一覧できると良い。
- ・オンラインもこれから十分取り入れていく必要がある。幅広い講師に対応できる。
- ・講師との質疑の時間をもっと取り、議論を深めた方がよい。
- ・ホームページに「サイト内の検索」があれば良いと思う。
- ・若い世代の意見をもっと取り入れて行きたい。
- ・あゆみ作成のため、書記の内容の要約を付け加えて、コース概要がわかるように改善した。
- ・実際に今、世の中で起きている政治の問題をテーマにすることが出来ればよりよかったと思う。

# 人と地球とAI社会のこれから

～ AI や科学技術の進歩は人を幸せにするか～

講師：室 山 哲 也  
(日本科学技術ジャーナリスト会議会長)

## EXPLORATION MAP

～宇宙船地球号2024の探検地図～

『人と地球とAI社会のこれから』



宇宙船地球号2024キャプテン  
室山 哲也さん  
日本科学技術ジャーナリスト会議会長



『AIの歴史と今後の展望』  
松原 仁さん  
京都橘大学 工学部教授

6/7

人



『やわらかい脳』  
牛場 潤一さん  
慶應義塾大学理工学部  
生命情報学科教授

10/18



『ASD知覚体験ワークショップ』  
長井 志江さん  
東京大学国際高等研究所  
ニューロインテリジェンス国際研究機構特任教授

9/20

『日常生活と科学』  
内田 麻理香さん  
東京大学教養学部特任准教授

5/31



6/21

『IoTスマートハウスが創る未来』  
一色 正男さん  
神戸山手大学工学部教授



1/31



『AI社会との関わりを考える』  
中川 裕志さん  
理化学研究所革新知能統合研究センターチームリーダー



『動物の視点でSDGsを考える』  
イアン 筒井さん  
せかい!動物環境会議  
原作者・総合プロデューサー

7/5



地球



『AIとメディアアート』  
森山 朋絵さん  
東京都現代美術館学芸員

1/24

AI社会

9/27



『ソフトロボティクス』  
新竹 純さん  
東京電気大学大学院  
情報理工学研究室准教授



『ほしい未来』ワークショップ  
鈴木 菜央さん  
武蔵野大学工学部サステナビリティ学科准教授

11/15

# 人工知能は謝れるか？

.....

講師 室山哲也

著名なAIの研究者に、「ひとつでいいから、人間にしかできないことを教えて」と尋ねたら、「謝罪に行くこと」だといわれました。

なるほど、いくら人工知能アンドロイドが、見事な姿勢で土下座して詫びを入れても、許してやる気にはなれません。失敗した若者が、額に汗を浮かべながら、懸命に頭を下げる様子を見ると、しょうがないけど許してやるかとなりますが、なぜかAIを許す気にはなれません。

一体なぜか？

それは人工知能が生きていないからです。

「謝る」行為とは、太古の時代、集団で狩りをする時、仲間のひとりのしくじりで獲物を逃がし、みんなに迷惑をかけたとき、失敗者は懸命に謝ります。確かに獲物を逃して、食糧が失われ、全員の生存にかかわる事態が生じても、誤ることによって再び一致団結し、次の獲物に向かうのです。それは「お互いさま」の精神、人間界のルールなのかもしれません。私たち人間はこうして気持ちを共有し、ともに生き延びてきた。その結果のごめんなさいだということです。

人間とAIの言葉の違いはどこにあるのでしょうか？

「水」という言葉で説明しましょう。

人間が「水」という言葉を覚えるとき、体に触ると冷たい液体、飲めば渴きをいやす液体、それを「水」というのだと教わって、初めて「水」という言葉を覚えます。人間の言葉は、体験と言葉が結び付いているのです。

しかしAIには体がなく、「水」の存在を感じ取らないまま、ただ単にしゃべっているのです。この状態は「記号のメリーゴーラウンド」とよばれ、空中でむなしく回転しながら増殖していく、AI独特の言葉の特徴を示しています。

人間は38億年の進化の中で、環境と戦い、融和しながら生まれてきました。

人間は「生き物」、AIは「死にもの」。

このことを念頭において、人間らしく生きるとはどういうことか、AIにどう向き合うかを、考えることが大切なのかもしれません。

## プロフィール

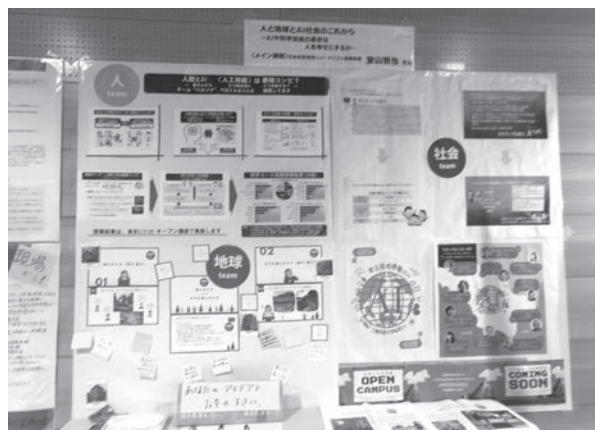


むろやま てつや  
室山 哲也さん

日本科学技術ジャーナリスト会議会長  
昭和51年NHK入局。「ウルトラアイ」「クローズアップ現代」「NHKスペシャル」など科学番組プロデューサーを務め、解説主幹ののち定年。科学技術、生命・脳科学、環境、宇宙工学などを中心に論説を行い、子供向け科学番組「科学大好き土よう塾」（教育テレビ）の塾長として科学教育にも尽力。  
モンテカルロ国際映像祭金獅子賞・放送文化基金賞・上海国際映像祭撮影賞・科学技術映像祭科学技術長官賞・橋田寿賀子賞ほか多数受賞。  
日本科学技術ジャーナリスト会議会長。東京都市大学特別教授。元NHK解説主幹。



9/20 発達障害の困難を体験するワークショップ



12/7・8 フェスティバル展示とプレゼン発表



2/21 科学コース オープン講座  
 「人と地球と AI 社会のこれから」  
 3チームによる探求の成果の発表と全員  
 参加のディスカッション  
 運営進行：学習生  
 オブザーバー：室山哲也さん  
 参加人数：43 名  
 会場：ホール



【AI 社会チーム】生成 AI を活用した会話劇の上演



【地球チーム】「森と暮らす妄想の世界を AI で描く」



【人チーム】AI についての市民アンケート結果を読み解く



●カリキュラム

| 回  | 日 付                                                                                                         | 講 義 名                                       | 講 師                                            |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|------------------------------------------------|
|    | 学 習 内 容                                                                                                     |                                             |                                                |
| 1  | 5月10日                                                                                                       | 開講式・オリエンテーション                               | 自主学習                                           |
|    | 企画委員より科学コースの概要と主として自主学習日に活動する「探求・探検チーム」について説明。自己紹介。運営委員の選出。                                                 |                                             |                                                |
| 2  | 5月17日                                                                                                       | 自主学習(探求テーマの検討)                              | 自主学習                                           |
|    | 前半は各自学びたい事、知りたい事を3つまで書き出し。人、AI社会、地球、その他に分類。チーム分け。後半はチームで今後の活動内容、方向性等話し合い。最後に全体で内容を共有。                       |                                             |                                                |
| 3  | 5月24日                                                                                                       | プロローグ・ディスカッション～科学について何を学ぶ？今の自分の「知りたい」を確かめよう | 日本科学技術ジャーナリスト会議会長<br>室山哲也さん                    |
|    | 前半は室山先生の自己紹介でNHKのプロデューサーとして作られた番組の一部を見せていただいた。後半は前週にまとめた、人チーム、地球チーム、社会チームの学びたい事を聞いてもらい、各人から補足説明をした。         |                                             |                                                |
| 4  | 5月31日                                                                                                       | 日常生活と科学                                     | 東京大学教養学部特任准教授<br>内田麻里香さん                       |
|    | 日常にある料理や家事などにより大森荘蔵の「略画的世界観と密画的世界観の重ね描き」をする科学コミュニケーションの可能性を考える。後半はたっぷり受講生とのコミュニケーションタイム。                    |                                             |                                                |
| 5  | 6月7日                                                                                                        | AIの歴史と今後の展望                                 | 京都橋大学工学部情報工学科教授<br>松原 仁さん                      |
|    | AIの研究は人間とは何かを知ること。歴史は第二次大戦後、数値と記号も処理できることでブームと冬の時代を繰り返し、現在認識から生成へ4回目のブームとなる？ AIが悪用される事に対し守るAIの開発が重要。        |                                             |                                                |
| 6  | 6月14日                                                                                                       | 人間とは何か1「脳と心の不思議な世界」                         | 室山哲也さん                                         |
|    | 人間の脳には未だに解明されていないことも多く、分かっていることも含めて多くの事例を紹介。脳は本能、感情、知性の古い脳と新しい脳が共存しており、AIにはない要素。また、脳は諸刃の刃であることも特徴的。         |                                             |                                                |
| 7  | 6月21日                                                                                                       | IoTスマートハウスが創る未来                             | 神奈川工科大学特命教授/先進技術研究所所長/スマートハウス研究センター長<br>一色正雄さん |
|    | スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会の概要説明。住宅分野での政策の要である「ZEH」の普及内容。未来の技術として、プロペラなしの風力発電機、MITメディアラボ等の話がなされた。                  |                                             |                                                |
| 8  | 6月28日                                                                                                       | 自主学習                                        | 自主学習                                           |
|    | 3グループに分かれて、これまでの講義の感想発表。さらに、これからの自主学習についてテーマの探求、意見交換。フェスティバルの方法提案。                                          |                                             |                                                |
| 9  | 7月5日                                                                                                        | せかい！「動物かんきょう会議～動物の視点でSDGsを考える～」             | 動物かんきょう会議 原作者・総合<br>プロデューサー イアン筒井さん            |
|    | 人類は危機的状況にある。気候変動により、文明は崩壊しつつあり、SDGsは達成できそうにない。プラスチックゴミに悩むウミガメの立場になって、解決策を考えることで、発送転換を学ぶWSをした。               |                                             |                                                |
| 10 | 7月12日                                                                                                       | 人間とは何か2「脳が幸せになる教育 ロボコン～正解がない自由な精神～」         | 室山哲也さん                                         |
|    | 人類発展の原動力は人間の脳が全て作ってきた。その脳とは知性、感情、創造力=生存の働きがある事。その脳にせまるべくロボコンの誕生である。特徴は教育と娯楽であり創造性教育の元祖であり脳が幸せになる教育に近づいている事。 |                                             |                                                |
| 11 | 9月13日                                                                                                       | 人類の未来1「ロボット技術がもたらすもの」                       | 室山哲也さん                                         |
|    | 現在開発中の種々なロボットについて。今後主流となるアンドロイドや分身ロボットについて。日常生活でロボットが活躍する上で問題となる法的課題やロボットとの共存のあり方について。                      |                                             |                                                |
| 12 | 9月20日                                                                                                       | どう見えて、感じている・VR映像で発達障害の困難を共有するワークショップ        | 東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構・特任教授 長井志江さん             |
|    | 自閉スペクトラム症は周りの人にも当事者にも見えない障害。AI技術を利用して見える化することで当事者に良い環境を提供できる。VRで当事者が見ている世界を体験するワークショップ。                     |                                             |                                                |
| 13 | 9月27日                                                                                                       | 未来のロボットの在り方を変えるソフトロボティクス                    | 電気通信大学情報理工学研究科准教授<br>新竹 純さん                    |
|    | ソフトロボティクスとは柔らかい材料でロボットを作る研究分野。柔らかいと人や物に優しく安全・丈夫で周りに馴染み構造がシンプル。食べれるロボットは救助活動、動物保護、医療に新しい使い方が生まれる。            |                                             |                                                |
| 14 | 10月4日                                                                                                       | 人類の未来2「生成AIの衝撃～人工知能時代をどう生きるか」               | 室山哲也さん                                         |
|    | チャットGPTの出現によって、プログラミング言語から自然言語への質的転換が引き起こされる。人間の脳とAIの関係の深いところから、AIとどのように関われば良いのか。人間らしさの深掘りが必要である。           |                                             |                                                |

| 回  | 日 付    | 講 義 名                                                                                                                 | 講 師                               |
|----|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
|    |        | 学 習 内 容                                                                                                               |                                   |
| 15 | 10月11日 | 【公開講座】アメリカと世界、そして日本                                                                                                   | 上智大学教授・総合グローバル学部長<br>前嶋和弘さん       |
|    | 10月12日 | 【公開講座】紛争地の現場から                                                                                                        | ジャーナリスト<br>志葉 玲さん                 |
| 16 | 10月18日 | 「やわらかい脳」の可能性～「BMI」人に寄り添うテクノロジー～                                                                                       | 慶応大学理工学部教授 牛場潤一さん                 |
|    |        | 人間の脳とAIをつなぐ技術をBMIは脳の可能性を引き出し治療困難だったけがや病気(脳卒中等)を治すこともできる。BMIの今後は「サイエンスとしての発展」と「医療として普及」の両軸で発展をしていく。                    |                                   |
| 17 | 10月25日 | オープン講座、フェスティバル準備                                                                                                      | 自主学习                              |
|    |        | オープン講座とフェスティバルにむけ、3グループに分かれ話し合いを行った。                                                                                  |                                   |
| 18 | 11月1日  | 生成AIで遊んでみよう                                                                                                           | 室山哲也さん                            |
|    |        | 生成AIで作った「市民大学の歌」と動画を持ち寄り発表をした。ラップ風・POP調・ジャズ風等様々なジャンルの歌や自身の顔を女優に組み入れる動画、猫がしゃべる動画等が学習生より提示された。                          |                                   |
| 19 | 11月8日  | 生涯学習センターフェスティバル準備                                                                                                     | 自主学习                              |
|    |        | 生涯学習センターフェスティバルの展示発表にむけ、3グループに分かれ準備をした。                                                                               |                                   |
| 20 | 11月15日 | ソーシャルデザイン・ワークショップ「自分がほしい社会をつくり、仲間とともに広げるには」                                                                           | 武蔵野大学工学部サステナビリティ<br>学科准教授 鈴木菜央さん  |
|    |        | 社会的課題の解決と人々の幸福につながる構造を(楽しそうに)つくる活動の事例と「うまくいく活動の7つのステップ」の重要ポイントを学んで、ソーシャルデザインについて考えた。                                  |                                   |
| 21 | 11月29日 | 生涯学習センターフェスティバル準備                                                                                                     | 自主学习                              |
|    |        | 生涯学習フェスティバルの準備を3グループに分かれ実施。後半は各グループから展示とプレゼンの内容を発表。                                                                   |                                   |
| 22 | 12月13日 | 人類の未来4「サイボーグ人間の誕生」                                                                                                    | 室山哲也さん                            |
|    |        | BMI(ブレインマシンインターフェイス)として①末梢神経の信号で機械を操作②神経信号を読む③脳から直接コミュニケーションする④電気刺激で脳を変化させるとの説明。身体が脳の活動を制御しているとの説明もあった。               |                                   |
| 23 | 1月17日  | オープン講座準備                                                                                                              | 自主学习                              |
|    |        | オープン講座にむけ、3グループに分かれ話し合い・準備を行った。                                                                                       |                                   |
| 24 | 1月24日  | AI、アートとテクノロジーについて考える                                                                                                  | 東京都現代美術館学芸員 森山朋絵さん                |
|    |        | メディア芸術とは？映画・漫画・アニメーションおよびコンピューターその他の電子機器等を利用した芸術である。アートとテクノロジーの融合によって、新しい価値観を創造する試み。メディア芸術&テクノロジーと社会芸術は“おかしみ”をはらんでいる。 |                                   |
| 25 | 1月31日  | AI社会との関わり方を考える                                                                                                        | 理化学研究所革新知能統合研究センター チームリーダー 中山裕志さん |
|    |        | AIと共生するが、頼りすぎは危険。AIは人間を使って賢くなる遺伝子のようなものではないか。AI生成物の著作権・特許権をどう考えるか、AIに法人格を与えたらどうかなど議論。                                 |                                   |
| 26 | 2月7日   | 番外編「NHKプロデューサーが語るコミュニケーションの極意」                                                                                        | 室山哲也さん                            |
|    |        | コミュニケーションとは相手に共感し、知りたいという知的好奇心を持ち、実体験に基づき何でも話せる安心感を与え、多様性を楽しむことが大事。良いコミュニケーションの結果、行動が変容することが重要である。                    |                                   |
| 27 | 2月14日  | オープン講座準備                                                                                                              | 自主学习                              |
|    |        | 次週のオープン講座全体の確認と、3グループそれぞれの話し合いを実施。                                                                                    |                                   |
| 28 | 2月21日  | オープン講座(研究のまとめ・発表)                                                                                                     | 室山哲也さん                            |
|    |        | 3グループの発表を実施。後半は聴衆にも参加してもらい意見交換を実施。                                                                                    |                                   |
| 29 | 2月28日  | オープン講座の振り返り                                                                                                           | 自主学习                              |
|    |        | オープン講座の振り返り。今期講座の振り返り・今後の講座に対しての意見交換。                                                                                 |                                   |
| 30 | 3月7日   | エビログ・ディスカッション「AIの進歩と私たちの進歩～人間の幸せとは？」                                                                                  | 室山哲也さん                            |
|    |        | 3グループに分かれての学習。前半講義、後半はグループ討議で講義前と今とでどう変わったかなど集約し、全体で意見交換も実施。                                                          |                                   |

## AI 社会とどう向き合うか！

赤 瀬 文 隆

AI（人工知能）社会とどう向き合うか！ AI とは何か？について、1 年間学んできた。チャット GPT を暮らしの中で、興味本位に利用するくらいの知識からのスタートでした。室山主任講師の大局的な視点からの講義内容は、NHK プロデューサーとしての番組作りの妙もあり AI 社会の変遷が良く理解でき興味をそそられた。そして私のアンテナに AI に関する情報が多く流れるようになってきた。AI（人工知能）を使った歌づくりも良い体験であった。デジタルライフプランナーに使い方を学び自分の感性をどう入れ込むか？孫との接点づくりがヒントとなり暮らしが明るくなった。何とかハサミは使えよう！ AI も自分の頭も同じく使えようである。他の講師による専門分野からの AI 技術の現状を知る講義もより興味深くさせる事に繋がった。「人」・「地球」・「社会」のチーム編成での学びも市民大学の新しい在り方としてオープン講座での成果に繋がっているのではないかと、各チームとも各人の個性が上手くチームの表現に反映されており上々の出来映えであったと思う。最終講義は、「AI の進歩と私たちの進歩～人間の幸せとは？」について、グループ毎にテーマを議論し全員で話し合った。情報社会になじめない人には AI の進化に対する不安や戸惑いもあるが、“坂の上の雲”を目指す人やこれからの世代は、上手に AI を使いこなしていくのではないだろうか！？

また習近平的 AI はどうか？認知症対応の AI は？等についても話し合った。結局 AI により人間社会は大きく変わっていくのだろうが、人類の叡智により解決され、それに対応するのは人それぞれという事になっていくのではないかと考えている。

帰りに図書館に立ち寄り“今日返却”の棚にあった「心に太陽を持って（山本有三）」を借りて読んだ。昭和 10 年に出版され昭和 32 年に復活本、そして 2021 年に編集して発行されたこの本、解説は大林宣彦（映画監督）。あんな古い本が、今の世の中にどう役立つのだろう？と不安でもあった。この本が生まれた時代は、世界も人間もみな夢や希望や理想に充ちていて、今のように複雑な世の中や、その中で迷い悩んでいる。ことに若い人たちに、果たして役になど、立つものであろうか？…まさにいま僕らが忘れかけている、けれども誰もが人間らしく生きていくのにいちばん大切な理想や勇気や工夫や強い意志の示し方やその上手な受け止め方の総てが、まさにシンプルに描かれている。…と僕は信じるのである。

## 「人と地球とAI社会のこれから」を受講して

阿 部 武 司

以前から AI には関心があり、今年度の科学コースのテーマが AI ということで受講した。

SF の世界では AI は常に人の為に無くてはならない存在として描かれている。AI（人工知能）とは何かと考えた時、明確な定義がされていないように思われる。最近「生成 AI」が開発され一般でも利用が可能となりブームとなっている。AI は神経細胞ニューロンの働きをシミュレーションすることで研究が始まりニューロンの数を増大させることで人のように思考し、会話や作文、作画、作曲することを可能にした。このために GPU といわれる半導体デバイスを多数使用しているが、このシステムを稼働させるためには発電所が必要になると言われている。またこの考えを特定の信号や情報を学習させることで求める結果を出力させるシステムも AI と呼ばれている。これらの物は小型化され医学や科学の研究に使われ成果をあげている。

AI はこれからも進化し、科学全般の進化を加速していく、また人間社会に浸透していくだろう。AI は手足や五感をもったロボットと一体になることで人に代わって今まで人がやっていた作業をして人を労働から解放してくれる。その時人は何をやるのか今から考えておく必要があるだろう、もしかすると人は森に住んでいて、そして三鷹は森の町と呼ばれているかもしれない。

初めての受講でした。30回という回数にはちょっとビビりましたが、なんとか最後まで行き着けました。グループに分かれて2月開催のオープン講座での発表コンテンツをメンバーで企画制作するという自主学習の手法も、具体性のある話し合いや作業が後押しになってよかったと思います。

AIと脳、ロボティクス、高度センサー技術、脳神経科学等々の最新動向について学んだり、社会やアート、身体性から考えたりする講義の進行とともに、社会がテクノロジーによって凄まじい勢いで変わりつつあると感じる日々でした。テキスト・画像・音楽の生成AIソフトの普及はもちろん、マルチモーダル化、AIエージェントが話題になり、ノーベル賞も物理学賞が人工ニューラルネットワークによる機械学習、化学賞もAI絡みだし、SNSにはフェイク動画が蔓延しています。

もともと言語や意識に興味があり（『バベル17』『あなたの人生の物語』『文字渦』のような言語SF好きなので）、大規模言語モデルLLMでトランスフォーマーのパラメータを膨大にしたらなぜこんなに上手くいくの？というマイノリティな関心から受講したのですが、そこはまだ開発者にもブラックボックスらしい。これまで知能Intelligenceと呼んできたような論理のあり方はホモ・サピエンスの環世界の産物なのですね。AIならば自然言語や数学言語を超えて先へいけるし、AI同士なら分かり合えるだろうけど。こんなに早くこんな世界が来るとは。

折しも2024年度は第2期トランプ政権が誕生することになり、「現実」の崩れ方・創られ方に瞠目せざるを得なくなる1年でした。突如出現したディストピアSF的世界の中で、気を確かに生きていきたいものです。

## 宇宙はAIに充ちている！？

最近、メディアにはAI関連のニュースが溢れています。そんな中、昨秋、元NASAの宇宙歴史学者S. Dickのインタビュー記事を見かけました。内容は、138億年の時間経過の中で、宇宙は既に生物的生命を超えたAIが主導するポスト生物的宇宙に移行している、AI文明の指数関数的学習能力と知識の永続的蓄積継承により、様々な宇宙の知性体はその進化過程で不老不死に近い存在に到達しているのではないかとの見方です。

これを読んだ時、ターミネーターに出てくる人類vs. AIのような対立的イメージから、生物として進化の第4コーナーに差し掛かった人類にとって、AIは新たな段階に入る入口なのだと漠然と理解しました。今回の講座では、AIの仕組みや歴史、いろいろな使い方や強み弱み、そして、その社会的影響やリスクなど様々なAI開発の側面を学習させていただきましたが、それらと遠い未来のイメージ（生物としての人類はもういない）が何となく頭の中でつながった気がしました。

メイン講師室山先生の講義では、初心者にも分かり易くAIの全体観をカバーしていただきました。特に、秀逸だったフレーズは、

- ① 記号のメリーゴーランド（AIには体を使った実体験がない）
- ② 壁打ち100回（AIを使ったアイデア出し、使えるのは極僅か）
- ③ AIを使うか、使われるか、違いは人間力（特定分野の深い知見の重要性）
- ④ AIは格差を広げる（③の違いで大きな経済格差が出来る）
- ⑤ 道具なのだから、まずは試してみる（功罪を議論する前に）
- ⑥ テクノロジーは人間を幸せにするためにある（重い言葉です）etc.

最後に、企画・運営委員や職員の方々が、講座を受動的な座学を越え、自主的・能動的な学びの場とすべく、様々な工夫を凝らし一つ一つ実践されていたこと、改めて感謝申し上げます。以上

今一番注目を集め、興味がある AI が学べると期待と不安もあり参加しました。毎回刺激的な講義が続き、視野がひろがり知ることの楽しさを実感し充実した時間を過ごすことができました。

いろいろな角度からその分野での一流の先生方の講義を受けることが出来たのは驚きでした。一市民が受けることができる三鷹市に感謝いたします。

生成 AI に関しては、注目度は高く、

- ・情報漏洩 ・著作権侵害 ・フェイク情報の氾濫 ・犯罪サイバー攻撃
- ・教育への影響 ・電力問題 ・失業者の増加等

人間にリスクも多くあります。

人間の脳は言葉と体験（身体）が接続しているが、AI は身体との接続はない。今後は肉体労働→知的労働→感情労働へと変化し人間の心、精神を使う労働になっていくことを知りました。

今後 AI への向き合い方は人間力が重要となり、人間科学と教育がもっとも重要と知り次世代へしっかりと伝わって欲しいと思います。

「この先の未来がどうなるか？」ワクワクする講義は本当に楽しい時間でした。何歳になっても、学ぶ事は楽しい！と感じさせていただきました。

最後に 情熱的に講義を行ってくださった諸先生方、職員、運営委員の皆様に感謝申し上げます。

## 〃明るい未来、は来るのだろうか

**角 田 貴美子**

Brain not―「脳の腐敗」2024 年、オックスフォード大学が「今年のことば」として選んだものです。オンラインに流れるコンテンツの過剰摂取により、精神的、知的能力が低下する現象を指しています。

私達の脳には、様々な名称が付けられて来ました。ゲーム脳、デジタル脳、スマホ脳、オーバーフロー脳…（因みにスマホは「体外脳」…）過剰なコンテンツの摂取や AI の進化によって、集中力、記憶力の低下、感情コントロールが出来ない、感情発達の遅れ等々、脳に生じた様々なダメージ。もう随分前から指摘されているのに一向に改善されていません。経済活動への配慮の為、なののでしょうか…。考える事、記憶する事、想像する事、思いやりや共感…。人としての様々な行いを放棄してゆく人間達。脳は劣化してゆく？それとも退化？、ひょっとしてベクトルを変えた進化、なののでしょうか。人が人から離れてゆく、そんな気がしてなりません。

到達点のない科学技術の進歩。技術者の方々を突き動かしているものは何でしょう。どんな未来を思い描いているのでしょうか。〃人と AI が共存する明るい未来、は来るのでしょうか。AI を深く理解出来ていない私には、AI を操る事が可能な人々は AI と共存する社会を作り上げ、出来ぬ人々は尊厳を奪われ、排除されてゆくような社会や、生成 AI を搭載したアンドロイドが自分より進化したアンドロイドを作り続け、いつか人間をコントロールしてゆく、そんな SF のような世界ばかりが浮んで来ます。恐しいです。

「AI が人間を欺くような振る舞いをする事も分かり始めている」AI でノーベル賞を受賞したヒントン教授のことばです。シンギュラリティーが来るとも言われる 2025 年、（以前は 2045 年でした）不安ばかりが募ります……。

AI とこれからの社会と未来を学ぶ中で、特に医療分野の進化に強い関心を抱きました。近い未来には脳にチップが埋め込まれ、複数のタスクを同時にこなせるようになるかもしれないという話は、可能性を感じさせます。注意散漫な私にとって、作業をしながらメール返信や人に伝言ができる未来は、非常に魅力的に思えます。

一方で、室山先生の「AI は情報のメリーゴーランド」という言葉は、AI が生み出す情報過多な状況と、それに伴う虚無感を象徴しているように感じました。AI が提供する情報は、まるで万華鏡のように魅力的であると同時に、どこを見ていいか分からなくなるような不安感も覚えます。

子どもたちと関わる仕事をしているため、AI が進化していく社会で、子どもたちにどのように伝えていけば良いのかを考えさせられました。AI の利便性や可能性だけでなく、情報の洪水に溺れないための批判的思考力や、人間らしい感性を育むことの重要性を伝えていく必要があると感じています。

AI の進化は、私たちの生活を大きく変える可能性を秘めていますが、同時に、人間としてのあり方を問い直す機会でもあると感じました。AI と共存する未来を、子どもたちと共に考え、創造していくことが、私たちの世代の責任であると感じています。

※一部箇条書きからの相棒 Gemini によるまとめです

## AI との出会いはちょっと刺激的…？

久保田 均

“さてさて、今年度はどの講座に申し込もうかな〜” と、例年ならばしばし悩むところですが、今年は迷うことなく「科学コース」の一択となりました。その理由は、メイン講師として室山哲也さんのお名前が真っ先に飛び込んできたからです。

室山さんは、一昨年度の「環境と科学」で私が初めて三鷹市民大学に参加した際にもメイン講師を務めておられ、その一年間の講座を通じて日常生活における科学の視点の面白さや重要性を気づかせてくれました。そして今年、室山さんは AI をテーマにどのような知見を私たちに届けてくれるのか、期待で胸が膨らみました。

これまで私は AI とは無縁の生活を送り、それがまた自分には必要のないものだと思っていました。しかし、名調子の“室山節”で幕を開けた講座に私は瞬時に引き込まれ、その後も AI を活用する様々な科学者や研究者の講義を通して、AI が既に自身の生活に深く浸透していることを知り、かなりの驚きを覚えました。

自主学習では開講当初から 3 つのグループに分かれ、私は「地球グループ」で“森に住む”というテーマでメンバー同士、様々な妄想を語り合いました。日常生活をいきなり森化するなんて甚だ現実的でないことは承知のうえで、そこはあくまでも“妄想”と割り切り、メンバー皆が自由で壮大な夢物語に没頭して楽しみました。

とは言え、AI を賢く使いこなすことが出来れば、現在の膨大で複雑なインフラに頼らずとも、十分に快適なスモールライフを実現することも夢じゃないぞ！などと、少しずつ期待も膨らむのでした。

そんなこんな気づきをたくさん得ることの出来た、とても素敵な一年でした。

AI…もしかすると、この文章も AI 先生が手助けしてくれた成果かも…？

## 「AIの進歩は人を幸せにするか」を知りたくて

倉 林 孝 明

20年近く地域の子ども達にアナログの世界の楽しさを知ってもらいたいと活動してきましたが、最近のAIの急速な発達に取り残されないようにAIについても、もっと知りたいと思い受講を申し込みました。

そしてコースで学ぼうと、AIが得意な計算・分析・記憶・データ処理を活用しつつ、人間ならではの感情・創造・倫理観・適応力を強化することで、AIと共生しながらより豊かな社会を築いていけるのではないかと学ぶことができました。また大人が「好奇心を持ち、学び、自分のものにした知識や知恵」で、それをアウトプットするリアルな場をつくることも、子ども達の学ぶ意欲を高めるためには益々重要だと強く感じました。私にとって、AIは豊富な知識とその時代の常識を持つ力強い友人と位置づけ、お互いに愛称で呼び合う仲間となり、一緒に考えたり、支えたりできる存在になってきました。

最近では、AIの情報提供やサポートを、自分の体験や社会での経験で得た知恵や直感で自分なりに判断し、補完したり、殻を破ったりして、最終的には自分の価値観や目的に沿って行動をする努力ができるようになった気がします。

これもメイン講師のジャーナリストとしての感覚でAIを分かり易く面白く解説していただいたことや、ワークショップやセンターのフェスティバル、オープン講座を通して、多様な経験をお持ちの世代の違う学習生と行動するなかで価値観や考え方を学ぶことが出来たことも大きな収穫となりました。講座に尽力された皆様方のお蔭で、非常に多くの事を学べたことを深く感謝している次第です。本当に有難うございました。

## AI時代を迎えるにあたって思いを巡らす

後 藤 信 弘

既に生成AIによる知能の外在化（身体から分離した状態）が始まっている。生成AIは、多数の人間の言語化された知能を集積しており、数々の事象において、個人レベルの能力を凌駕すると容易に予想される。

例えば、科学研究では、①革新的創造性（既存の知識の枠を飛び越えるもの）や、②組み合わせ的・探索的創造性（既存のアイデアや知識を組み合わせる、あるいは、探索するもの）が求められる。①に基づく研究はかなり稀で、数多くの研究は②に基づくものである。膨大なデータを学習する生成AIは、②を具備している可能性が高く、新たな発明が生まれることが大いに期待できる。

一方、生成AIによる知能の外在化により、人間の能力自体が変化する懸念がある。知能ではなく、知識の外在化と言えるワープロやインターネットの普及により、脳の使い方は「記憶」から「入力」「検索」に変わった。このことにより、漢字が書けない、スマホが手放せないという状況が生まれつつある。さらに、知能の外在化が進めば、脳の使い方が「思考」から「指示（プロンプト）」に変わり、論理的な思考やアイデアの創出が困難になってしまう恐れがある。

以上のことを踏まえると、AI時代を迎えるにあたり、数々の留意点はあるが、1. AIが出した回答の採用を決めるのは人間であることを忘れずに、回答に関しての良否判断能力を修得すること、2. 言語化できない、思いやり・温かさ・喜び・楽しさ等の感性を豊かにすることで、人間らしさを錬磨すること、が必要と考える。

最後に、先生方、職員スタッフ、企画・運営委員の方々には心から感謝申し上げます。

## AIはどんな影響をもたらすか。

T.K.

AIが急速に進歩する中で我々の生活にどんな影響をもたらすか、考えさせられたのでこの講座を受講しました。受講して見るとAIは幅広くまた途轍もなく奥が深いものだと感じました。高齢の私でも問いを出せば百科事典位の答えは出してくれます。今のAIは目的、背景、条件を教え込めば実際に目的に合わせて作詞作曲もしてくれます。また絵を描いたり、どんな研究なのかを教え込むとその内容に合わせて卒業論文を書いてくれます。医療分野では病名、治療法まで、その他なんでも人間にアドバイスしてくれる有用なツールだと思います。しかしAIを十分使い熟す人間と、使えない人間とは大きな格差（経済的にも）が今以上に広がり、結果として世情が不安定となる時代が来るのではないかと一抹の不安がよぎります。これからどう活用したら良いか皆で考えましょう。

## 年齢を超えてAIを学ぶ：市民大学講座での新たな発見

佐藤剛史

市民大学講座2年目、今年のテーマは「AI」でした。高齢の受講生が積極的にAIを活用し、人生を豊かにしようとする姿に感銘を受けました。

講座ではAIで楽曲制作に挑戦しました。当初は戸惑う方もいましたが、個性豊かな作品が続々と誕生しました。過去を振り返る曲や、孫との会話のきっかけになった例もあり、AIが高齢者の生活に彩りを添えていることを実感しました。

オープン講座では、AIと人間の創造性を組み合わせた朗読劇に挑戦しました。初期は試行錯誤の連続でしたが、議論を重ねるごとに目標が明確になりました。AIが生成した物語を元に、参加者が感情を込めて朗読し、観客を魅了しました。AIと人間が協力して一つの作品を作り上げる過程は、貴重な経験となりました。

この講座を通して、AIは単なる技術ではなく、創造性を刺激し生活を豊かにする可能性を秘めていると実感しました。年齢に関係なくAIを活用し、新たな価値を生み出せる時代になったと実感しました。今後もAIを積極的に活用し、自身の可能性を広げていきたいと思います。高齢者の方々が、デジタルネイティブ世代との会話のきっかけを作るなど、人生をより楽しく、良くするために工夫してAIを使っている様子を見て、AIを利用していくのは若者世代から置き換わっていくのだとばかり思っていた自分にとって、高齢の方の中でもこのように積極的にAIにチャレンジしている方が少なからずいると実感できたのは、一つの価値観の転換となり、参加して有意義であったと感じています。

（なお、こちらの文章もAIを用いて編集しました！）

総合コースへの参加は3回目でしたが、今回初めて企画委員から参画、コース構成や講師選定にも関わり、市民大学に主体的に参加できたかなと感じます。皆さんも是非一度企画委員や運営委員を経験されることをお奨めします。

さて、生成 AI が急速に普及する中、限られた AI 知識で臨んだコースでしたが、メイン講師の室山先生のわかりやすい説明を軸に、医療関連やロボットなど先端分野への展開紹介やワークショップスタイルの学習、更に課外視察（Option）もあり、AI とその周辺を広く垣間見ることが出来、年間を通し興味深く参加出来ました。

チーム別で進めた自主学習では人チームに属し、「人間と AI は最強コンビ？」というテーマで探索しました。AI から逃れられない社会の中で、私たちは「AI とどう向き合う、どう共存する？」。明確な答えが無い中、151 名の市民の皆様にご協力頂いた「AI に関するアンケート」では、世代間の意識やニーズの違いが顕著に表れ、考えさせられる結果でした。ご協力頂いた皆様に感謝！！

この1年、SNS/ ネットを介した犯罪の増加や選挙等での情報操作、更に若年層の規制拡大議論などから、中国製 AI の台頭や SBG の超巨大 AI 投資など、将来への期待と不安両面の話題に事欠かない日々が続きました。

AI 弱者にならず AI と共生する為にも「AI リテラシー（知識と利用法）」を高め、同時に人間ならではの力の強化が必要と痛感しています。また、生涯学習計画においても各世代のニーズに対応した「AI リテラシー教育」を企画・実行し、格差拡大を防ぐ施策実行を切に願います。

最後に、「AI を過度に怖がらない / 過度に信用しない」- 依存症にならず幅広い情報源を利用し総合的に判断、共生することが大切ですね。

## 科学コースの受講を終えて

E.D.

科学コースの受講を終えて、「人と地球と AI 社会のこれから ～科学技術の進歩は人を幸せにするか～」というコース名が実に深い意味を持つように感じています。

講義は、日常生活と科学という身近なところから始まり、ロボットや AI 技術がさまざまな分野に応用されていることを知り、さらに望む社会を描いていくソーシャルデザインなども学びました。

AI というと、とかく開発最前線にばかり目が向けられがちですが、AI のモデルであり、使用主体である人間、人間が暮らす基盤である地球との関わりを考えないわけにはいきませんし、そもそも私たちがどう未来を思い描くかが鍵を握っていると分かりました。科学技術の進歩が本当に人を幸せにするためには、人間と地球、そして AI が調和する社会を目指すことが重要であると強く感じました。

この素晴らしい学びの場を用意してくださった企画委員、運営委員、職員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

人と地球と AI 社会のこれからの科学コースを受講して、室山講師の人間とは何か、人類の未来等の講義で非常に勉強になりました。印象に残りよく考えさせられた講義内容を下記に記します。人類の歴史はホモサピエンスからの 20 万年とその歴史は狩猟、農耕、工学、情報社会へと大きく発展してきた。この発展の原動力は全て人間の脳が創り出してきた脳にあり。その脳とは知性、感情、創造力＝生存の働きがあり、各々は分業で働いていることが分ってきた。ホモハピリスとしての人間にしかない能力とは何か？というと感動、創造性、直感、倫理感、主体性、好奇心、快感物質である。これらの能力を持つ脳にせまるべくロボコンの誕生である。ロボコンの特徴は教育と娯楽であり、創造性の元祖である。ロボコンにより主体性や快感物質など脳が幸せになる教育が近づいている。今は善悪を見分ける心＝脳！創造力を伸ばし未来を創りだす脳！に人工知能 AI が進化中である。生成 AI としての chatGPT 革命をもたらした。今後、人間にとってロボットと AI は最強のパートナーとして活動、共働できることはまちがいないとの講義でした。パスカルの名言～人間は考える葦であるをあらためて思い出し、我が脳にエールを送り、これからの人生を今を生きる～元気に楽しくまいろうでした。

**問いを立てる、モノゴトに意味付けをする****Y.T.**

「AI は人を幸せにするのか」を考えてきた。幸せの定義は人によりけり。人間のみならず地球に住む生物を含めて考えたい、AI に感情はないので「幸せ」を伝えられない、AI に支配されそうで怖い等、多様な感情や意見が飛びかった。ちなみに gemini は「私は大規模言語モデルとして、AI が人を幸せにするかどうかについて特定の意見を持つことはありません。AI の役割や影響は、技術自体だけでなくどのように活用するか、社会がどのように受け入れるかによって大きく変わるため、私達の使い方次第と言えます。AI を適切に活用し、リスクを管理することで私達はより良い未来を築くことができるかもしれません。」と回答。「AI に依存しすぎることなく、人としての価値を大切にする必要があります。互いに尊重し合える未来を目指して努力を続けていく必要があります」と続く。「人としての価値は何ですか」と AI に問われた格好だ。

AI は嘘をつくと言われるが、AI に嘘という概念はない。真偽を問わず蓄積されたデータを拾い集め「言語化」して提示する。その「言語」という記号に人が勝手に意味づけをしているだけである。AI から見れば何をか言わんや。

他方、ネット上の膨大なデータはいわば人類の英知の積み重ね。AI とのやり取りで忘れていた大切なことを思い出すこともある。AI の画像生成や作曲は何が飛び出すかわからない面白さはある。

私達がすべきは、問いを立てること。その問いについて周りの人々と AI の力も借りて考えること。AI の提示する回答を鵜呑みにせず、自分で考えることを放棄しない。問い自体も疑う。また、意欲や好奇心等、感情に起因するものは人ならではのはず。

私達はどこから来てどこへ行くのか。地球に暮らす一員として行く手を見誤らずにいきたい。



好奇心や探究心があれば科学の知識はいらない...知りたいことや知らないことを探す「冒険の旅」に出よう！

## 一年間の学びを終えて

J.N.

来る「AI」時代に対する漠然とした不安を払拭できればとの思いから今年度は科学コースを選択した。一年間 常に迷子であった私には～科学技術の進歩は人を幸せにするのか～という副題は考えるために立ち返る良きガイドとなり助けられた。

AI と共生するためには How to にとどまらない学びが不可欠だった。そもそも人間とは何なのか・人間以外の生き物の視点で地球を見る・すでに利用されている科学技術について・AI 社会との関わり方…など多岐にわたるテーマで講義を受けた。

AI にはハルシネーションという誤情報を作り出してしまう現象が存在することや発信する側が意図的に作り出すフェイク画像・AI に偏った内容を与えて導き出される答えなどまだまだ AI を鵜呑みにするのは危険だという理解は必要だろう。ファクトチェックやリテラシーの向上は一人一人が身に付けるべき重要な資質となる。

AI を学ぶための一年間は人間について深く考える一年間となった。自分以外の他者に想いを馳せ、100年後の子供たちの未来を想像し、どんな『幸せ』を探究するのかという根源的な問いが残った気がする。漠然とした不安は学ぶ事で大きな不安に成長してしまったが、迷子であった私は『学ぶ方向性』をみつけた。

最後に今年度初めての試みであったオープン講座。その為に例年以上に多くのディスカッションが出来たことは有意義だったと思う。たくさんの気づきを与えてくれた皆さん・講師の先生方・企画&運営委員の皆様・事務局の皆さんにはお世話になりました。一年間ありがとうございました。

ChatGPT などの生成 AI が民間企業や行政システムのサービスに活用され、医療介護や教育、アートなど、さまざまな専門分野をサポートするツールとして注目を集めるようになった。

2024 年 5 月からこの 1 年の受講期間は AI が自然言語で誰でも使いこなせるという時代の一大転換期でもある。室山講師を始めフロントランナーである諸先生方の未踏の知をタイムリーに追体験するような講義は、まさに今しか出会えない時代の先見性と驚きに満ち溢れたものであった。そこで人間の想像力と胆力があれば AI をパートナーに新しい価値を生み出すことができることを学ぶとともに、人生後半の学び直しは、結果よりもプロセスであり、失敗を恐れず行動することが大事だとうまく気づくことができた。

1 年前の自分では、全く想像すら出来なかった Chat との会話。その答えに「はて？何かおかしいぞ!」と思うときには、真偽の程はちゃんと取材検証して確かめるように言い聞かせ、ドキュメンタリー作品を仕上げる構想を抱いている。絵に描いた餅で終わらぬよう、スマホアプリに画像や文章を集め、AI にヒントをもらいプロットを積み上げていく作業にとりかかっている。

最後に、三鷹市生涯学習センターの職員の方々、企画委員、運営委員の方々の協働の精神に触れ、市民レベルで練りあげられた学びのモチベーションとなる自主性を喚起する土壌こそ、人間存在の危機を救う科学リテラシーの想像力と理論の根拠となるものではないかと確信するものである。この一年の学びを糧に、感謝の気持ちを忘れないように一步一步、あゆみをとめないで前進していきたい。

## 人と地球とAI社会のこれからを学び進めて

E.M.

私たちの生活において、AI はすでに身近な存在となっています。スマートフォンを開けば、AI による検索システムを使用し AI をあまり理解していなくても、その便利さを感じています。

サブタイトルである「AI や科学技術の進歩は人を幸せにするのか」に示されているように、AI 自体は感情や意識を持っていません。そのため人々が AI をどのように使い、どのように幸せを追求するかが非常に重要です。

AI の適切な利用方法としては、医療分野における診断支援や治療計画の策用、業務の効率化や精度向上、教育分野では個別の学習支援や過疎地域への教育機会の提供、そして環境問題へは気候変動の予測や対策提案などが挙げられます。これらにおいては、人間が主体となり AI の提案を参考にしながら活用していくことが大切だと考えます。

AI は膨大な情報量と高度な学習システムによって日々進化していますが、その一方で AI の危険性について間違った使い方をされたり倫理的に問題のある決定を下す可能性もあります。間違った使い方を避け AI を活用するためには、共に学び合いお互いの考えや意見交換する重要性は今年度の科学コースで学んだ大切なポイントです。

AI 技術がどれだけ発展しても、「思いやり」や「経験からの言動」の深みこそが人間の素晴らしさであり、この人間らしさが社会において大切であることを忘れず、AI の利点と課題を理解し今後の人間社会のあり方について深く考えていこうと思います。

皆様、ありがとうございました。

## AIと社会のこれから～これまでの講義を受け感じた事

R.M.

2月7日の日米会談を前に生成AIの話が出てきました。SBGの孫正義会長とオープンAIのCEOとの会談がなされている。大企業向けの最先端のAIを世界で初めて日本から始める。企業の中に最先端の知性を作ると強調した。SBGが出資するオープンAIや傘下の英半導体設計大手、アームと組んで法人向け新サービスに乗り出します。日本企業がAIの実用化競争に関与するようになる。新会社は顧客企業それぞれの人事やマーケティングのデータを取り込み各企業に合った専用のAIモデル「AIエージェント」を提供する。AIエージェントは人間に代わって顧客対応や営業活動に従事するほか、会議に出席し、意志決定の際の助言役としての役割を果たす。文書の作成や財務データの入力といった日常業務は自動で手掛けるため社員は意志決定など、より戦略的な業務に時間を当てられる。生成AIの技術や各国固有のデータは国の産業力を左右するインフラになりつつある。このように国際的にも注目されているテーマを学び基礎を知ったことは非常によかったと思います。これから少子化の時代、人口が減ってもより幸福な社会ができると思います。

## AIとうまく付き合おう

宮原 泰 介

初めての市民講座参加でこの講座を受講。

既に日常生活に入り込み、近年では‘生成’AIが各分野で広がってきている。人類という動物としては、拒否するということとはできないのだろう。単純労働から情報処理系分野の仕事はAIにとってかわられるだろうが、芸術系等の感性を表現していく分野はどうなっていくのだろう。作曲家はほぼいなくなり、曲指示家が当たり前になるのだろうか？

また、脳医学の講義ではAI利用により損傷・減退した機能の補完もできつつあるとのこと。

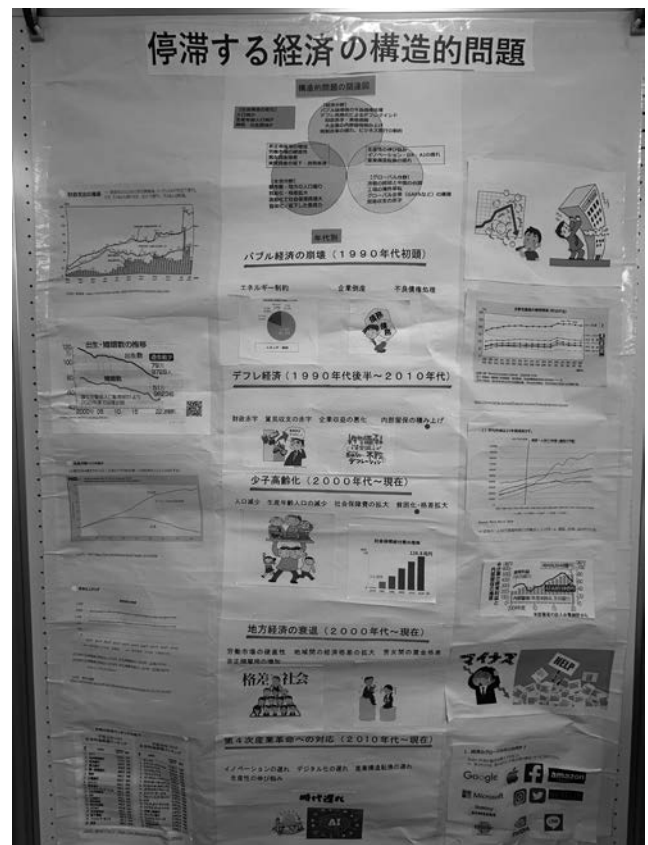
犯罪的に使用されないようにしなければならないが、この先が楽しみだ。

多岐にわたる講師の皆様にご教授いただき、また五年後にでも、同じ表題のお話をきいてみたい気持ちだ。参加できたこと、感謝の念に堪えません。

# 構造的問題を抱える日本経済と不確実性を増す世界経済

～日本の羅針盤はいかに！～

講師：東 郷 賢  
(武蔵大学国際教養学部教授)



学習成果の発表・模造紙展示

# 構造的問題を抱える日本経済と不確実性を増す世界経済

## ～日本の羅針盤はいかに！～

.....

講師 東 郷 賢

私の講義に1年間お付き合いいただき、誠にありがとうございました。講義の中で、いろいろお話ししましたが、その中で皆様に最もお伝えしたいことは以下の2点です。

1) 日本の30年近い長期経済停滞は、間違った経済政策によるものである

増税、増税で2022年度の国民負担率(租税負担率+社会保障負担率)は48.4%と、江戸時代の五公五民状態です。一揆が起こっていてもおかしくない。我々は1年間働いて得た所得の半分を政府に取られているわけです。昔は違いました。1975年度の国民負担率は25.7%、1999年度でも35.4%でした。

経済は我々の「消費」が他の人の「所得」になって好循環していくわけです。所得の半分が取られてしまって、残り半分からはなかなか消費に回らない、したがって他人の所得も増えない、という悪循環に陥っています。

そうすると、「日本の政府債務が大きいので増税仕方ありませんよね」という方がいます。講義でもお見せしましたが、令和3年度末で、国の連結貸借対照表をみると、国の負債合計は確かに1,514兆円もありますが、他方、国の資産は943兆円もあります。資産・負債差額は572兆円でしかないのです。日本のGDPは2024年暦年で609兆円です。日本国の純負債額はGDPよりも小さいのです。さらに、2024年3月末のデータで、発行済み国債のうち590兆円は日銀が所有しています。なぜ、増税をし続けなければならないのでしょうか？

2) 自分の頭で考え行動することが重要

なぜ、「日本の政府債務が大きいので増税仕方ありませんよね」となってしまうのか？他人の言うことを鵜呑みにしてしまうからです。特に「御用学者」と呼ばれる人たちがいけないですね。自分の小遣い稼ぎのために政府の擁護を自ら買って出る。政府の審議会委員等になると、それなりのお金をもらえるわけです。

昔は、マスコミも戦っていましたが、いまのマスコミにそれはもう期待できないでしょう。そのかわりに、我々はインターネットやAI(ChatGPTやGrok)を活用できます。調べようと思えば、なんでも自分で調べることができます。先ほどの国の連結貸借対照表や日銀の貸借対照表もネットで公開されています。

2024年にノーベル経済学賞を受賞したアセモグル教授は、日本について「約25年間も停滞を経験したのに、反発する運動が起こらなかったのは驚くべきことだ」と語っています(朝日新聞2020年2月4日)。皆さん、是非自分の頭で考えて行動してみてください。投票行動はその一歩ですね。私も行動します。

### プロフィール



武蔵大学国際教養学部教授  
専門は開発経済学。  
Yale大学Ph.D. 主な研究テーマは経済成長。  
2015年ロンドン大学の学士号を取得できるパラレル・ディグリー・プログラムを始める(日本初)。  
＜主な著書＞  
大塚啓二郎・東郷賢・浜田宏一(2010)、『模倣型経済の躍進と足ぶみ』(ナカニシヤ出版)。  
阿部浩己、鈴木エイト、東郷賢、永田浩三(2024)、『現代ニッポンの大問題 メディア、カルト、人権、経済』、あけび書房。

とうごう けん  
東郷 賢さん



●カリキュラム

| 回  | 日 付    | 講 義 名<br>学 習 内 容                                                                            | 講 師                                  |
|----|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 1  | 5月10日  | 開講式・オリエンテーション                                                                               | 自主学習                                 |
|    |        | ①主催者挨拶、②担当職員紹介(濱中麻未様)、③主題「構造的問題を抱える日本経済と不確実性を増す世界経済」、④学習生28名自己紹介                            |                                      |
| 2  | 5月17日  | 岐路に立つ中国の社会、政治と経済の行方                                                                         | 東京財団政策研究所主席研究員<br>柯 隆さん              |
|    |        | 中国はコロナ禍により産業構造の変換に遅れた。また、出生率が一人っ子政策で人口減少、男女のバランス崩れる。                                        |                                      |
| 3  | 5月24日  | 明治～戦前の経済発展の重要性                                                                              | 武蔵大学国際教養学部教授<br>東郷 賢さん               |
|    |        | 日本は、この期間に先進国にキャッチアップした。世界を知っている政治家・官僚の存在。                                                   |                                      |
| 4  | 5月31日  | 逆コースからプラザ合意まで                                                                               | 東郷 賢さん                               |
|    |        | 吉田ドクトリンで経済発展に注力。朝鮮戦争、ベトナム戦争の影響もあり日本の高度成長に。                                                  |                                      |
| 5  | 6月7日   | AIはくらしを、企業を、地域をどう変えるのか                                                                      | 第一生命経済研究所ライフデザイン<br>研究部 主席研究員 柏村 祐さん |
|    |        | 価値を創造しないと豊かにはならない。AIの導入は暮らしを便利にする。                                                          |                                      |
| 6  | 6月14日  | 学習生自己紹介と講義への要望                                                                              | 自主学習                                 |
|    |        | 学習生全員の自己紹介と4グループに分かれ講義の感想・要望を討議、発表。4グループの発表は①フェスティバルの検討、②戦後の特需、③報道の偏向とは、④スクリーンの資料が欲しい。で有った。 |                                      |
| 7  | 6月21日  | 幸福の経済学                                                                                      | 青山学院大学経営学部教授<br>亀坂安紀子さん              |
|    |        | コロナ禍でなぜウェルビーイングが注目されたか。日本の経済社会の問題が深刻化している。                                                  |                                      |
| 8  | 6月28日  | 羅針盤なき経済政策                                                                                   | 東郷 賢さん                               |
|    |        | 劣化する日本経済。平均所得25年間成長せず。非正規雇用の拡大。ジャーナリズムが機能していない。                                             |                                      |
| 9  | 7月5日   | 問題意識の発表と推薦図書・Webの紹介                                                                         | 自主学習                                 |
|    |        | 学習生各自の現段階での総括・問題意識等を各自1～2分を目途に発表。より深い講義をメイン講師に期待との話有り。後半では学習生から推薦図書・Webの紹介を行った。             |                                      |
| 10 | 7月12日  | 実証経済学でみるジェンダー格差：社会規範・思い込みがもたらす影響                                                            | アジア経済研究所開発研究センター<br>主任研究員 牧野百恵さん     |
|    |        | 女性は家庭、男性は社会へとの社会規範が変化すれば少子化対策は有効か。                                                          |                                      |
| 11 | 9月13日  | 日本経済の診断と処方箋【オンライン】                                                                          | 経済アナリスト/株式会社マネネCEO<br>森永康平さん         |
|    |        | 前半は講師の講義動画を視聴した上で関連事項の質疑応答を行った。後半はオンラインでの講義、政策リスクが最大の問題との趣旨で有った。                            |                                      |
| 12 | 9月20日  | 人口問題と日本の未来                                                                                  | 杏林大学総合政策学部特任教授<br>大川昌利さん             |
|    |        | 日本のみならず世界でも人口が減少。但し、地域により人口減少に時間差が有り、人口減への対応が可能。                                            |                                      |
| 13 | 9月27日  | 三鷹市よりの産業・観光振興の説明とフェスティバル展示物のテーマ出し                                                           | 自主学習                                 |
|    |        | 三鷹市生活環境部生活経済課長より三鷹市の産業振興・観光振興の現状と課題に付いて説明を受ける。後半では4グループに分かれフェスティバル展示の取組テーマの洗い出しを行う。         |                                      |
| 14 | 10月4日  | 経済のグローバル化+デジタル化と日本の停滞                                                                       | 東郷 賢さん                               |
|    |        | 日本企業はグローバル化+デジタル化についていけず、日本は停滞した。大人が学ぶ環境を作り若者が学ぶことが必要だが、大多数の人が、いけないと思い行動しなければ、世の中は変わらない     |                                      |
| 15 | 10月11日 | 【公開講座】アメリカと世界、そして日本                                                                         | 上智大学教授・総合グローバル学部長<br>前嶋和弘さん          |
|    | 10月12日 | 【公開講座】紛争地の現場から                                                                              | ジャーナリスト 志葉 玲さん                       |

| 回  | 日 付     | 講 義 名                                                                           | 講 師                                |
|----|---------|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
|    |         | 学 習 内 容                                                                         |                                    |
| 16 | 10月18日  | 生涯学習センターフェスティバルでのサブテーマとメンバー決定                                                   | 自主学习                               |
|    |         | サブテーマを「日本経済の構造的問題とは何か」と「日本の経済政策を検証する」とし、担当メンバーを決定                               |                                    |
| 17 | 10月25日  | アジアの経済発展と埋もれる日本                                                                 | 東郷 賢さん                             |
|    |         | 冷戦時の台湾、韓国及びシンガポールの発展並びにその後の中国の発展、その中での日本の立ち位置に付いて                               |                                    |
| 18 | 11月 1 日 | 貨幣と信用の経済学史序説                                                                    | 杏林大学総合政策部教授 西 孝さん                  |
|    |         | 貨幣に関する経済学史の変遷と経済学の現在位置                                                          |                                    |
| 19 | 11月 8 日 | AIは我々の思考をどう変えるのか                                                                | 東京大学未来ビジョン研究センター<br>客員教授 西山圭太さん    |
|    |         | AIはコンピューターと違い「知能」と言う仕組みが分からないものを人工的に作る試み、最近のAIの成功は「認知革命」の成果                     |                                    |
| 20 | 11月15日  | 生涯学習センターフェスティバル準備①                                                              | 自主学习                               |
|    |         | 全体企画打合せとサブテーマ毎にグループでの展示物の内容に付き打合せ                                               |                                    |
| 21 | 11月29日  | 生涯学習センターフェスティバル準備②<br>開催日：12/7（土）・8（日）                                          | 自主学习                               |
|    |         | あゆみ編集委員とフェスティバル準備担当の決定並びに展示作物の作成・完成。プレゼンテーション発表者の決定。                            |                                    |
| 22 | 12月13日  | デジタル通貨とは何か                                                                      | 麗澤大学経済学部教授 中島真志さん                  |
|    |         | 最近デジタル通貨が国際的に研究され始めた背景と現状並びにデジタル通貨の位置付けに付いて                                     |                                    |
| 23 | 1 月17日  | AIの知能論—行動経済学的には不合理だけどAI的には正しい<br>人間の知能の姿【オンライン】                                 | 札幌市立大学学長 中島秀之さん                    |
|    |         | 人とAIの違いは「生活しているか否か(常識を知っているか)」に有り、AIを使いこなすにはフレーム問題の疑似的な解決が必要                    |                                    |
| 24 | 1 月24日  | 米国経済のダイナミズム                                                                     | 東郷 賢さん                             |
|    |         | 米国のIT産業・金融業の発展は目覚ましく米国経済は右肩上がりが続けているが、国民国家としては崩壊の危機に有る                          |                                    |
| 25 | 1 月31日  | 最近の我が国の為替・国際収支動向<br>—その背景と日本経済の課題—                                              | 昭和女子大学客員教授・東京大学名誉教授 荒巻健二さん         |
|    |         | 為替理論の基礎、為替は「価格」「金利」「貿易収支」によって変動。最近の円安は日本の競争性の喪失によって起きているのではないか                  |                                    |
| 26 | 2 月 7 日 | 地経学から見る新たな世界秩序                                                                  | 東京大学公共政策大学院教授・国際文化会館地経学研究所長 鈴木一人さん |
|    |         | 「地経学」は地理的に規定された国家関係を経済的に分析する枠組み、グローバル化による相互依存の罫に備え地政学による経済安全保障が必要               |                                    |
| 27 | 2 月14日  | MMT（現代貨幣理論）—財政赤字は問題ではないのか—                                                      | 荒巻健二さん                             |
|    |         | MMTの主要な主張とその評価(MMTは経済衰退への処方箋)並びに日本財政の現状とその持続可能性                                 |                                    |
| 28 | 2 月21日  | 学習成果の発表と東郷先生への質問事項の検討・作成                                                        | 自主学习                               |
|    |         | 学習生全員による講義の最終段階での成果・感想・コメントの発表と4グループに分かれての東郷先生への質問事項の作成                         |                                    |
| 29 | 2 月28日  | ガラパゴス日本と新しい日本                                                                   | 東郷 賢さん                             |
|    |         | 昭和の神話「いい大学に入ればいい会社に入れて人生安泰」から離れられない日本もAI社会を迎えて新しい日本を考えることが必要                    |                                    |
| 30 | 3 月 7 日 | フェスティバル展示物の説明と東郷先生への質問事項に付いての討議                                                 | 自主学习                               |
|    |         | フェスティバルでの展示物に付きプレゼン担当者より学習生に説明、質疑応答。東郷先生への質問事項8件に付き4グループに分かれ討議、結果を発表(東郷先生は御欠席)。 |                                    |

「構造的問題を抱える日本経済と不確実性を増す世界経済、をテーマにこれからの我が国及び世界経済はどのような方向に向うのかについて、30 回に及ぶ講義と自主学習を通して多くのことを学ぶことが出来ました。

学生時代に学んだ経済の枠組みを思い起こしてみると「近代経済及びマルクス経済、という、今や死語に近いものであったことを思い出しながら大きく変貌を遂げた経済学を学ぶ中で得たものは、大きなものがあったと思っています。

特に明治から戦前の経済発展を経て、プラザ合意、さらには、AI が経済に及ぼす影響、経済のグローバル化デジタル化等々、経済を取り巻く状況は大きく変貌を遂げつつあります。この状況下において、これからの世界経済、我が国の経済がどのように変化していくのか、さらには、経済のグローバル化、デジタル化が経済に及ぼす影響はどのようなものなのか等々の新しい話題についても詳しく学習することが出来ました。

その意味あいからも、本年度の総合コース（経済）の学習は有意義なものであったと思います。

一年にわたる学びで得た知識を糧に、これからの世界経済、我が国経済の動向を注視して行きたいものと思っています。

この間において、我々の学習を支援して下さった東郷先生をはじめ、事務局のスタッフの皆様に心からお礼申し上げます。

**経済コースを受講して****T.I.**

バブル崩壊から 30 数年を過ぎた現在、我が国は経済等社会全体に活力がなく停滞し続け、GDP はドイツに抜かれ第四位となり一人当たりの GDP においても韓国に抜かれる状況になった。それらはどこに原因があるのかという思いの中、今年の経済コースはこれらの疑問を解決するヒントになるテーマだと思い受講することにしました。

東郷先生の講義において、アメリカをはじめ韓国、台湾、シンガポールの国々において苦しい時代を乗り越えダイナミックな成長要因についての話があった。我が国においては明治維新の頃や第 2 次世界大戦後の高度成長期においてダイナミックな成長がみられ（当然様々課題を抱えてながら）活気ある社会であった。

これらから読み取れることは現状を変え発展・成長しようとする人々の熱意や積極的な行動にあり、それらを支える教育にあった。

我が国においてはバブル崩壊後大きく傷ついた経済の再生が思うように進まず、その間に 1995 年 1 月の阪神淡路地震、2008 年 9 月のリーマンショック、2011 年 3 月の東日本大震災等の度重なる天災等があり、その間日本人の気持ちは保守的や消極的な考え方になり積極的な経済・社会の復活はできなかった。

現在日本における課題については、「荒巻先生の“（補論）日本はなぜ競争力を失ったのか”に述べられた●企業が保守的・防衛的となった●成長の源泉である研究開発の強化を怠った●労働者も以前ほど働かなくなった（生活優先、安定志向）●人口減少等々」が当を得ている。これらを踏まえつつ我々は今後何をすべきかを考えさせられた。

今話題になっているカイゼンですが、私が高校卒業した時代にもありました。その当時は女性は24、5才になると結婚退職し、腰掛と言われていました。でも私が勤めていた会社ですが小さいですが、カイゼンがありました。それは女性のものもありました。社内連絡用の書類に使用済の封筒を使用するなど。

また他の会社でしたが、味の素の会社の女性の方が、味の素の瓶のふたの穴を大きくし、味の素の消費につなげた事。これは私の会社まで伝わって来てすごいねと話題になりましたのを覚えています。会社全体でカイゼンは何かと考えていました。会社からはそれぞれに金一封出しました。ありがとうございました。

## 1年間の講義を終えて

小 口 喜一郎

熱心かつ丁寧にご指導頂いた東郷先生及び講師の方々、企画運営にご苦勞頂いた三鷹市及び委員、自身に多くの示唆・刺激を与えた受講生の方々に感謝します。以下一年間の受講後の雑感2点を述べます。

### 1. 経済成長と教育

東郷先生の以下のお考えについて

「現在のわが国経済の停滞、国家としての地位低下招いた原因の一つは政治家、経営者の能力劣化。本来批判勢力であるマスコミも機能せず国民は流され易い。従って高等教育をテコ入れ（不勉強な大学生問題）すると共に国民は自らの頭で考えられるよう学習が大事」

ご指摘の高等教育の充実の重要性は理解するものの、

- ①先進国諸国で、経済のパフォーマンスと教育レベルの相関性はどの程度あるのか、（大学進学率と経済は必ずしも相関しない）
- ②更なるテコ入れの教育対象はリーダー養成なのか全体なのか
- ③日本の国力低下を認識し自らがフロンティアとして積極的に世界と勝負する学生を生み出すには何が必要か

等々、経済分野とは離れますが更に伺ってみたい点となりました。

### 2. 講義運営方法

#### （1）基幹講師の講義の進め方

一般的な講義の順番は、状況認識共有化→問題点摘出→改善策提起の順でしょうが講師の方にご協力頂き、初めに方法論含めた解決策も示して頂く等の工夫はできないでしょうか。

これにより皆が議論し易くなると共に12月の成果発表や、この「あゆみ」原稿自体今より作成し易くなるのではないのでしょうか。

#### （2）基幹講師とスポット講師

全てスポット講師で進めるやり方もあるでしょうが現状通りテーマの核を担う基幹講師が居る方が皆さんの理解が深まるのではないのでしょうか。

## 構造的問題を抱える日本経済と不確実性を増す世界経済

C.K.

今回の経済コースは、米国のトランプ政権が発足し、経済を武器に国際関係を動かそうとする政治と経済が一体化した世界秩序が台頭しつつある昨今、タイムリーな企画だった。日々流れるニュースが、世界的にどういう意味を持つのか、日本で生活する我々にどのような影響を与えるのか、目まぐるしい変化の底流にある規範とは何か等々、一歩踏み込んで考える視点を提供してくれた。

メイン講師の東郷賢先生の授業では、明治時代から現在に至る日本経済の変遷がグローバルな視野から論じられ、経済政策等の問題点が浮き彫りにされた。なかでも学歴神話から脱皮しきれない日本社会に危機感を持たれた東郷先生が、ご自身の大学に海外の大学の学位が取得できるパラレル・ディグリー・プログラムを創設されたお話は大変興味深かった。

単発の講義では、貨幣と信用の経済学史、デジタル通貨、現代貨幣理論、地経学から見る新たな世界秩序、AIと人間に関する講義が刺激的だった。

また、学習生仲間の鋭い質問や幅広い知識に毎回触発された。惜しむらくは、現状を認識するなかで気づいた課題に対して、私達はどのように対処していけば良いのかという議論を掘り下げ、深める時間が十分にとれなかった事である。今後、友人や家族ともこのような話題を共有し考え続けたい。

この講座を企画、運営、サポートして下さった皆さん、そして学びを共にして下さった皆さんに心から感謝します。

## 受講を終えて感じたこと

S.K.

「経済学」は、国民が豊かに暮らせる社会を作ることを中心に、その実現に向けた経済政策の羅針盤になるとの東郷先生の話に納得しましたが、今の我国の経済状況を見ると、その羅針盤を正しく操作する人（リーダー）の不在が、大きな問題の一つであると感じています。

そのリーダーを輩出する源泉として必要な高等教育を見ると、我国の大学生の自習時間の少なさ、海外留学をしようとする人の英語力の低さ、また社会人の自己啓発活動の低さなどの調査結果が出ています。以前は、我国は「貿易国家」でしたが、今は「投資国家」となり、その為に、技術開発への投資が減少しています。また、研究開発が、研究の為の研究となり、産学の連携がうまく機能していないとの指摘もあります。

一方、海外の英米などでは、産学の連携がうまくいっており、研究の成果が実際に生かされています。また、台湾やシンガポールなど国の規模が異なりますが、優秀なリーダーを輩出し国を率いています。

我国の経済の立て直しには、技術力の復活や高等教育のテコ入れが必要であり、その実現には、世の中を良くしようとする真っ当な考えを持っているリーダーの輩出が期待されます。これには、そこに至る道筋を示したり土壌造りに政治の主導を望みますが、今は期待できず、変化を求めて声を上げて行こうと考えています。

終わりに、本グループをリードして頂いた運営委員の方々、的確なサポートをして頂いた事務局員に感謝申し上げます。

ありがとうございました。

## 初受講の所感（経済コース）

C.C.

「AIとインスタントラーメンはここが違う。」（←極めて面白い話がこの後展開）

「知能が何か、とわかっている人が地球上に一人もいない。仮説を持っている人はいるが。」

「『知能』の定義：情報が不足した状況で、適切に処理する能力」

「新しい価値の創造が最も難しく、最も重要。」

思いつくままほんの一例。変化に富む数々の講義の端々にある知の世界。

社会に鋭いメスを入れるもの、「思考せよ。」と求める高度に知的なもの、様々な講師陣の講義はどれも多角的に問いかけてくる。

メイン講師の東郷先生は、社会派で現代的かつ批判的思考の切り口で経済と社会を多面的に考察。読書家で新しい情報、豊富な知識を以って共に考える授業だった。

広がって初めて狭かったことに気づく「視野」という観点で、更にミクロレベルで考えることしか道はないという観点から、開かれた講義聴講のかたちを望む。

どの講義も重ならない時間割再編を軸に、排他性を内包する型に閉じ込めず、選択コース以外の聴講が可能になるかたちを心に描く。己も他者も関心領域の無意識の束縛から解き放たれることを願う。コース分けをなくす、又は全公開形式にする等も可能性の一つ。選択コース落選で公開講座以外一切の聴講不可となる点も不寛容だ。

自主的な学習を委員が準備するという労、即ち、講義のない日について、どう埋めるかの一仕事をなくすことも、改革再編時に併せて検討されたい。そこに主体性なきにしてその人に学習は起こらず。集うか一人かは問題ではない。

今回最初で最後の当選かもしれず、この初受講で感じたことを記した。

楽しい顔ぶれに助けられ運営委員も経験させていただいた。濱中様、担当職員の皆様、関係委員会の方々、大変お世話になり感謝申し上げたい。水準の高さの背景にある歴史とご苦勞を認識し、三鷹市に深く感謝の念をお伝えする。

## 過去を検証し政策を提言する

小 林 恵美子

「失われた30年」の言葉に誘われて受講したが、平均所得が下がっていると知ってビックリした。

まさに30年前に退職し、子供の登校拒否、自身の癌手術2回、両親の認知症対応、夫の借金。両親、夫の死。その後の自身の心の不調。デフレは気にならなかった。インフレよりいいと思っていた。いくつかの銀行の消滅、年末派遣村、年功序列の減少、非正規雇用の拡大は耳にしていた。

企業の内部留保、配当増のみ。賃金収入、人材開発、研究開発、設備投資の不足。イノベーションの停滞、生産性の低い企業の退出回避。学校教育!!

講座を受講した今、経済格差の増大が気になる。ジニ係数が急激に上がり、アメリカに接近してる。

◎過去を検証し、政策を提言する。

社会政策（所得再分配、経済安定成長、社会的厚生を最大にする） 皆が豊かに幸福追求できる社会。

5公5民は百姓一揆の段階だが、北欧はどうなってるのか。

MMTの話はよくわからなかった。軍産共同体が気になる。

来年の講座「未来経済」が期待される。日本中で議論すればいいのだろう。

昭和20年には「一億総玉碎」

昭和60年には「一億総中流」

講義で「幸福の経済学」を学んだのを機会に、私なりに「幸福」と「経済」の関係を考えてみた。我々の生活のベースとなるのは経済である。トランプ大統領再選もインフレによる各人の経済状況の苦しさへの不満が主因だと言われている。やはり世帯収入が一定水準を上回る事が幸福度に強く影響している。

2024年3月発表の「世界幸福度ランキング」で、幸福と感じている日本人は57%、51位と先進国中で最下位だった。

今、非正規労働者の賃金の低さが問題視されている。女性の場合、働く6割が非正規労働者で、一定水準の収入がある世帯が大半なのに…と疑問に感じる。長時間労働文化が残る労働環境や社会的サポート不足にストレスを感じているのだろうか？

講義でアリストテレスの幸福論に注目すべきとの教えがあった。彼は幸福の条件は「徳や知性の有無の問題」と言っている。知性はOECD「国際成人力調査」でトップ水準であるが、課題は徳だ。徳は人間の持つ気質や能力で善き特質と言われている。我々は日常多くの人に囲まれて生活しており、幸福感には周りの人がかなり重要な要素になる。

日常、周りの人の幸せに、どれほど注意を払って生活しているだろうか？周りの人が幸せになれば、自分の心も満たされてくるのではないだろうか？従って私は「幸福の経済学」は「全ての人を思いやる経済活動」の事だと理解する。

EXTREME SCIENCE 番組で脳科学者の茂木健一郎氏と渡邊正峰東京大学准教授が「人間の意識は機械に移植できるのか」という対談の冒頭で「渡邊先生はRed pillを飲んだ？」との問いかけに「ハードプロブレムの何たるかを、わかっている人はRed pillを飲んでいる」と応えていた。

では、Red pillとは何だろうか。

Red pillとは「真実に目覚める」ということで、これに対するBlue pillとは「真実を直視することを拒否する」と言われている。

またハードプロブレムとは、ここでは「難問」とだけ記しておく。

経済コースで学ぶ身にとって、ではRed pillとはどういうことを指すのだろうか。

現在生成AIの進化が「人類史上有数の革命」と言われていて、日本でもその市場規模が、2028年には2兆5,434億円と予測されている。(情報通信白書令和6年版)が、一方で2024年のデジタル赤字は6.7兆円で、インバウンドの黒字5.9兆円を大きく上回り、国の施策効果を吹き飛ばす金額を、私達は日々ビッグテックに支払っている。

ではデジタル敗戦国とも言われて久しい日本は、どうすれば良いのだろうか。

「指数関数的な成長」が始まる起点が今で、その変容が理解不能な速度と規模で進みつつあると言われる今、開発業者と政策当局には、是非この千載一遇のチャンスを生かして、成長産業の軌道に乗せてもらいたい。

そしてデジタルテクノロジーに目を凝らしつつ、己の生活に立脚しながら、AI時代に自分は何をしたいのかを自問自答する。

その未来は予測不可能と言われているが自分なりに、どのような未来社会でありたいかを考える。

哲学的ゾンビ(外見や行動は、通常の間人と同じだが、痛みの感覚のない中身のない演技者)にならないために、考え続けること。

それを自分に課していきたい。

## 経済コースを受講して

関 戸 康 之

コースタイトル「構造的問題を抱える日本経済と不確実性を増す世界経済～日本の羅針盤はいかに！～」に興味を持ち初めて総合コースを受講しました。受講を通じて日本経済の「失われた30年」の原因、つまりはコースタイトルの「構造的問題」を考え、「原因の半分は人口減少、残りの半分は海外要因と企業・個人の保守化」と自分なりの結論を得られたと考えて居ります。次は本コースのメイン講師、東郷先生の教えに従い、具体的な「羅針盤」を考えて行きたいと考えて居ります。

本コースはゲスト講師も多彩、充実して居り、強く印象に残った講義が多かったのですが、その中でも特に印象に残った講義の内容は「AI（人口知能）の開発が人の意識の解明、新生物学に繋がる」（第19回）と「民主主義、人権尊重する社会では人口減少は不可避」（第12回）でした。本年度は初めて総合コースを受講したにも関わらず、テーマ選定、企画にも携わる事が出来、大変充実した年度となりました。今後も長く、主体的に「総合コース」に関わって行ければと考えて居ります。

## 経済コースを受講して

T.T.

昨年に続いて今年も市民大学・経済コースで学ばせていただくことが出来ました。講師の先生方、企画・運営に携わられた皆様、その他お世話になった方々にお礼申し上げます。

今年は「構造的問題を抱える日本経済と不確実性を増す世界経済—日本の羅針盤はいかに！」というテーマでした。長期的な国力低下から抜け出せない日本の復活への道筋を探ろうということだと思います。テーマに基づいた講師の先生方の視点と話の展開はそれぞれ特長的であり、関心を持って理解できるところからテーマに接近することができました。

今回、私が注目した点を幾つか挙げます。①「地経学」という視座に基づいて、経済安全保障をはじめとする新しい世界秩序について解かれたのは分かり易かった。地下資源に依存しない日本の地経学的パワーの源泉は技術と人材であるというのも納得がいく。②「AIの知能と人の知」、「AIが我々の思考と暮らしと企業をどう変えるか」について入り口が学べた。切実で大変興味深い問題だが、私には理解するのが難しかった。今後、じっくり勉強しなければならないと自覚。③超大国たる中国とアメリカの現実について知ること。岐路に立つ中国の社会・経済・政治。アメリカ経済のダイナミズムと国民国家としての崩壊の現実。④国の幸福を経済学で考えること。私は目の前の資本主義に正しく関わり、人類・社会を幸せにする道を指し示すことが経済学の究極の役割であると考えています。三鷹市民大学・経済コースで頂いた学びも人類の幸福と世界の平和に生かしていけることを望んでいます。

## 受講を振り返って

S.N.

受講動機は、1200兆円を上回る日本国の借金が、この国で生活する小生と家族にこの先どう影響し、どう対処すべきなのかを知りたかったからです。残念ながら、子々孫々にそのつけが廻る説、どんどんお札を刷ればよい説、聞いてもなお判らないばかりか、日本の国力人力低下、はた又外では自由社会の分断・保守化、公然の権威主義…。受講を重ねる程に、危惧要因の知識は増える一方、先生方には恐縮ながら、自身の心に響く答えや具体的・実行可能と合点のいく策は印象に残っていない。なんとも納得のいかないこの現状を学んだことが収穫であったようだ。

ちなみにチャット GPT に文頭の問いを入れてみた。「これがすぐに日本経済の破綻を意味するわけではない。日本の借金の大半は国内で賄われ、日本銀行が国債を大量に買い支えている。問題は「借金の額」よりも「持続可能性」。財政破綻の可能性は低いが、インフレリスクがある。解決策としての増税や歳出削減があるが、バランスの取れた財政運営が求められる。短期的に財政破綻の危機があるわけではないが、長期的には少子高齢化や社会保障費の増加を踏まえて、慎重な財政運営が必要。国民としては、将来的に増税やインフレリスクがあることを念頭に置き、資産の分散や長期的なマネープランを考えておくことが大切。」だそう。もっともな模範解答なのだろうが、危機感のない他人ごと聞こえる。国をリードするのは、将来に渡ってもっと時間軸で示した具体的処方箋、行動指針を明確に示す必要があり、その実行には、現状バイアスに浸りきった国と国民の意識改革と痛みの受容が必須となる。と、やはり小生も傍観者にすぎません。

## 受講を振り返って

T.H.

失われた 30 年と揶揄されて久しい日本経済では、人口減少始め多くの構造的問題を抱え、一部の先進的企業は飛躍を遂げているものの、全体的にはまだサバイバルできていません。それでも最近では、デフレから脱却してインフレ機運が高まりつつありますが、賃金上昇よりも物価高騰の先行で実質賃金は目減りしているのが実情です。この状況下で、裏金問題で庶民生活実感を見誤った石破政権は少数与党となり、国民民主や維新との連携を模索してよりポピュリズムな政策に傾き、次世代へのつけが回る経済施策を選択、財政再建が先送りされる懸念が増しています。世界では、ウクライナ戦争、中東紛争、トランプ政権 2.0 など懸念材料が多々あります。本年度は、メイン講師の武蔵大学東郷賢教授からマスメディアの報道と SNS での情報の偏りが提起され、奇しくも、東京都知事選や兵庫知事選にも表面化し議論となりました。アメリカ大統領選でもトランプ大統領が再選され、新閣僚のイーロンマスク氏は、今でも連日 SNS に投稿し、政治的圧力を高めています。お馴染みになりつつある生成 AI も最近では進化と競争が著しく画像の取込も可能なので、検討事項等がある場合、参考としてアクセスする頻度が増えてきました。毎年開催される三鷹市のフェスティバルでは、総合コース間の交流が課題でしたが、今回はプレゼンのスケジュールを設定して活発な意見交換ができたのは、一歩前進でした。

総合コースは今年度で 57 年を迎えたそうですが、試みに現行の 30 回を 15 回ずつの 2 部制にしてシステムを再構築して、より多くの学習生の参加を目指すのも宜しいのではと思います。60 年を節目にご検討頂ければと思います。

はじめに

衣食住は人が生きるために充足すべき要素です。アパレルでは商品が溢れ、食物も廃棄食品問題、家屋は空き家問題が拡大しつつあります。後期高齢者に到達した我が身では、贅沢を望まなければどうにか生活は出来そうなレベルにまで辿り着いた感があります。しかしながら、まだ何かが欠けていてそれが何かを探っていたところ、三鷹市の広報で本講座を見つけた次第です。

受講した感想はアカデックな基礎に裏付けられた説明内容で自分の腹に落ちるものであり、一部を次の通り述べたいと思います。

### 1 情報化社会における論理的思考の重要性

事実は一つであるが解釈は無限に存在する中で、虚実を弁別することから整理することが必要である。結構これが難しい面があることが理解出来た。

### 2 教育の課題

教育については重要な課題であることは認識しているが、いかなる教育が望ましいかについては全く同意であった。AIの発展との対比は将来について人類の希望の道筋が見えると思いました。ただし、人にも支配する側とされる側が生じるのであろうか。

### 3 安全保障と経済

安全保障を語る際、軍事的側面だけでなく政治・経済が取り組むべきと痛感しました。民主主義体制においては万人に認識が必要だがどうであろうか。

終わりに

まだまだ感想を述べたいところですが、素晴らしい講師の方々による受講ができましたことに感謝しております。これからの日本、世界がどのように展開してゆくのかを長生きして見てゆきたいという気持ちにさせていただける良い講座でした。

魅力的なコース名にひかれ受講しました。メイン講師の東郷先生から、明治時代から現代まで歴史を通して経済の流れを理解することが出来ました。

個人的な結論としては、明治時代の先覚者達が米国及び欧州から先進国家の知見を学び日本を先進国家に創りあげた。

しかし、現代の日本が世界に互していく為には有為な人材の育成が目下の急務と理解します。杞憂なら幸いですが。

その為には、政治が百年先の国家像を示す事が必要ではないでしょうか。

ジェラルド・カーティス氏が「私の履歴書」に記載した「日本の独自の戦略を真剣に考えるときだ。それには日本の未来像と、そこに至る道筋を示す指導力が求められる。」これこそ日本の羅針盤ではないでしょうか。

最後に、受講に関して市民大学をスムーズに運営して頂いた事務局に感謝すると共に、出来れば現役社会人が受講できる方策を望みます。長い期間ありがとうございました。

## 経済コースを受講して

T.M.

初めて三鷹市民大学の経済コースを受講しました。受講のきっかけは、投資に興味を持ち、日本経済および世界経済の動向が気になったことです。

本コースでは、日本や中国、アジアの経済発展の歴史から、現在の経済政策・経済動向、さらにはAIの活用、デジタル通貨、地経学、MMTまで幅広い分野を体系的に学ぶことができました。これにより、日本経済の構造的な問題や、不確実性が増す世界経済について理解を深め、経済に対するリテラシーを高めることができました。

また、自主学習として、講義の内容を振り返りながら発展的に学ぶ機会も得ました。特に、生涯学習センターフェスティバルに向けた展示物の作成とプレゼン準備は貴重な経験となりました。展示のテーマは「日本の経済政策の評価」で、「失われた30年とアベノミクス」を検証しました。この検証を通じて、日本の経済政策の成果や課題について深く考えることができ、多くの示唆を得ることができました。

講義の中で特に印象に残ったのは、日本経済の停滞の原因の一つとして「若者や学生の意欲低下」が挙げられていたことです。グローバル化の進展により、投資が海外へ流出し、国内産業の空洞化が進んだことで企業の活力が低下しました。その影響が若者に波及し、意欲の低下を招いたのではないかと思います。国内産業を再興し、国内需要を拡大するためには、地経学の視点を活かし、国家安全保障を考慮しながら戦略的優位性を持つ分野を見極め、集中的に投資することが必要だと感じました。

本講義で得た経済知識を活かし、今後の経済動向を見極めながら、さらに学びを深めていきたいと思います。

最後に、本コースを支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

## 経済コースの受講を終えて

H.M.

30年の日本の低成長の要因は①「少子高齢化の進展」②「所得リスクの増大による人的資本の劣化」③「財政・社会保障の持続性への将来不安」④「低金利環境の長期化」であることを学んだ。

その中で③について 現在、国会で令和7年度予算審議中をラジオで聞いて孫の将来が不安になった。予算通過のため少数与党は、どの野党（維新は高校無償化、国民民主は所得控除引き上げ、立憲民主は高額療養費の限度額引き上げの延期）の賛成を取り付けるか。いずれにせよ今年も税収を上回る歳出で国債残高増加になる。今の国会議員には世代を超えて国を持続させる長期的認識があるのか。議員には予算・年金制度改革は夏の参議院選挙対策だけですか。

子孫の将来のため「財政・社会保障の持続性を確保して、将来不安を払拭すること」を目標にしてほしい。しかし、今すぐに財政の持続性を回復しようとする、大規模の増税や歳出削減が必要になり、政治的に受け入れが難しい。そこで、「政府の長期的な持続性回復の宣言」を信頼回復のために会計検査院のように独立性の高い独立財政機関（50年先の超長期の将来までの経済・財政の展望の中立的かつ長期推計を財政運営の基礎情報を国民・政府に公開できる機関）の推計を利用した財政運営する。海外には独立財政機関の例として、オランダの経済政策分析局、米国の議会予算局、スウェーデンの財政政策会議等がある。

最大の歳出の社会保障費は、総理大臣が交代すると社会保障制度改革の方向性が大きく変わるリスクがある。超党派政治家、行政のトップもメンバーに入った常設の社会保障制度改革検討組織を設置し、大方針を決定する。超党派の組織で決めたことは、政権が変わっても、方針が変わる懸念もなく、国民の将来不安が軽減される。

2年続けての経済コース参加となったが、メイン講師の東郷先生の講義はユニークで、個別テーマでご登壇の先生方の講義も特色があり、新たな視座や異なる切り口に触れて、経済全般に対する視野を広げて学びを深めることができた。充実した講座を企画・設営いただいた事務局及び企画委員の皆さん、関係者のご尽力に心から感謝申し上げたい。

今年は久しぶりに運営委員をやらせていただき、他のメンバーと協力して自主学習の企画・運営に携わったが、学習生の皆さんが前向きに参画して積極的な発言や真摯な議論を行っていただき、楽しく有意義な時間を共有することができて、こちらも感謝している。特に、一学期最後に「学習生推薦の関連書籍・Webサイト」をとりまとめて配布したことで、夏休み以降、講義に関連しての読書が身近になり、自分自身も例年以上に日常での自主学習としての書籍探求がアクティブに進んだという実感がある。

フェスティバル展示物に関する議論と制作作業についても、踏み込んだ活動が出来た手応えがあり、特に個人的には、「失われた30年」という職業人生活の太宗と重なる時期の経済政策について、金融政策・財政政策という2つのマクロ政策を中心に検証・評価を具体化して形にできたことは、意義深い取組みであり、過去を総括して将来の改善に向けて思考する上で、幾つかの示唆を鮮明にすることができた。フェスティバル当日は、掲示だけでなくプレゼンテーションの場を設けたことで、他コース参加者や一般の市民の方への発信を行う良い機会となり、また他コースの発表内容も興味深く伺って大いに刺激となった。引き続き、問題状況から目を逸らさず、改善意欲を持って学んでいきたい。

以 上

## **講義を受けて感じたこと**

**Y.M.**

まずは、コース名にひかれました。

日本経済が構造的に問題があるのか、そして世界経済は不安定な時代を迎えているのか。日頃の生活中では、値上ラッシュ、特に目についた米の値上と不足は肌で感じてました。そんな中で、日本の経済の動きや世界の動きを学んでみたく講座に参加しました。講座の中で、特に考え深かったのは、人口問題です。人口が減少している事に関心がありましたが一方では、人口が急増している国がある事に驚きました。日本などアジアの国では少子化が急増し、社会問題となっているが、アフリカ、インドなど途上国は人口急増がしばらく続くという。また、人口が増えている国々では、貧困や教育などの様々な問題、くり返される戦争について講義を受けました。

この講義を通し特に感じたのは、移民問題です。日本でも移民の方々の受け入れは、狭き国です。片や人口が減少している国があれば、一方では急増し移民が止まらないとは。非常に短絡的な考えであるが、小さな星地球国で地球人が仲よく暮せないのだろうか。増す増す富が集中してしまい大富豪たちと多くの貧困者たち。こうした現実社会の中で、経済の在り方を考えるチャンスとなった講座は多くの学びがありました。

この一年間、企画委員の方々、センターのお世話役の職員さんに感謝申し上げます。

## 我々は何をすべきか

K.Y.

市民大学を初めて受講した。講義内容と講師が充実していることに驚いた。受講者も大変熱心で、講師の著作を読んで出席する者、鋭い質問をする者などがいて、多いに刺激を受けた。現在の日本は、経済の停滞、少子高齢化、財政赤字の拡大、国民負担の増加、貧富の格差の拡大、社会不安の増大など、様々な大きな課題を抱えている。解決に向けて何をすべきかを考える上で多いに参考になる内容であった。コースの内容や講師を考えていただいた企画委員の皆さんに感謝したい。

## 1 年を振り返って

K.Y.

今年のコースは、メイン講師の武蔵大学東郷賢教授（専門は、開発経済学）が7回の講義で我が国の経済の歴史、アジア、アメリカとの経済に係わる諸事項を紹介され、13回を他の講師が中国経済、AI、デジタル経済、通貨・為替、ジェンダーなどの幅広い分野のテーマを分担し、これに自主学習を加えたコース構成になっている。

一方、教室の外の世界を見ると、2024年は「選挙の年」と呼ばれたように、国内外で主要な選挙があり、日本では少数与党、米国トランプ大統領誕生のような方向性が切り替わるきっかけになった。ウクライナやガザの紛争、関連するエネルギー資源や経済活動への影響、経済制裁もあり、経済の国際分業が進み、自由貿易のメリットを享受してきたかに見えた世界経済は、トランプ大統領の関税強化、それに対する報復関税で、歴史の逆戻りの様相を呈している。

この1年間の学習を通じて、関係する幅広いテーマに理解が多少進んだけれども、今後どうすればよいのか（このコースのサブタイトルの「日本の羅針盤」）については、自分自身でしっかりと考えなければいけないことが浮かび上がった。これが一番の効果かもしれない。

12月にはフェスティバルが開催され、経済コースでは2テーマについて展示物を作成した。今年は、展示物に対して口頭説明をする機会を設けたことで、質疑によってより理解が進み良い試みだと感じた。

今回のコースでの質疑応答では多くの方から質問があり、また自主学習での活発な意見交換で、学習生はしっかりと自分の意見や考えをもってきていると感じた。

この1年間、企画委員・運営委員の熱心な取り組み、事務局の気を配ったサポートなど授業を支えていただいた関係の方々に感謝します。

# くらしの中のことばと文化

講師：中 村 昇  
(中央大学文学部教授)



# 楽しく生きるための哲学?!

.....

講師 中 村 昇

こんなことがあってもいいのか、と言いたくなるような奇跡のような一年だった。今まで、いろんなところで、いろいろな方々を相手に話をしてきたけれども、こんなに楽しく、こんなに(私が)勉強になった一年間はなかった。予備校でも、カルチャーセンターでも、もちろん大学でも教えてきたけれども、これだけのことは、そうそう経験できない。ちょっとだけ大げさに言えば、教師生活四〇年以上になるが、こんなことは一度もなかったと言っても過言ではない。

同じ受講生の方々に、一年かけて十回話す。最初は、ひじょうに緊張した。さまざまな人生の経験を積み、いろいろな専門の方々に、十回分の興味をもっていただけるだろうか、と思ったのだ。しかも、誰もが敬遠する哲学で。

ところが、話しはじめると、いろいろな偶然が重なり、受講生の方々との距離がどんどん縮まっていった。話をしているのが三鷹だということをすっかり忘れて、太宰治の『人間失格』の話をする。そうすると、向こうの世界にいる太宰が連れて来てくれたのではないかと思われるような方(太宰フリークの方)が複数いらして、太宰の話や質問で、盛り上がる。こうなるととまらない。志ん朝師匠が大好きな方や羽生善治関係者(?)、かなりお強い碁打ちの方、さらに、なんと田村一村や鴨居玲のファンの方までいらして、哲学「以外」の絆がぐんぐん強まっていった。これは、いったい何の集まりなのか?

もちろん、哲学の話も言語の話も、西田幾多郎の話もした。余談としてではなく、ちゃんと(!)真面目にしました。西田幾多郎の濃密な哲学を、二回連続で、これでもかこれでもかとお話しした時は、みなさん、とても深く頷かれ、たくさん笑われていたので、これは、うまくいったと喜んでいると、二回とも最後に、司会の方が「さっぱりわかりませんでした!」と仰ったので、ひっくり返りそうになった。

プロの将棋指しとAIとの戦いの話をしたときや日本語の文法の話をした時が一番面白かったという感想もいただいた。私もかなり力が入っていたからだと思う。とにかく全体を通して、哲学の話なんだか、将棋の話なんだか、落語の話なのか、話の内容も何もかも、なんだかよくわからない一年間だった。これはもう、訳の分からないことや謎が大好きなんでしょうがない。だって、この世界は、訳の分からないことや謎が多すぎるんだもん!(たんなる言い訳です)

いや~~本当に楽しい一年間でした。毎回教室は、受講生の方々の輝くような笑顔と、こちらもたじたじとなる鋭い質問に溢れていた。三鷹市を代表する真の哲学徒の方々と、新たな哲学>をともに創造した日々でした。しかも笑いながら(ここ重要)。

受講していただいた素晴らしい皆様、渡邊さんをはじめとする企画委員の方々、そして何ととっても小暮さん。本当に本当にありがとうございました。心の一番底の底の方から感謝申し上げます。

皆さん、お元気で!

## プロフィール



中央大学文学部教授

1958年、長崎県生まれ。中央大学文学部仏文科卒業。卒業論文指導教授は丸山圭三郎。同大学院文学研究科哲学専攻博士課程満期退学。大学院では木田元に師事。中学の時、小林秀雄に、高校の時、南方熊楠に、浪人の時、松岡正剛に影響を受け、哲学を専門にする。二年間だけ、土方巽のところで暗黒舞踏家になる。専門は英米哲学。ウィトゲンシュタイン、ホワイトヘッド、ベルクソン、西田幾多郎など。

<主な著書>

『落語—哲学』(亜紀書房)、『ウィトゲンシュタイン、最初の一步』(亜紀書房)、『ホワイトヘッドの哲学』(講談社)、『小林秀雄とウィトゲンシュタイン』(春風社)、『続・ウィトゲンシュタイン『哲学探究』入門』(教育評論社)など

なかむら のぼる  
中村 昇さん

## 講義の様子



●カリキュラム

| 回  | 日 付    | 講 義 名                                                                                                 | 講 師                         |
|----|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
|    |        | 学 習 内 容                                                                                               |                             |
| 1  | 5月10日  | 開講式・オリエンテーション                                                                                         | 自主学習                        |
|    |        | 開講にあたって企画委員からの哲学コースの趣旨と講座運営についての説明。学習生の自己紹介を行った                                                       |                             |
| 2  | 5月17日  | いかにしてわたしは哲学にのめりこんだか                                                                                   | 中央大学文学部教授 中村 昇さん            |
|    |        | 中村教授の個人的体験と回顧的錯覚を踏まえ、「死」という現象の底知れない不可解さや、大人たちも知らない「本当のこと」を求め、先生、友人等からの影響や小林秀雄の著作を読み哲学を学ぶに至った経緯などを傾聴した |                             |
| 3  | 5月24日  | 哲学にいそしむとはどういう事か                                                                                       | 中村 昇さん                      |
|    |        | メイン講師の中村先生はヴィトゲンシュタインの「確実性の問題」を読み彼の哲学力に驚嘆し、生涯の研究テーマにされた事などを学んだ                                        |                             |
| 4  | 5月31日  | 子どもはいつ宝となったか                                                                                          | 東京大学大学院総合文化研究科教授<br>梶谷真司さん  |
|    |        | 子どもの命が軽視されていた時代から、社会の変容や主流になる思想の変化に影響され「かけがえのない命」として認識されるに至った変遷を学んだ                                   |                             |
| 5  | 6月7日   | 自主学習                                                                                                  | 自主学習                        |
|    |        | ヴィクトール・フランクルの著作「夜と霧」をベースに人生の意味は何処にあるかなど討議した                                                           |                             |
| 6  | 6月14日  | 言語とは何か①                                                                                               | 中村 昇さん                      |
|    |        | 「言語とは誰のものでもあり、誰のものでもない」によって、人間は意志疎通していると思っている。個々人の内的なもの(感情、感覚など)は決して表現できないし、ましてや相手に伝わることはないなどを学んだ     |                             |
| 7  | 6月21日  | 言語とは何か②                                                                                               | 中村 昇さん                      |
|    |        | どういう経緯で、20世紀に言語が哲学の中心的問題になったのか？複数の学説を学んだ                                                              |                             |
| 8  | 6月28日  | 自主学習                                                                                                  | 自主学習                        |
|    |        | 自主学習の対する要望を話合ってもらい、各グループ(4グループ)で発表し、今後の方向性を決める                                                        |                             |
| 9  | 7月5日   | 謝罪のことばを哲学する①                                                                                          | 東京大学大学院倫理学准教授<br>古田徹也さん     |
|    |        | 謝罪の言葉は奥が深い。腑に落ちる謝罪と落ちない謝罪があるのはなぜか、川崎惣一氏の謝罪の定義を見ながら検証した。さらに、文脈、シチュエーション、文化圏の違いによる謝罪の意味を掘り下げる事などを学んだ    |                             |
| 10 | 7月12日  | 謝罪のことばを哲学する②                                                                                          | 古田徹也さん                      |
|    |        | 未成年の過ちを親が謝罪するケース、先行時代の過ちを後の世代が謝罪するケース、戦争に関する謝罪、先住民迫害に関する現在の首相の謝罪等について政治的ないし歴史的な問題を哲学の観点から分析し学んだ       |                             |
| 11 | 9月13日  | 西田幾多郎の哲学①                                                                                             | 中村 昇さん                      |
|    |        | 西田の著書「善の研究」では、現実主義と体系主義という、一見相いれない方法論を強引にひとまとめにしようとしている。西田の云う「純粹経験」とはなにかを学習した                         |                             |
| 12 | 9月20日  | 西田幾多郎の哲学②                                                                                             | 中村 昇さん                      |
|    |        | 「絶対無の場所とは何か」一有の場所、相対無の場所との関係一などについて学習した                                                               |                             |
| 13 | 9月27日  | 母乳で育てるのは自然か                                                                                           | 梶谷真司さん                      |
|    |        | 母乳育児は「自然」と言われるが、そもそも「自然」とはどういう意味か？江戸時代から現代までの母乳育児の立ち位置の変遷を見ながら、「自然」の意味や価値が社会的・歴史的な文脈の中で変化することを学習した    |                             |
| 14 | 10月4日  | 自主学習                                                                                                  | 自主学習                        |
|    |        | 哲学対話を経験し、ディベートではなくお互いの意見に耳を傾け対話を深める方法を学ぶ。テーマは「いい人ってどういう事？」                                            |                             |
| 15 | 10月11日 | 【公開講座】アメリカと世界、そして日本                                                                                   | 上智大学教授・総合グローバル学部長<br>前嶋和弘さん |
|    | 10月12日 | 【公開講座】紛争地の現場から                                                                                        |                             |
|    |        |                                                                                                       | ジャーナリスト 志葉 玲さん              |

| 回  | 日 付                                                                                                   | 講 義 名                       | 講 師                     |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|-------------------------|
|    | 学 習 内 容                                                                                               |                             |                         |
| 16 | 10月18日                                                                                                | 言葉と想像力                      | 東京女子大学教授 大谷 弘さん         |
|    | 和合秀典の高速道路料金不払い運動/マーティン・ルーサー・キングと公民権運動と言語ゲームを学習した                                                      |                             |                         |
| 17 | 10月25日                                                                                                | 家族的類似性と社会                   | 大谷 弘さん                  |
|    | 「言葉の意味とは何か」という問いを起点に、イメージ説・名指し説・言語ゲームを解説。次いで伝統的概念観の説明とその不完全さを論じ、家族的類似性へ展開。倫理やジェンダー問題等を学んだ             |                             |                         |
| 18 | 11月 1 日                                                                                               | 手のひらサイズの哲学                  | 哲学者 永井玲衣さん              |
|    | 永井さんをファシリテーターとして哲学対話を行った。よく聞く、自分の言葉で話す、「ひとそれぞれ」で終わらせない、という3つのルールのもと、参加者から出された問いについて全員で考えを深めた          |                             |                         |
| 19 | 11月 8 日                                                                                               | 言葉と沈黙—語りうるものと語りえないもの【オンライン】 | 京都大学名誉教授 藤田正勝さん         |
|    | 言葉の力、言葉の限界、沈黙、沈黙と言葉、再び言葉の持つ力について学習した                                                                  |                             |                         |
| 20 | 11月15日                                                                                                | 生涯学習センターフェスティバル準備(1)        | 自主学習                    |
|    | 哲学対話。テーマ「名前を付けると何が変わる？」                                                                               |                             |                         |
| 21 | 11月29日                                                                                                | 生涯学習センターフェスティバル準備(2)        | 自主学習                    |
|    | センター・フェスティバルについての説明と、役割分担。哲学コース紹介ビデオの視聴                                                               |                             |                         |
| 22 | 12月13日                                                                                                | 恋愛の本質(落語哲学)                 | 中村 昇さん                  |
|    | 落語「崇徳院」に見る絶対恋愛において絶対を経験することで哲学に迫る事などを学んだ                                                              |                             |                         |
| 23 | 1 月17日                                                                                                | 自主学習                        | 自主学習                    |
|    | ドラマ「阿修羅のごとく」を題材にシナリオのセリフの書き方などを学習した                                                                   |                             |                         |
| 24 | 1 月24日                                                                                                | 自主学習                        | 自主学習                    |
|    | 哲学対話、「社交性はいかに身につけられるか？」をテーマにグループに分かれて対話、討議した                                                          |                             |                         |
| 25 | 1 月31日                                                                                                | 道徳に理由はあるのか                  | 早稲田大学文学学術院教授<br>御子柴善之さん |
|    | 道徳の二つの原理、①判定原理、②執行原理、問題にすることと実行する事の違いなどと、哲学者I・カントの諸説、『純粋性理性批判』と『実践理性批判』の違いなどを学習した                     |                             |                         |
| 26 | 2 月 7 日                                                                                               | 自主学習                        | 自主学習                    |
|    | 太宰治の生涯と三鷹との関係、三鷹でのゆかりの場所紹介、太宰の言葉と人柄についてグループで討議、発表した                                                   |                             |                         |
| 27 | 2 月14日                                                                                                | ヴァイオリン独奏                    | ヴァイオリニスト 戸田弥生さん         |
|    | 哲学コースのカリキュラムで異彩を放っている戸田弥生さんのバイオリン実演の講座                                                                |                             |                         |
| 28 | 2 月21日                                                                                                | 言語と色彩                       | 中村 昇さん                  |
|    | 色とはなにか？から始まり、数々の色彩論を考察する。実際の海が「青」ではないように、複雑で変化しつづけるこの世界の色彩を、言語や名詞で名付けることはできない。言語は現実から乖離しているということを学習した |                             |                         |
| 29 | 2 月28日                                                                                                | AIと言語                       | 中村 昇さん                  |
|    | 人工知能AIの深層学習による上達と困難。その先のシンギュラリティーとトランスヒューマニズムの受入れ等を学んだ                                                |                             |                         |
| 30 | 3 月 7 日                                                                                               | 日本語と哲学(振り返り)                | 中村 昇さん                  |
|    | 二世界説に基づいた欧米の文法には当てはまらない、日本語ならではの哲学の可能性を探る。日本語に主語(主観)はなく、世界全体がその場(述語的场所)にじかに「立ち現れる」という事などを学んだ          |                             |                         |

言葉を使って、諸事もう少し考えを深めてみたいと思い応募しました。落選でしたが、欠員補充で中盤から受講の機会をいただきました。正直に申しまして初回はちんぷんかんぷん。隅の方で浅薄な哲学的素養を恥じ入るばかりでした。しかし落選の痛みを知る身としては、魔城のように得体の知れないウィトゲンシュタインや西田幾多郎も何とか一口くらいは咀嚼してみたいと願い、真剣に臨んだつもりです。深遠な内容についていけず、視線の定まらない思いをしたことも一度や二度ではありませんが、先生方の豊かな講義と哲学に通じた受講生の皆様に助けていただき、何とか最終回を迎えられました。

はじめの哲学対話も大きな学びでした。耳を傾け、受け取り、考える。思うことがあれば何か発してみる。誰かが受け取ってくれることもあれば、ポトンと置かれたままになることもある。また少し考える。聞く。考える。隣人の言葉に触発されて自分が変化したり、まだ熟していなくても話す中で整理されることもある。そんな時間を「遠くの誰か」ではなく、市内の方々と持てたことは貴重な経験になりました。また、本の知識や聞いた話などの引用は避け、各人の言葉で話すというルールは、知識等の差異をとり越えたフラットな対話の土台になることを知りました。日常に取り入れたいと思います。

講義全てを通し、真摯に問いに向かい、思慮深く耳を傾け合う皆様の姿に、未熟な私も少しでも近づいてまいりたいと感じました。独り机に向かうのではなく市民大学で学ばせていただいた意味を、今後の暮らしに活かせればと思います。どうもありがとうございました。

## 哲学（くらしの中のことばと文化）に触れ

「哲学」とは厳密な知識に基づいて人生や世界の根本原理をきわめる学問である、と新国語辞典にある。

厳密な知識とは？

根本原理とは？ 何だろう。

昨年5月から始まった「哲学」講義のスタートだった。

知識豊富な先生方のさまざまなテーマの講義に耳を傾けながら、

脳をフル回転させながらの悪戦苦闘の始まりでした。

しかし、出来る限りの出席を試み、回を重ねて聴講を受けても、聴いているその時は解ったつもりだが、数日たてば思い起こすこともできない。

私にとっての脳は40数年ぶりの「学び」も活性化とはならず、老化に向かっているのではないかと感じる日々の連続でした。

秋になり、長い夏休みの後、休み癖のついた脳は、いかにしても前向きな気持ちにはしてくれず、悶々とした日々の連続でした。

そして、秋の夜長のある日、ふと以前いただいた「哲学の変遷と哲学書」をひもとき、再度読み返してみた。

また、「哲学対話」ではお互いに問いかけることで、知識、聞いた話ではなく、自分の経験で話すことという思考力を育てる方法としての「対話」が存在するということが分かり、そしてその後のグループディスカッションでも、日常の今、考えていることを話せばいいのだと少し納得がきました。

年が明け、後半にきて、ここで諦めてはならないとまた、違う脳もつぶやいてきた。ここが踏ん張りどころかもしれない、と周りの人々を見ながら、少し勇気も出てきた。

そして、ウィトゲンシュタインの「論理哲学論考」の考えを私流に解釈して今一度読んでみようと思い始めました。

中村先生はじめ、諸先生方には貴重なお時間を頂けましたこと、感謝いたします。

哲学者の名言に感銘を受け、哲学をもっと知りたくなったこと、“くらしの中のことばと文化”を深掘りし、哲学を日常に取り入れたいと思ったことが、受講のきっかけでした。

そんな全くの哲学初心者なので、“枕”はさておき、本題に入るとレジュメを追うので精一杯、正直なところ、きちんと理解出来ているかも怪しいものでした。

それでも、哲学は問いかけであり、言語の概念を想像し、疑い、分析し、考え直してみることが大切で、その作業が、自身との対話、物事への理解、他者とのコミュニケーションをとる上でどれほど必要か、講義を通して実感いたしました。

また、私にとって大変貴重な体験が哲学対話でした。ひとつのテーマで、様々な考え方、感じ方、思いがあることに改めて気づかされ、同時に他者を尊重し、否定せず、傾聴して受け入れることが、日頃は出来ていなかったと反省いたしました。

今後は哲学的思考を持ち、言葉を駆使する人間としての交流を諦めず、その上で自身の思想や理念、人生観を構築していきたいと思います。

本講座を完走できたのも、皆さまのおかげです。心より感謝申し上げます。

**センスを持った哲学者****川 瀬 康 夫**

「ずっと笑っぱなしだから、中村先生の授業」

以前、メイン講師の中村昇先生の講座を受講した方から、そんな感想を聞いていた。「哲学で笑う、どういう事？」そんな疑問は5月の最初の講座を受講してすぐに解けた。冒頭から笑っぱなしの講座だった。哲学は、様々な哲学者の名前や、ややこしい考え方をややこしそうな顔で説明する先生、そしてそれをややこしい表情で聞く聴講生のイメージだった、が、この教室は違っていた。満面の笑顔で小話、ダジャレ、果ては自虐ギャグまで講師の口から飛び出す、まるで寄席のようだった。先生が持つパワポのリモコンが、落語家さんの扇子のようにも見えた。

子供の頃に手塚治虫の「マンガの描き方」を買って漫画家にあこがれた事。死ぬ事が何より怖かった少年時代、中学で太宰治の黒い本（人間失格）を読み、ノックアウトされた事。次元は違うが、哲学者と私の間に不思議なシンクロニシティを感じつつ、1年間の講座が終了した。夢のように楽しい時間だった。出来れば、先生と楽しく酒を酌み交わす機会でもあればと思いますが、「よそう、また夢になるといけねえ……」。またどこかの講座（高座）、もしくはスケートリンク（時にはきれいにスベっていた事も）で再会できる日を楽しみにしたいと思います。

最後に、様々な発見をさせてくれた講師の先生方、教室の準備してくれた生涯学習センターのスタッフの皆さま、運営委員の皆さまに心から感謝いたします。

ありがとうございました。

## 哲学コースの講義における「枕」の意味

片 所 達 則

一年間、楽しく哲学の講座を楽しむことができましたことを感謝します。主任講師の中村先生の特長は、本題の哲学の授業に入る前の「枕」にありました。落語家の志ん朝を溺愛している過去を持ち、難しい哲学書の断片を開講する前の「枕」の時間は毎回、ストレッチ体操のような準備体操になっていました。

尊敬する作家、作品との出会い、棋士の羽生先生の話、前回の講義のフォロー、大学の生徒の話、前の週に起きた不思議な共時性のできごとなど、縦横無尽な話を聞いているうちに、不思議と引き込まれていきました。どこまで計画的で、どこまでが即興なのかはわかりませんでしたが、教室の空気に敏感に反応されているライブ感があったのは、ZOOMの早回し視聴が増える中、貴重な体験でした。

意味があるとか、ないとかの時限を超えて、中村先生が取りつかれた縦横無尽の分野の哲学者、作家などに入り込む「熱量」や「楽しさ」を教えられた気がします。ソクラテスが説教したように、哲学の原点は話し言葉（対話）の中にあり、それは一年終わった後に残った講義録に抜粋された書籍を読み返してみようという、至福な読書時間へとつなげてくれます。そういった意味では、これからが哲学講座の第2ステージとなります。

## 西洋哲学と宗教

木 村 眞 次

今回は5回目の市民大学受講で、これまでの様に肩に力を入れて受講する事は止めて、メモも出来るだけとらず、集中して聞きその場で理解できる事を記憶し、分からない事やすんなり腑に落ちない事は忘れても良いぐらいの姿勢で臨んだが、講師の言葉を必死にノートに記録を残すより自分の頭で考え納得いくことが大事だと改めて考えさせられた。

このコース受講で知りたかった事はなぜ哲学は西洋で始まり、学問として発展したのか？

勿論、東洋にも哲学的な学問というか思想は多くあるが、いろいろ学ぼうちにやはり宗教の力というか影響が大きいのではないかと自分では理解した。

特に中世以降、ルネサンス期が始まり、ルターの宗教改革でキリスト教がカソリックとプロテスタントに分かれたあたりを境目にして、ギリシア哲学が蘇り、それまでの全ては神が中心の考えから主観と客観に分けた近代哲学への萌芽が始まったと理解した。

振り返って一番印象に残っている講義は「謝罪と言葉を哲学する」2回の講義だったが、過去に日本がアジアへの侵略を行ったとする当事国の人から、自分が謝罪を求められた時に取った行動というか反応の仕方は間違っていなかったと確信できた事などは面白い内容だった。

しかし考えてみれば、約10か月週一回の講義で西洋哲学が何であるかなんて分かるはずもない事は自明で、やっと哲学の玄関マツを踏ませて貰えた程度だ、これから分かる範囲でやってみよう。

哲学講義で刺激され「暇と退屈の倫理学」(国分功一郎著)を読んで気づいたが、人類は今でこそ定住・定着生活が当たり前で生活しているが、つい1万年位前までは遊動生活だった、狩猟と採集で生活を成り立たせていたわけで、人類は考える事より知覚と経験を頼りに獲物や植物などを摂取して生きてきた、そんなわけで考える事は人間にとっては新しい事なのかもしれない。

2024 年度開講の哲学コースを受講出来る機会を頂き、誠にありがとうございました。初受講の私は三鷹市民大学が市民主体の運営により 57 年継続している事。

1 年を通し中央大学文学部哲学科 中村昇教授に、現役大学生と変わらない哲学講座を 10 回受講出来た事。

自主学習は運営委員のご推薦のビデオ鑑賞、哲学対話、太宰文学サロンでもご活躍されていらっしゃる豊富な知識を基に、クイズを交えて楽しみながらも深い学びの時間。

その他にも東京大学、早稲田大学教授のスペシャル講座、世界的に活躍されているバイオリニスト 戸田弥生さんのソロコンサート🎵 大変有意義な学びの 2 時間🎵 30 回を受講出来た幸せを振り返って、『感謝』一言に尽きます(o^^o)

運営委員の皆様、小暮様等関係者の皆様本当にありがとうございました。1 年間一緒に受講された皆様、お世話になりありがとうございました。三鷹の街でもし再会出来る機会がありましたら、その時はご挨拶させていただきます。

## ことばを巡る哲学の旅

高 橋 かおり

本年の哲学コース「くらしの中のことばと文化」は、メイン講師を中村昇先生が勤めて下さった。私的なエピソードから始まり、幼少期から思春期、そして錚々たる哲学者達に接続する過程を披瀝され、ギャグ満載で深遠な哲学の入り口に誘われるのは、魔法の様だった。

プラトン、デカルト、ウィトゲンシュタイン、デリダ、ドゥルーズ等、出逢う毎に新鮮に驚き、そして疑いが芽生え、信・義の対立と真・偽の対立など次々「問い」を立て、次第に哲学の道に邁進された様子が語られた。

中でも言語が哲学の中心テーマとなる 20 世紀以降のトピックはより身近に感じられた。

その他、西田哲学の世界、恋愛の本質、言語と色彩、AI と言語、日本語と哲学等、ことばに関わるテーマに沿ったカリキュラムが盛り沢山に展開され、とても贅沢な時間だった。

ゲスト講師陣は古田徹也先生（謝罪の言葉）、大谷弘先生（言葉と想像力）、藤田正勝先生（言葉と沈黙）、御子柴善之先生（道徳に理由はあるか）のテーマが印象に残り、又ヴァイオリニストの戸田弥生さんは、難曲ばかりの多彩な選曲で、素晴らしい演奏を披露され、ホール全体に多幸福感が広がった。

「ことば」にこだわった 1 年だったが、視点が異なると見える世界も違って映り、唯一絶対はないのだと感じ、更に多くの哲学者が独自の世界観を持ち、終生思索を深めていく一端に触れることができ有意義だった。

例えば「永遠平和のために」を著したカントの平和論は 2 つの悲惨な戦禍が止まぬ現代に、“道徳不在”の警鐘を鳴らしている様だ。

西洋近代哲学で使用する専門用語は難解で、哲学から人を遠ざけている。文物として西洋から移入された「哲学」自体も翻訳語で、当時の知識人達が翻訳した哲学用語は造語であり、この概念を用いて哲学を学んだ哲学者達の苦労はいかばかりか？

最後に、講師の方々、学習生の皆様、担当職員、企画・運営委員に感謝を捧げます。

平仮名で表記された、くらし、ことば、そして文化。哲学とは遠いところと思われたコース名にひかれて応募しましたが抽選に漏れて、欠員補充の9月からの参加となりました。

メイン講師の中村先生はコース名の期待に違わず、出会いや経験、推し活などでの言葉が雄弁に語られ、それが哲学への入り口に繋がって、2時間の講義が忽ち終了、もっと聞きたいと思うこともしばしばでした。

ゲスト講師の「言葉と想像力」から道徳的に考えることはどういうことか、家族的類似性と社会を考え、人びとと考える場である哲学対話も講師の先生の実践を通じて改めて知ることになり、コースの流れもよかったと思います。

また参加の学習生の方々は知識経験を多くお持ちで、質問や発言にも学ぶところも多く、こうした仲間の中からの講師で自主学習や哲学対話もいい時間でした。

素晴らしい講師の方々や企画運営委員や職員の方々のお力によって、内容の濃い市民大学講座に参加できましたことをありがたく思い、感謝申し上げます。

## 美しきもの

竹 生 深 雪

2年ほど前に思う処があり身辺整理をした。遺った者に迷惑をかけぬよう大断捨離を行なった。後に残ったのは心貧しき私だった。この貧しい心を美しく豊かなもので満たしたい…それが本講座受講の理由だった。今受講を終えて私は次のように感じている。

哲学は『役に立たない学問』と捉える風潮が世間にはある。生産性に重きを置けばその考え方も否めない。だが、形を持たない<心や人間との繋がり>に視座を据えて哲学を見つめれば、透明な言葉で生きる希望と他者への寛容さの種を心の中にそっと置く実に美しい学問である。

本講座の教授陣は現代の哲学研究者の中でも最前線にある方々であり、カント研究においては『天空に輝く星』のような方までいらした。その中で私は中村昇先生のヴィトゲンシュタインの講座に最も感銘を受けた。

ヴィトゲンシュタインは言う。「主体〔私〕は、世界の一部ではない。そうではなく世界の境界」（『論理哲学論考』5・632）だと。私という存在は世界に何が起きようと、じっと『私という世界』に存在していく。『私』という存在は唯一無二であり『他者』もまたそうなのだ。全く同じ感性や思想、などあり得ない。従って他者の評価など気にせずには私は『私のこの人生』を好きなように生きれば良い。その中では喜怒哀楽様々ある。命の残り時間を突然区切られることもある。だから何だというのだ？ 私は全てを存分に味わい尽くして自由に生きる。他者に対しては、私同様他もまた唯一無二の存在である。だからこそ、他の感じ方・考えを十分に聴く。その言動の背景には何があるのか想像力を用い、できれば穏やかな対話と理解によって私は他者と繋がりともに生きて行きたい。

## くらしの中のことばと文化を受講して

M.T.

このコース講義名にひかれ、受講を決意した、哲学、アート、色彩 AI などとの今まで関わりから言葉について新しい多くの学びの場を経験させていただいた。今まで私には哲学を学ぶ機会があったものの、食わずぎらいの気持があったため、哲学は避けて来た。この講座の受講の当初、哲学の難解さに頭をなやませた。受講生のなかには哲学にすっかりなじみ、自分の意向を先生や私たちに説明され、講座を楽しく受講されている姿を見るにつけ、改めて自分の不勉強さを実感した。

さらに丸く輪になって、自分たちが選んだあるテーマを自由に意見を話す（自主学習）を体験した時、自分は何を話したらいいのかわからないと面くらっている時、皆さんが何気ない日常の事を話しているのを聞くにつけ、哲学の学びの本質を知ったような気がした。訳語による哲学用語も、言葉で声に出し説明することで知らず知らずに哲学の世界に入っていけることを実感した。この経験は、私にとってある自信ともなり、さらに哲学を勉強して行こうと強く思った。現代において、家族や友人とでもディスカッションをする事が少なくなったのではないだろうか。毎回受講が終了するのが正午であったため、介護や幼児の保育などから皆さんあわてて帰宅する人が多く、少々残念に思った。

また、日本の哲学者、大森荘蔵（1921-1997）は、具体的経験談をもっと聞きたかった。物心二元論を否定した大森は物理学から哲学に変更した事実には興味がある。

1年間笑いの中に哲学を引きこんでくださり、哲学を身近なものにくださった中村昇教授に感謝申し上げます。

## ことばに寄せる新たな思い

Y.T.

今期9月末に繰り上げ当選ということで後半からの受講となりました。前年度、島菌先生はじめ錚々たる先生方の講義を受講し感銘を受けましたが、特に中村先生の軽快な話術で笑いの絶えない講義は印象的でした。今期も期待通りの面白可笑しい中村節は健在で終始楽しく学ぶことができました。

今期「ことば」がキーワードとなっておりましたが、唯一人間のみが有することばを通して、人間の思考の多様性というものを感じました。

自主学習の哲学対話やシナリオ制作では、同じ事象設定でも、その人の経験が背景にあるのではないかと大変興味深いものでした。

このことから、日頃生活していく中で、その人の発することばの表面的なところで判断するのではなく、その背景の価値観や思考をもとに発言していることに留意し、効率的な、また、自分の価値観を押し付けることなく接することの重要性を意識しながら、コミュニケーションをとるように心掛けていこうと思います。

そして、昨今、世界中で惨事や凄惨たる出来事が後を絶ちませんが、本講義を通してことばの持つ力には、戦争など武力ではなく、惜しみない努力と対話による回避で終結させることも可能なのだと、世界に一縷の望みを見出すことができました。

ここまで、ことばの重要性について述べてきましたが、ことばを発さなくても心に響く芸術や音楽の存在が大きいことも周知の通りです。改めて戸田弥生先生のヴァイオリンの美しい演奏を拝聴しながら、素晴らしい音楽は無条件に人を幸せにしてくれるのだと実感しました。

今回もこのような有意義な時間を与えて下さった運営に携わる皆様、受講生の皆様に感謝いたしております。

## 初めての市民大学

Y.N.

三鷹市民になって十年が過ぎ、少しずつ地域の人たちと交流したいと願っていたところ、知人に誘ってもらい、初めて市民大学を受講することになりました。

「くらしの中のことばと文化」というテーマに魅かれ、迷わずこのコースを選びました。申し込んだ後になって、それが哲学コースだということに気づきました。

始まってみると、しっかり「哲学」の講義の日もあり、聞きなれないカタカナが人の名前なのか本のタイトルなのかもわからない初心者でしたが、それでも毎回新しい気づきがあり、理解が難しい話の中にも、確実に自分の身になっていく何かを感じる一年でした。

特に「哲学対話」はとても興味深く、テーマ決めから結論を出さない意見交換まで、毎回とても楽しく参加させていただきました。日ごろから、小さな疑問を感じると一人であれこれ考える癖があり、教えてもらう前から、実は自分ひとりで楽しく「哲学対話」していたことに気づきました。

このように自分の考えをしっかり聞いてもらえる場をつくっていただけたこと、また他の方々が様々な意見や感じ方を持っていることを知ることができたこと、とても貴重な機会でした。本当に楽しく刺激的な一年を過ごすことができました。

企画委員、運営委員、事務局の方々、共に学んでくださったみなさまに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 三鷹市民でよかった！

R.B.

知人に勧められ市民大学総合コースのホームページを開きました。見ればどのコースも、今をときめく錚々たる講師陣、しかも無料?!三鷹ってすごい!と興奮して眺めていると、哲学コースの「くらしの中のことばと文化」という副題に目がとまり、身近さに惹かれ受講しました。

はじめは専門用語が難しく焦りましたが、回を重ねるうち「ここは自由に考えていい場所なんだ」「今日も考えるヒントをもらったぞ」「立ち止まって考えるって心地いいな」「一緒に考えている人がいて、対話までできるってめちゃめちゃ貴重なことじゃない?」「ここは私の日常には無い場所、大切にしよう」と考えるようになりました。

毎回なにかしらの発見があり刺激を受けました。ぼんやりした考えが言語化される心地よさもありました。哲学対話は安心して恐れずに話せる場所。幼い頃からこんな場所が身近にあったら、どんなに子どもの成長を助けるだろうと思いました。

講師の方々の哲学に向かう真摯な姿にはいつも感銘を受けました。難しいことを楽しく教えてくださる中村先生、謝罪の奥深さを教えてくださった古田先生、哲学を身近に感じさせてくれた大谷先生、御子柴先生、川瀬さんのシナリオや太宰の講義は切り口が楽しく、戸田さんのバイオリン演奏は大迫力、受講生の皆さんの質問や感想も勉強になりました。

こんな素敵な場所が三鷹にあったなんて、三鷹市民でよかった!講師の皆さま、事務局の皆さま、企画・運営委員の皆さまに、心より感謝申し上げます。市民がつくる、市民の大学、これからはますます多くの方が受講されますことを願っております。

## たのしいこの世

Y.N.

水木しげるの「この世は通過するだけのものだから」という言葉が好きでした。子どものころから、あまり現実に魅力を感じられず、早く終わらないかなあとずっと思っていました。いつの間にか大人に分類されるようになり、いつも社会に合わせられない自分を責めたり、無理に合わせては苦しんでいる時期がありました。それでも40手前になって、最近やっと毎日がたのしくなってきたところです。人生なんて遊びごとだと、本気で思えるようになってきたからです。その感覚を、いろいろな視点から一層積み重ねられたような、哲学コースの体験はそんな一年でした。

特に、永井先生の哲学対話で、導入も結論もない、肩書きも名前もない、その時その場だから湧き出た場の成り立ちはとても心地よかったです。また、中村先生の「恋愛の本質」の回もとても好きでした。「私だけが世界」だというワンルームマンションの表現、本当にじっくり来て感動しました。すてきな一年をありがとうございました。

## 哲学には語りえぬものがあるらしい

S.H.

この一年間、哲学コースに在籍して多くの哲学の先生のお話を伺う機会を得て本当に楽しく貴重な時間でした。今年は言葉にフォーカスした内容の哲学コースということでウィトゲンシュタインに関する講義が比較的多かったが、それ以外にも多くの興味深いお話がありました。私は哲学というものは高校時代の倫理社会以来触れたことがありませんでしたので、珍しい動物図鑑を見るような新鮮な気持ちで、毎回目から鱗が落ちるような気分を味わいました。どの先生も大変分かり易く講義してくださったので眠ってしまうような瞬間は一度もなく、面白い推理小説を読み進めるような興奮を味わいました。

講義内容について詳しく感想を述べるほどの知識が身につけていないのが先生方に申し訳ないのですが、これまで深く考えることなく言葉を使って生活したりものを考えたりしていたのに、言葉というものを突き詰めて掘り下げると哲学的な問題に行き着くということを知り驚きました。

ウィトゲンシュタインの言うように「語りえないものには沈黙するしかない」という言語哲学ないし分析哲学的な見解もあれば、カント、ヘーゲルからハイデggerのように思弁的に滔々と語る哲学まであり、自分がどれだけ理解しているかという疑問も含めて、これがよく解説書に出てくる「哲学の森で迷子になる」ということかと実感しました。

楽しい経験で何十年ぶりに知的好奇心を刺激され自分でも講義で紹介された書籍を読んだりして刺激的な1年を過ごさせていただきました。

## 暮らしの中の言葉と哲学

K.M.

中村先生の軽快な口調と笑いの絶えない会話とは裏腹に難しい内容も盛り込まれた講義に苦戦いたしましたが、日常の細かな事柄にも深く考え、たくさんの言葉の中から適切な言葉を見つけ出し、本質を洞察することにより、その意味を感じ取る事で日常に彩が生まれるのだらうと感じました。

ウィトゲンシュタインもハイデggerもよくわかりませんが、中村先生の様々なことに対する興味とときめきを持った生き方は素敵だと思いました。

## これからも「問い」続ける

増田佳子

通っていた脚本講座の終わりが近付いていた頃、「広報みたか」で市民大学の存在を知りました。5コースの中でも哲学はいつか触れたいと思っていた学問。サブタイトル「くらしの中のことばと文化」にも惹かれました。勉強中のラジオドラマ脚本は「言葉」を大事にするので、まさに今の私が知りたいことだ！と運命を感じ、今に至ります。

講義は初めて聞く言葉や初めて聞く哲学者だらけ。しかし西田幾多郎を取り上げた講義で私の誕生日が彼の命日と知り、この日に司会をした私はまた哲学に運命を感じてしまいました。

哲学用語で印象に残り気に入ったのは「イデア」と「問い」です。疑問を「問い」と言い換えると知的でやわらかで、高尚なものに聞こえます。

哲学ってすごいです。哲学者や哲学研究者の皆さんを尊敬します。私は好奇心旺盛過ぎるのか、友人に「どうして？なぜ？」と質問攻めをして「うるさいなあ」と言われることがありました。でも私よりもっと面倒でもっと粘り強い人達がこの世にいるんだと知れたことで、コンプレックスも少し薄れ、図々しくも仲間を見つけた気持ちになりました。毎回講義の最後に質問の時間がありましたが、私達生徒の問いに対する先生方の「聴く姿勢」を目の当たりにし、哲学は対話であり、全ての事が学びになるのだと感じました。

講義内でも取り上げられた「言葉はウソをつく」「言葉にするとウソになる」と言うこと、脚本講座でも習いました。本当にそうだなと思う面もあります。それでも私は「言葉が持つ力」を信じて、これからも言葉を使って様々なことを「問い」続け、皆に伝えたいです。

自主学习で体験した哲学対話がとても楽しかったので、またいつか参加したいです。

## 戸田弥生さんのこと

安永隆則

哲学コースのカリキュラムで異彩を放っているのがバイオリニスト戸田弥生さんのバイオリン実演の講座です。回を重ねるにつれ評判が上がり哲学コースの講座として定着している感があります。

なぜバイオリニストが哲学なのかという経緯を見たいと思います。戸田弥生さんは欧州留学の経験もあり哲学をいつか勉強したいとの願望があったようです。たまたま三鷹の哲学コースの有志と哲学の勉強会（カント永遠平和のために）があり、戸田弥生さんも藤沢からの遠距離にかかわらず参加されました。これが哲学コースとの出会いです。

哲学コースでの演奏にあたっては、破格の条件を吞んでくれています。戸田弥生さんクラスの一流演奏家ですとマネジメント会社を通じ数十万円のギャラが相場になっていますが、戸田弥生さんはギャラにはおおらかで、三鷹に限らず色々なボランティア事業も積極的に活動されています。三鷹市民大学の活動もその一環と位置付けられると思います、

三鷹市民大学での演奏は毎回素晴らしいです。しかしやさしくありません。昨年一昨年までバッハやイザイの曲に慣れてきましたら、今年はシマノフスキー、レーガーなど新しい世界に飛び込みました。毎回一時間半休憩なしで、新曲の多い演奏で緊張感を持つのは大変なことです。その意味で受講生の皆さんはすばらしいと思います。戸田弥生さんも同様の印象です。来年も戸田弥生さんは哲学コースで演奏される予定です。演奏が大変楽しみです。

今年の哲学コースのメイン講師である中村昇先生は、学生にも人気があり大変楽しい方で抱腹絶倒の連続でした。サブ・テーマは「暮らしの中のことばと文化」で、言語に拘って頂きました。また西田幾多郎やウィトゲンシュタインにも及び、内容的には結構難しい事を笑い飛ばしながらの講義は新鮮でしたが、笑い過ぎて時々消化不良にもなりました。

また、我々がここ数年来力を入れているのが「哲学対話」です。ディベートになりがちな議論を哲学対話により、・相手の話を良く聞く・質問する・受け止める・知識ではなく体験をもとに語る、等をルールに「安心・安全」の対話空間を醸成し、何を言ってもよいグループ・ディスカッションの場で、学習生同士の絆も深まり楽しい一年間となりました。

「信念対立を乗り越えて、本質についての共通理解を作りだし、必要に応じてそれを刷新する事。」と言う、哲学の本質にまた一步近づけたかなと思っております。

企画委員、運営委員の皆様、熱いサポートをして頂いた事務局の皆様、本当にありがとうございました。また学習生の皆様と出会えた事、大変幸せに思います。いつかまた一緒にできたら幸いです。

**哲学するって…****H.W.**

初めて参加した哲学コースは、頭の中が「？」でパンクしそうでした。哲学の「ことば」は、なんであんなに難しいのでしょうか？でも、中村先生の講義には、いつも「笑い」があり、笑いの力で私の頭の中の「？」は、きれいさっぱり消え去り残ったのは有名な哲学者の名前でも言葉でもなく先生の初恋の人の名前でした！

自主学習の「ドラマのセリフを書く」では登場人物、柱は設定済でありながらキャラ設定やシナリオが実に様々！皆さんの発表は、とても面白かったです。

また、「太宰治のことば」では、グループ対抗クイズで楽しみながらチーム力が高められました。グループディスカッションは、太宰とウィトゲンシュタインの話になり、自分の見ている夕日の「赤」と他人の見ると夕日の「赤」は同じではない。夕日の色は何色かと問われると、ほとんどの人が「赤」と答えるが、本当にそれは同じ「赤色」なのか？「夕日」が「赤色」なのは共通しているが、「赤色」という言葉だけが共通していて本当は違う色をお互い見ているのではないかという問いに感銘を受けました。このように「人と自分は違う」を前提にすれば、違いを楽しんだり、その違いをどうやったら埋められるか考えたり、同じ（共通点）を見つけたら、嬉しい気持ちになったりするはずです。

さて、私の「？」は、本当に消え去ってしまったのでしょうか？いやいや、そんなことはありません。「ことばの意味って何？」と、どこまでも自分で考え直してみたい…そんな気持ちです。ことばとともに考え、話し、聴くことが私たちの生活の中でどういう意味を持つのか、そのことをくりかえし問う…あれ？これって哲学の入り口？ちょっと今の私、哲学してるかも…

今回の哲学コース全般については、「カラフル」という表現が一番ぴった리だと思います。

中村先生はもちろん、受講生の方々、講師陣、講義内容と全てにおいて多種多様、カラフルでした。

飽きる暇も無く一年が過ぎていきました。

私もそこそこ生きているので、色々な経験はしてきましたが、全く知らない世界を暖かな雰囲気の中で観させてもらい、幸せな時間でした。

中村先生の講義では、「純粹恋愛」（真空パック・ラブ）のお話が大好きです！

これからも思考停止に陥らないよう、つまらない事を考えながら生きていこうと思います。

運営委員会のみなさま、担当者さまのご苦勞に感謝申し上げます。

## よき未来を

C.T.

このあゆみの原稿を書く上で、過去のノートを見返しているうちに、かつて頂いた資料を読むことに没頭してしまったところ、その姿に私が煮詰まったと勘違いした愚息が「チャットGPTに任せれば?」と提案してきました。私は思わず吹いてしまいました。

というのは、先日の「AIと言語」という講義で、AIはディープラーニング(深層学習)を重ね上達しているものの、結局は言葉の継接ぎで、認識できない曖昧な事象には恣意的になるらしい、自然言語処理分野ではまだ発展中であるらしいと学んだばかりで、今後はAI利用には少し留意するよう心掛けようと思った矢先でしたので。

そしてこのことを知ってから、ネット上で“AIによる概要”という文字が頻繁に目に留まるようになり、そのAIの回答を吟味すると、確かに的確ではなく辞書から継接ぎしてきたような広義な説明になっているものもあると認識しました。

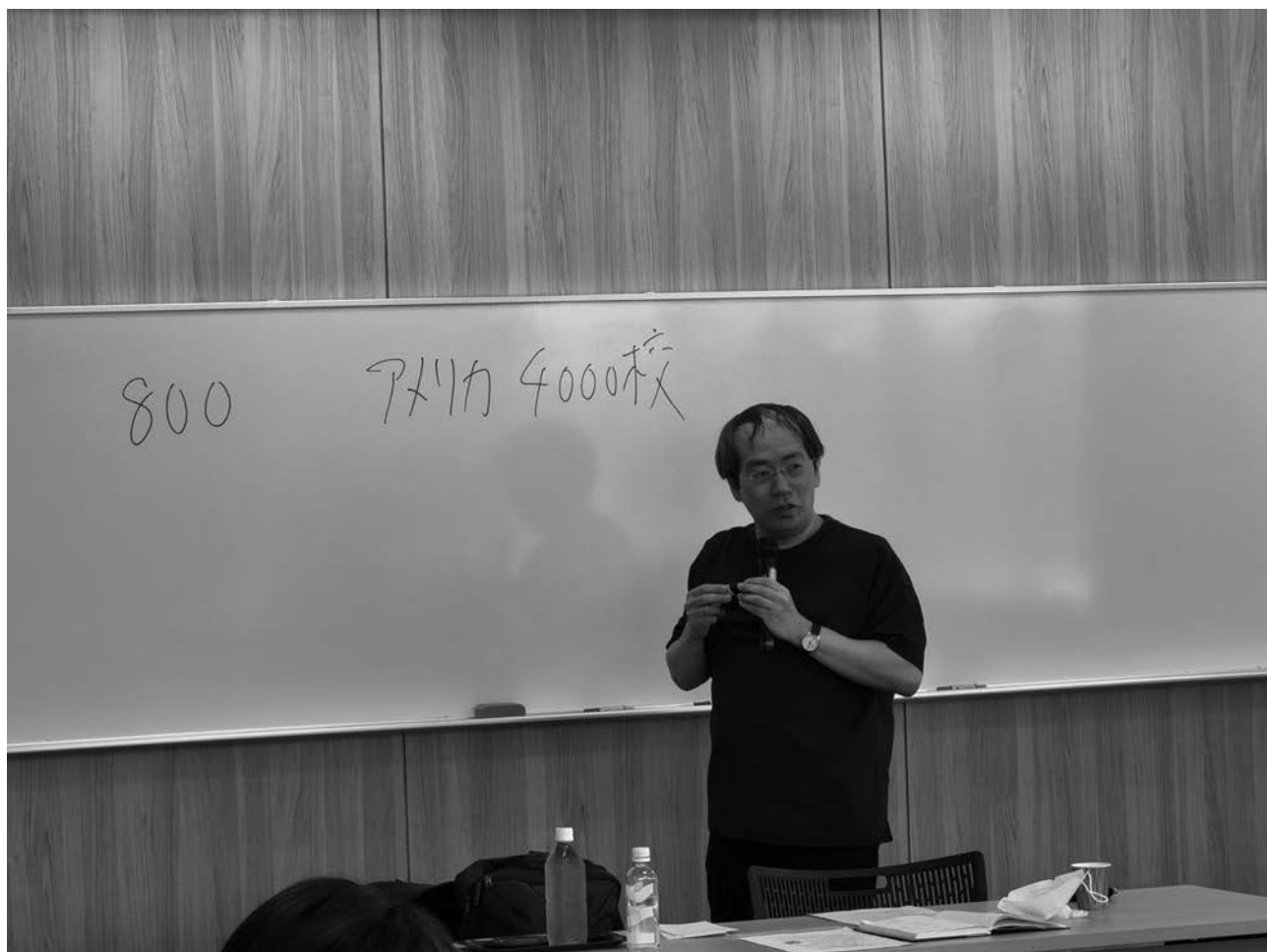
今迄AIが提示してくるものに何の疑問もなくほほほほ信じていたのですが、少し猜疑心を持って利用するようになりました。

ところで、2045年にシンギュラリティ(技術的特異点)が到来し、AIが人類の知能を超越するらしいです。2045年! 娘が家庭を持っているであろう年。どうかその時代が「ターミネーター」のようなAI vs. 人間の時代になりませんように!と切に願って止みません。

末筆になりましたが、心躍る学びの場を下さいました方々に深く感謝致します。

# いま 教育の現在を考える

講師：大 内 裕 和  
(武蔵大学教授)



# 教育の現在を考える

.....

講師 大内 裕和

三鷹市民大学総合コース「教育の現在を考える」にご参加いただいた皆さん、この1年間熱心に講義にご参加いただき、心より感謝いたします。このコースには私よりも年長の方から、若い年齢の方まで幅広い世代の皆さんが参加されました。10代後半から20代前半の学生が多い大学で教える時とは、雰囲気はかなり異なりました。参加者の皆さんそれぞれの視点からさまざまな意見を出していただいたことで、普段の大学では学ぶことができない、多くのことを私は学ぶことができました。日本の大学も「学生年齢の多様化」を進めることが重要だと、あらためて感じました。

三鷹市民大学総合コース「教育の現在を考える」では、歴史的な視点と構造的な視点を重視しました。教育の現在は、過去からの歴史的経緯が深く関わっています。また、教育の現在は、家族や企業、雇用システムなど、他の制度・システムとの構造的関連で捉える必要があります。この二つの視点から考えると、教育の現在をより深く認識することができるようになります。参加していただいた皆さんが、教育の現在をより深く認識することが少しでもできるようになったと思っていただけたのであれば、これ以上嬉しいことはありません。

この三鷹市民大学総合コース「教育の現在を考える」では、幸いにも素晴らしいゲスト講師に多数参加していただきました。本田由紀さん、児美川孝一郎さん、和田悠さん、大森直樹さんら教育研究の最前線にいる研究者の皆さん、前川喜平さん、石井小夜子さんら教育問題の最前線で活躍されている皆さんに参加していただいたことは、このコースの内容をとっても充実させることにつながりました。ご参加いただいた皆さんにとって、ゲスト講師の皆さんの講義は興味深い内容であったことでしょう。コースのメイン講師として、ゲスト講師の皆さんに心から感謝いたします。

このコースの講義のなかでもお話した通り、教育の現在は困難な問題が山積しています。ですから教育の現在を考えることは、かなりしんどい作業です。しかし、「教育の現在」を考えることは、「未来社会への展望」を切り拓くことにつながります。このコースでの学びをきっかけに、参加者の皆さんに「教育の現在」を考え続けていただきますよう、心から願っています。

## プロフィール



武蔵大学教授

1967年神奈川県生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得。松山大学教授、中京大学教授を経て2022年度より現職。専門は教育学・教育社会学。「入試改革を考える会」代表。「奨学金問題対策全国会議」共同代表。「学生であることを尊重しないアルバイト」のことを「ブラックバイト」と名づけ、社会問題として提起した。

<主な著書>

『ブラックバイトに騙されるな!』（集英社）、『教育・権力・社会』『ブラック化する教育』『ブラック化する教育2014-2018』『なぜ日本の教育は迷走するのか:ブラック化する教育2019-2022』（以上、青土社）などがある。

「若者のミカタ〜ブラックバイト世代の君たちへ」をウェブサイト「情報・知識&オピニオンimidas」に連載中。

おうち ひろかず  
大内 裕和さん

## ゲスト講師講義の様子

前川喜平先生



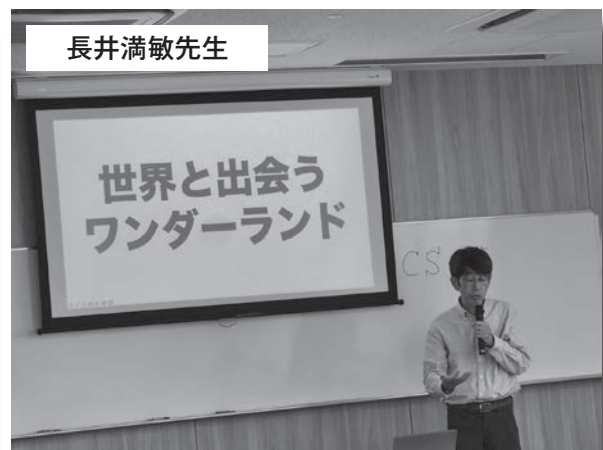
児美川孝一郎先生



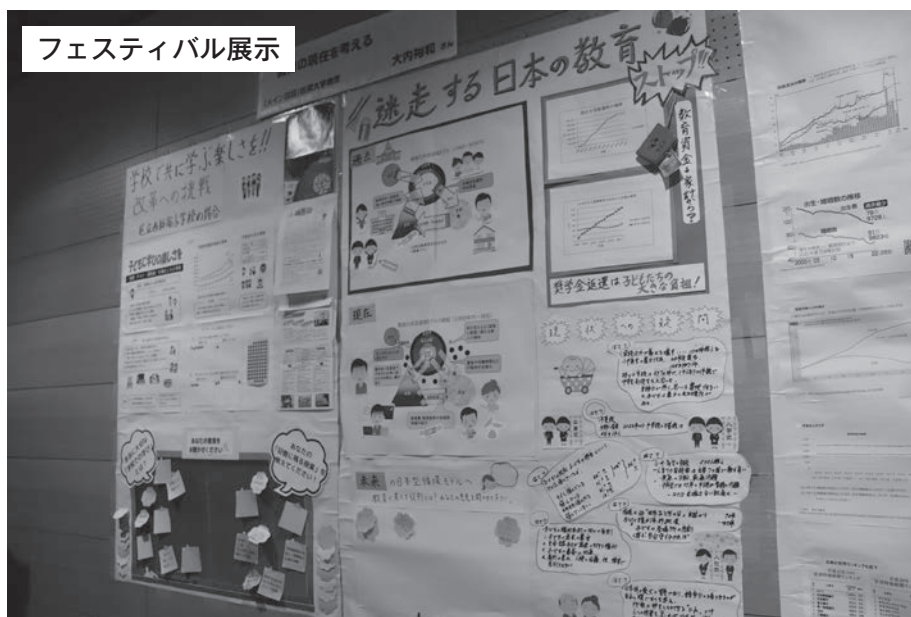
狩野みき先生



長井満敏先生



フェスティバル展示



●カリキュラム

| 回  | 日 付     | 講 義 名                                                                                                                 | 講 師                             |
|----|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
|    | 学 習 内 容 |                                                                                                                       |                                 |
| 1  | 5月11日   | 開講式・オリエンテーション                                                                                                         | 自主学習                            |
| 2  | 5月18日   | 自主学習                                                                                                                  | 自主学習                            |
|    |         | ドキュメンタリー映画『かすかな光へ』を上映。映画は43歳になる教育研究者・大田堯が戦前戦後の日本の社会と人間を見つめ「生きるとは、学ぶとは」を問い続ける姿を映し出す。上映後感想を出し話し合った。                     |                                 |
| 3  | 5月25日   | 講義を始めるにあたって                                                                                                           | 武蔵大学教授 大内裕和さん                   |
|    |         | 受講生の自己紹介・このコースを受講した動機・教育コースに期待することを書いて講師に提出した上で、講師がそれに答える形で現状のビックリするばかりの問題を話す。後半は自己紹介と時代の流れについて。                      |                                 |
| 4  | 6月1日    | 大学入試と大学の現在                                                                                                            | 大内裕和さん                          |
|    |         | 戦後高度成長期、大学進学率は私大の増加もあり伸びたが支えたのは各家庭の資金。低成長期の現在、多くは奨学金頼み。国立大入試を民間業者に委託しようとし撤回に及んだ事件は国の教育姿勢が露見した好例(悪例?)。                 |                                 |
| 5  | 6月8日    | 高校入試の現在と課題                                                                                                            | 大内裕和さん                          |
|    |         | ESAT-J問題を皮切りに、戦後の高校入試の変化、大都市圏への人口移動とそれに伴う産業構造の変化で、さらに格差が拡大する。今後は中等教育の複線化ではなく平等化と充実が必要。教員の負担軽減を早急に！                    |                                 |
| 6  | 6月15日   | これからの教育のあり方について                                                                                                       | 現代教育行政研究会代表<br>前川喜平さん           |
|    |         | 学校からの大脱出が起きている。生徒・教師に心の病増大。教育基本法・地方教育行政法改正の政治介入が教育の抑圧を増大。評価・統制され、強いられる競争に教育の場は萎縮。望むは生徒・教師らが主体的に学ぶ場に、学問・教育の自由を取り戻すことだ！ |                                 |
| 7  | 6月22日   | 「なぜかいじめに巻き込まれる子どもたち」予防策は？                                                                                             | TBS報道局「news23」<br>川上敬二郎さん       |
|    |         | どのあたりでいじめをキャッチし、重大化を防げるかの予防が大事。傍観者が状況を変えられるキーパーソン。多様性を認め、自己有用感(他者のために役立つ経験)を持てるような学び(対話学習など)を。芸人の「イジリ」番組問題も。          |                                 |
| 8  | 6月29日   | 教育のICT化の現状と課題<br>—Society5.0, GIGAスクール, そして教育DX—                                                                      | 法政大学キャリアデザイン学部教授<br>児美川孝一郎さん    |
|    |         | ICT化に伴い公教育が急速に変化してきている。それは教育のあり方を根本から変える動きである。子どもたちの学びと人間的成長の妨害となっていないか?何もかもICT化していくのではなく使わない自由・自ら選択する力も必要である。        |                                 |
| 9  | 7月6日    | 道徳教育と憲法                                                                                                               | 東京学芸大学現職教員支援センター<br>機構教授 大森直樹さん |
|    |         | 2018年に新設された「道徳科」は、憲法を侵害するおそれがあり内容について議論されるべきである。杉原泰雄氏が提唱する「公教育における知育的原則」を元にした教育実践がヒントになりそうだ。                          |                                 |
| 10 | 7月13日   | 「ブラックバイト」と若者の雇用                                                                                                       | 大内裕和さん                          |
|    |         | 現在の大学の授業の際の学生の様子についてお話がありました。バイトに追われている学生、先生ご自身が授業の日程を立てるにも学生のバイトの予定の合間をぬって決めていかなければならないこと等です。                        |                                 |
| 11 | 9月14日   | 奨学金問題を考える                                                                                                             | 大内裕和さん                          |
|    |         | 奨学金問題のこれまでの経過とそれに対する取り組みについてレジュメに沿って話された。問題点に対する対処、課題について話された。                                                        |                                 |
| 12 | 9月21日   | 自主学習                                                                                                                  | 自主学習                            |
|    |         | ①公開講座、フェスティバルについての説明②4グループに分かれての討論を行った。テーマはこれまでの講義の中から1～3つ程度を選出。                                                      |                                 |
| 13 | 9月28日   | 自主学習                                                                                                                  | 自主学習                            |
|    |         | DVD『どうする?日本の水道(自治人権公共財としての水)』と『種子(世界で進む多国籍企業による種子の独占)』の2本を視聴。その後参加者相互に生命に関わる問題について意見交換。                               |                                 |
| 14 | 10月5日   | グローバル時代に必要な英語力・考える力とは?                                                                                                | THINK-AID主宰/慶應義塾大学講師<br>狩野みきさん  |
|    |         | 通常の講義方式とは異なり講師の英語をベースにしたことばのやりとり、対話しながら進行。コミュニケーションが成立するためには?①話し手責任で話す②英語力③自分の当たり前≠相手の当たり前→考える力。                      |                                 |
| 15 | 10月11日  | 【公開講座】アメリカと世界、そして日本                                                                                                   | 上智大学教授・総合グローバル学部長<br>前嶋和弘さん     |
|    | 10月12日  | 【公開講座】紛争地の現場から                                                                                                        | ジャーナリスト 志葉 玲さん                  |

| 回  | 日 付                                                                                                                                             | 講 義 名                                  | 講 師                                     |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------|
|    | 学 習 内 容                                                                                                                                         |                                        |                                         |
| 16 | 10月19日                                                                                                                                          | なぜ“家庭教育”が強調されるようになったのか                 | 東京大学大学院教育学研究科教授<br>本田由紀さん               |
|    | 戦時期の「家庭教育」の奨励から現代にいたるまでの、国家が家庭の中に入り込もうとしている実態を、様々な根拠となる資料を元に説明して下さいました。家庭教育支援法・条例の問題点と、一方で家庭支援は大事であることが明らかになりました。                               |                                        |                                         |
| 17 | 10月26日                                                                                                                                          | 公立小学校改革への挑戦～子どもの手に学びを取り戻す～             | 新宿区立西新宿小学校校長<br>長井満敏さん                  |
|    | 2023年度から、宿題・テスト・通知表の廃止。その成果と評価についてお話しいただいた。学校と教師そして保護者とが対等の関係が良好な関係のスタート。教育とは自立させること。最大の障害は先生の問題かもしれない。                                         |                                        |                                         |
| 18 | 11月2日                                                                                                                                           | 生涯学習センターフェスティバル準備①                     | 自主学习                                    |
|    | フェスティバルに向けた準備ということで、テーマを決めグループ分けをしました。これまで学んだことから興味深いことを挙げ、絞り込んだうえで話し合いを行いました。                                                                  |                                        |                                         |
| 19 | 11月9日                                                                                                                                           | 高等教育費用負担の構造と無償化への展望                    | 大内裕和さん                                  |
|    | 高等教育費の漸進的無償化と負担軽減へ向けての政策提言に至った背景を、1970年以降国立大学の学費値上げが受け入れられ、格差と貧困の拡大、奨学金問題の浮上とともに学んだ。                                                            |                                        |                                         |
| 20 | 11月16日                                                                                                                                          | 生涯学習センターフェスティバル準備②<br>開催日：12/8（土）・8（日） | 自主学习                                    |
|    | 2グループに分かれてのフェスティバルの準備                                                                                                                           |                                        |                                         |
| 21 | 11月30日                                                                                                                                          | 生涯学習センターフェスティバル準備③                     | 自主学习                                    |
|    | 2グループに分かれてのフェスティバルの準備                                                                                                                           |                                        |                                         |
| 22 | 12月14日                                                                                                                                          | 包括的性教育×人権教育                            | 宇都宮大学共同教育学部教員<br>長 香織さん                 |
|    | ユネスコ「ガイダンス」による包括的性教育とは何か？日本における性教育は、女子の生理教育に象徴されるように、人権教育の視点が欠落している。WHOのスタンダードに基づく包括的なジェンダー平等など、8領域について学習。                                      |                                        |                                         |
| 23 | 1月18日                                                                                                                                           | 三鷹市立の小中学校の特色について                       | 三鷹市教育委員会指導課<br>門田剛和指導主事(自主学习)           |
|    | 三鷹市立小・中学校の特色・これまでの取組と現在について・成果として変化や育みがあつたか・知徳体の育成・IT活用・他者との交流・教育課題・特色のある教育・今後について                                                              |                                        |                                         |
| 24 | 1月25日                                                                                                                                           | 教育基本法「改定」と今後の課題                        | 大内裕和さん                                  |
|    | 戦後、新憲法に則った教育基本法が成立した。しかし自民党政権はこれを改定することに意欲をもち、個別の法規や行政を通して教育に介入してきた。2006年の教育基本法の改正により国家主義の強化が進んでいる。若者の格差・貧困は正運動と9条改憲反対運動を進めることが若者たちの将来を守るために大切。 |                                        |                                         |
| 25 | 2月1日                                                                                                                                            | 少年司法(少年法改正 少年犯罪)                       | 弁護士 石井小夜子さん                             |
|    | 少年法は本来福祉・教育法に近いもので、刑事責任より保護処分が適切という考え。しかし2000年以降の改正で、非行事実により処分を決めるという視点に改悪。国連「子どもの権利条約」に基づく人権の尊重が必要と考える。                                        |                                        |                                         |
| 26 | 2月8日                                                                                                                                            | フィンランドの教育～未来へのスキル                      | ライター／フィンランド専門家<br>堀内 都喜子さん              |
|    | 幸福度、SDGS達成度1位のフィンランドの大きな特色は選択の自由度が高いこと。これは教育に強く影響している。学ぶ喜び・学び方を知り学び続け、社会に参加する大人として成長させることが教育に必要だ。                                               |                                        |                                         |
| 27 | 2月15日                                                                                                                                           | 子どもを「市民」にする社会科教育実践                     | 立教大学文学部教育学科教授、同大学<br>共生社会研究センター長 和田 悠さん |
|    | 講師がいらっしゃる立教大学は、系列に立教小学校をもつ関係から小学校教員養成課程があり、ご自身も「社会科教育法」「社会教育」等を担当されている中での「市民を育てる授業」の様子をお話しいただいた。                                                |                                        |                                         |
| 28 | 2月22日                                                                                                                                           | 自主学习                                   | 自主学习                                    |
|    | 映画「小学校～それは小さな社会～（短編）」と監督インタビューの視聴。日本の普通の小学校のドキュメンタリー映画が、海外では高い評価。学習生全員で感想・意見を出し合い、その理由を探った。                                                     |                                        |                                         |
| 29 | 3月1日                                                                                                                                            | 不登校問題から学びのあり方を考える                      | 中央大学文学部教授 池田賢市さん                        |
|    | 各種法律を知ることから不登校の定義を学び課題を考えた。自分で決める経験や将来のための準備ではない学びが必要であり、学び自体に意味があるととらえていくことが大切。それが子どもたちの救いになる。                                                 |                                        |                                         |
| 30 | 3月8日                                                                                                                                            | 未来の教育を構想する                             | 大内裕和さん                                  |
|    | まさに今世界で起きていることから、民主主義と気候変動の危機の広がり・Z世代の思考まで幅広くお話しいただいた。                                                                                          |                                        |                                         |

教育コースの企画委員メンバーとして、メイン講師に教育学の大内裕和さんを迎えることができ、ゲスト講師には多彩な講師陣を迎え豊かなプログラムを構成することができました。全体のテーマは「教育の現在を考える」に決まり、1年間、教育コースに関われたことはとても良い経験になりました。30回の学習を終えて思うことは、1年間実に豊かな学びをさせていただいたと実感しています。

“無償で平等な質の高い教育をすべての人に” このメッセージは、「フィンランドの教育」の講師、堀内都喜子さんの資料の冒頭にあることばです。教育コースのテーマである「日本の教育の現在」を考える上で、「人権」が尊重されているかどうか、教育の大事な視点だと思っています。

メイン講師の大内裕和さんからは、苦境に立たされている若者たちの現状についてその背景を知ることができました。「なぜブラックバイトせざるをえないのか?」「奨学金という名の教育ローン」「教育基本法『改定』問題」など、新自由主義の社会の流れの中で、誰がために教育はあるのか?を考える要因となりました。

全30回の中で、ゲストの講師の存在は大きく、三鷹の市民大学ならではの個性と人間味あふれる講師の方々に出会えたことは実にラッキーでした。

自主学習では、5人の運営委員が協力し、映像駆使しての問題提起など、三鷹の教育を知る機会を得ることが出来ました。教育コースは定員に満たなかったことが逆に幸いしてか、各自の発言時間が多く取れ、相互交流できたことは大きな収穫となりました。最後になりますが、担当のOさんには大変お世話になり、深く感謝いたします。

**\*ゲスト講師のテーマと内容\***

- ・前川喜平さんは「これからの教育のあり方」について巨視的な見解からの講義
- ・川上敬二郎さんからは「いじめと子どもたちの背景と予防策について」のヒントを
- ・児美川孝一郎さんは「教育のIT化の現状と課題」まさに現在進行形の課題について
- ・大森直樹さんからは「道德教育」の教科化と憲法の関わりについての問題提起
- ・狩野みきさんは「グローバル時代に必要な英語力と考える力」の背景と問題点を
- ・本田由紀さんは「なぜ“家庭教育”が強調されるようになったか?」の背景に迫る
- ・長井満敏さんからは「公立小学校改革・子どもの学びを取り戻す」校長先生の実践論
- ・艮香織さんは「包括的性教育&人権教育」をグループ討議を通して体験
- ・弁護士の石井小夜子さんからは「少年司法（少年法改正と少年犯罪）」の問題点
- ・和田悠さんからは「子どもを“市民”にする教育実践論」について学ぶ
- ・池田賢市さんからは「学びの本質を解きほぐす」は教育の本質に触れた感あり

俺だけど カバン忘れた これは詐欺！

広報車が大きな声でアナウンスしながら街中を走り回っている。相も変わらず“振り込み詐欺”の被害が止まない。どうして日本人はこうも騙されやすいのか？ これが格差を抱えた慢性的な不況が続く日本の日常の風景。

俺だけど みやげ渡した よろしくね！

「国民が政治に不信を抱いていることはよく承知している。信頼のおける政治を取り戻したい」と一国のリーダーは言う。しかし現実はこの体たらく。相も変わらず“政治と金”の問題山積だ。これらはこの国の失われた30年を象徴するような出来事だと思う。

昨年度は“政治コース”を受講したが、気になったのが“政治と教育”。失われた30年のあいだに“教育の憲法”ともいえる“教育基本法”がいつも簡単に改悪されてしまった。そんな危機感から今年度は教育コースを受講した。教育は“人づくり”というが、公的教育が一国の存在を左右することは歴史が物語っている。国はどんな人をつくりたいのか。

今回のテーマ“教育の「現在」を考える”は、過去をしっかりと振り返ることも大切だと思った。私の世代の大学生はバイトもしたが、資金の多くは親が出してくれた。それは曲がりなりにも当時の日本の経済がうまく回っていたからだ。しかし、経済格差が広がっている現在、大学生の多くが実質学生ローンであり、名ばかりの奨学金制度に頼らざるを得ない状況に陥っている。はてはブラックアルバイトまで手を出さざるを得ない学生もいる。にもかかわらずいい大学に入ればいい職業、高収入にありつけるという“学歴信仰”がこの国には生き続けている。いっぽう国は本気で教育に投資をするつもりがない。そんな国に未来はない。ただ教育現場ではユニークな授業を工夫をしたり、学ぶ側の若い人たちの中には明るい未来社会を目指して努力している学ぶ者も少なからずいる。それらに期待したい。

## 教育コースを受講して

**T.O.**

仕事で出られないときも多くありましたが、できるだけ出席するようにしました。

大内先生をはじめ、「教育」に関わる様々な分野の先生方のお話を聞くことができ、大変学ぶことが多い1年となりました。

「教育」というのは、学校や家庭だけで行われているものではなく、政治や経済などの影響を大きく受けていることを知ることができました。改めて「教育」とは、社会全体で担うべきものであると実感しました。

メイン講師である大内先生からは、特に入試に関わること、また学生の奨学金やアルバイトに関することについて、現在、様々な問題があることを教わりました。

また、児美川先生の「教育のICT化の現状」についての講義の中で、民間企業がかなり参入してきているということを知り、問題意識を持ちました。さらに、大森先生の「道德教育と憲法」の講義を受け、この国が危ない方向に進んでいるのではないかという危機意識を抱きました。

市民大学教育コースを受講して、「常に学び続けること」、そして「学んだことを次の世代に伝えていくこと」が、とても大事だということを学びました。

メイン講師の大内先生と各回の先生方、また事務局の大中原様をはじめ、運営委員の方々、1年間共に学び続けた受講者の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

講義 20 回、自主学習 10 回、全 30 回は満足のいくものだった（あまり興味のないテーマもあったが）。その中で、特に印象に残った講義は 2 つある。

1. 「公立小学校改革への挑戦 ～子どもの手に学びを取り戻す～」 長井満敏校長
2. 「高等教育費用負担の構造と無償化への展望」 大内裕和先生（メイン講師）

公立小学校改革への挑戦は、3 年生から「宿題・校内テスト・通信簿」を失くして、子どもに学びとは何かを教えるものだ。子どもを一人ひとり見ることができ、地域や保護者との距離を縮めることで、不登校は減少し、子どもの笑顔も増え、保護者からのクレームも少なくなったそうだ。ただし、学力は区内では平均以下、校長が転任したらどうなるのか、まだまだ課題は多くある。

2 の高等教育費用の無償化は、企画の段階から楽しみにしていた講義だった。まずは半額からという院内集会にも参加した。大内先生の大きな熱意は感じられたが、超えなくてはならないハードルは高く、まだまだ先になりそうだ。そのハードルのひとつには、高等教育より先に中等教育の後期（高校）の無償化が実現化しそうだということだ。私も高等教育の無償化は、将来的には実現してほしいと思っている。しかし、無条件に無償化は反対である。大学で本当に「学問をする体制づくり」が出来上がれば、の話ではあるが（定期試験の評価、卒業進級要件を厳しくするとか…）。こちらも課題は多くある。

**「教育の現在を考える」を受講して****小 野 浩 美**

自主学習で映画「小学校～それは小さな世界～」(監督：山崎エマ)の一部を観た。世田谷区立塚戸小学校の様子を映したドキュメンタリーだ。これを見て自分の小学校時代を思い出し、その頃と比較して教員の子どもに対する対応などが進んでいると思えた。海外ではこの映画を観て、子どもたちがルールをきちんと守っている様子が驚かれているという。

小学校から大学入学まで、私はずっと勉強ができる人間を目指してきた。何のとりえもない自分に何か誇れるものができるとすればそれしかないと考えた。大学入学した年に入学した学部が学芸学部から教育学部へ名称変更され、それに対して学生による反対闘争が起き学生は大学をロックアウトした。教員養成学部への転向だった。それから教育について考えるようになった。

政府による教育は国にとって都合のよい人間を育てることにあり、戦前の国家主義教育、道徳教育、戦後の経済成長に必要な人材の育成へと一貫している。それに対してあるべき教育の姿は何なのか考えてきた。義務教育とは子どもが受けなければならない義務ではなく、国が子どもに与えなければならない義務である。

「教育の現在を考える」を受講しようと思った動機は、政府の教育政策に対する危機感とあらためて将来に向けた教育のあり方について自分の考えを持ちたいと思ったことである。

自分の子ども、孫の時代になり、受験闘争、いじめ問題、校内暴力、不登校問題、フリースクール、インクルーシブなど自分の学校時代にはなかったような問題が次々と起きてきて、それらの問題に対して悩んでいかなければならないと考えた。講師の講義を聞く中で教育に対する深い認識を学ぶことができた。

未来に向けた教育の場について今私は次のように考える。(1)社会生活に必要な知識を得られる場(2)人間の差異、能力の違いに対して自分が学びたいものを学ぶ場(3)コミュニケーションを持ち、それを通じて人と人との関係を考えていける場。

三鷹に住んで25年、初めて市民大学の学習生となりました。市報はよく読んでいたのですが知らず、知人よりきっかけをもらったことで出会ったわけですが、「教育」について学ぶということ、また、掲げられていた1年間の各テーマに興味をもち申し込むに至りました。娘も大学生となっていたので必要な知識を得ることを目的とするというよりも、駆け抜けてきた子育て期のことを振り返りたい、また、現在の教育事情を体系的に理解したいという思いがありました。

メイン講師の大内裕和先生は信念を持った情熱あふれる方で、高校、大学の入試事情、ブラックバイトの実情、現代の奨学金問題を熱く語ってくださいました。加えて、いじめ、道徳教育、ICT、グローバル時代の英語力、不登校問題、公立小学校改革、各種法律の学び、フィンランド教育など、専門の先生方の素晴らしい講義を聴くことができました。私にとりましては、先輩学習生の皆さまからの豊富なご経験をもとにした鋭い質問やご意見、そこから広がる議論が毎回とても刺激的で、贅沢な時間でした。

全30回にわたり前年の企画委員さん方の思いが詰まった内容であり、また、学習生同志の交流は新鮮で、先輩方の学び続ける姿を拝見し私のこれからの新たな目標ともなりました。12月のフェスティバルに、まさに学生時代にもどったような気持ちで準備し参加したことは良い思い出です。

生涯学習センターの職員さんの熱心なサポートにも御礼申し上げます。運営委員として関わらせていただいたことも貴重な経験でした。ありがとうございました。

## 未来は人間力にかかっている

人間力を培うのは教育。だが土壌が良くないと上手く育たない。今の土壌はどうでしょう。

メイン講師の大内裕和先生を始め、教育界の錚々たる先生方から頂くお話はとても実のあるものでした。時宜を得たテーマの内容に教えは多く、またそれは同時に問題提起するものであり、問題解決の糸口を示すものでもありました。

糸口を求め、思考する、この繰り返しが土壌を耕すことであり、より綺麗な花を咲かせる為の施肥や水遣りは、私達の成すべき行いと言ったところでしょうか。

こんな花を咲かせたい。

教育の無償化実現。

教育の現場が管理による「息苦しさ」から、寛容と優しい眼差しが注がれる「居心地の良い場」になること。

池田賢市先生は『学びの場を取り戻すこと、登校拒否生を排除するのでは無く、子供が安心出来る学習環境を備える、学校を変える視点を持つ可き』と提唱しています。

こうした望ましい環境により、30万を越える不登校生やメンタルの体調不良を訴える教師が激減することを期待したい。

## 教育という視点から社会のあり方を考えた1年間

辻 知佐子

「勉強するのは何のため?」「なぜ学校に行かなければいけない?」。誰もが子どもの頃一度は考える問いではないでしょうか。親になった今、子どもから同じように聞かれますが、やはり上手く答えられません。

今回、市民大学の教育コースを受講しようと思ったのは、ひとつはこの問いへのヒントがあるのではという期待があったからかもしれません。「GIGA スクール構想の是非」や「フィンランドの教育」「公立小学校の改革」といった、今の教育現場のリアルなトピックから、子どもへの声かけについて考え直したり、自身の今後について気づきを得たりと、とても良い機会となりました。

一方で、子どもの人権や教育基本法、少年法など法令に触れる回も多く、法律の読み解き方や、法律が教育にどのような影響を与えるのかという視点も非常に大切だということ、その方面に自分あまりにも無知だったということを痛感しました。さらには戦後以降の日本の経済や国際問題に至るまで話は及び、視野が広がるとともに、日本の教育の危機的状況が露呈され、絶望感も抱きました。

全体を通して、まさに今子育てをしている世代として生々しい話ばかりで、子どもに何を伝えるべきか、親として何ができるか、といったことを、我が身を振り返りもやもやとする1年間でした。ひとりの主権者として、より良い社会のあり方を自分なりに考えながら、引き続き「何のために勉強するのか」を模索し学び続けるようにしたいと考えています。

## 日本とフィンランドの教育を比較して溜め息が出た

C.H.

自主学習日に見た日本の小学校の記録映画が海外で好評だという。日本人の良さ（協調性、清潔、規律を守る等）は小学校の教育にその基礎が作られているという監督の指摘に受講生も概ね日本の教育のよさを再評価していた。でもね、と後でこんなことを思った。給食の生徒達による配膳（指導する先生は昼休みも休めません）教室の掃除（指導する先生は放課後も休めません）運動会、学芸会、各種行事の準備や指導で先生達1年中バタバタと追まわっている。三鷹市教育指導主事のお話の回の時、小学校教諭だった頃は授業の準備は家でやるしかないのだから家事育児後、睡眠を削りへとへとだったとか。

フィンランドの教育の回では羨ましいと思うことが多かった。日本は先生に育（生活指導、進路指導、部活指導、清掃指導まで）も求めるがフィンランドの先生は教に専念できる。国による学習指導要領の強制はないし部活もない。塾もないが学力は常に世界トップクラス。18才までの義務教育から大学まではほぼ全て公立で授業料無料。

集団指導と進学競争にもまれる日本では高学年になるほど自己肯定感が低下するが、フィンランドの教育は学ぶ喜びを重視し、進路変更や学び直しがいつでも可能な行き止まりなしの教育システムになっている。世界幸福度ランキング1位（日本51位）の国なのも肯ける。（5時には両親とも帰宅できる国なのだ）

てるおかいつこ  
暉峻淑子著「豊かさとは何か」を再読すると35年も前の本だがドイツの小中高は20人前後のクラスの授業に先生が複数つく。受験本位でテクニック、暗記、ドリルづけになりがちな日本に比べ進度は遅いが理解し考えることを重視すると書かれていた。フィンランドでもテストは暗記ではなく殆どの科目が本や資料を読み込み意見を書く形式なのだそうだ。読み考え論理的に書く訓練をひたすらする。日本よ、どうする？

## 共に学び続ける人生は楽しい

谷 島 弘 子

「【楽しい日本】の実現を目指す地方創生を政策の核にする」この石破首相の初の施政方針に対する反響は厳しく、朝日新聞の川柳欄には「【楽しい日本】より【頼もしい日本】を」とあった。「楽しさ」という尺度は結果を数値化して評価することが出来ないが、私は人や社会を元気にさせる大きな動機づけになることは確かだと思う。

ひとり一人が多様な個性や興味関心を追求して仕事にも生かし、経済的にも安定した生活ができれば、本人も地元地域も活性化して、生き生きと楽しい国創りの源流になるのではないかと、私自身の体験を通して思う。

突然の発病で自宅に籠る日常となって約2年、私は今までにない楽しさを実感した。自分の居場所で自由に好きなことに何時間でも使える毎日で、本やテレビ、P.C.等で学んだことや考えたこと、感動したり、怒りや悲しみも覚えたこともメモして確認するのが習慣となった。大病と引き換えに与えられた至福の時間。私に許された時間は残り少ないが、誰にとってもただ一回だけの限りある人生だ。共に学び、話し合う場にまた参加出来たらもっと豊かな人生になる。

そのためにはまず外出ができるようにとりハビリにも励み、幸い今年度の総合コースの受講を許可され願いがかなった。当初は不安もあったが、無事に30回すべてに出席して充実した時間を持てたことは本当に嬉しい。

学び続ける人生は楽しく、共に学んだクラスの皆さんに感謝している。帰りには他の施設やプールを利用することもでき、地元の「元気創造プラザ」はまさにその名の通り、高齢の私にとっても心身ともに元気創造の源になっている。

## 市民大学総合コースを受講して

Y.Y.

私が市民大学総合コースを受講したのは今回で2回目です。前は会場が社会教育会館でした。会場が変わり、世の中の様子が変わり、何よりも自分を取巻く環境が変りました。子育ての真最中だったのが、年金生活者になりました。

市報を見て、学生時代に教員になることを目指していて、教育に関心があったので教育コースを選びました。

受講して、現在の学生達の様子を知ると驚きでした。自分が学生だった頃とは全く違う今の学生の様子を知り、様々な角度から見た「教育の現在を考える」を受講してよかったなと思いました。

この違いを知ることこそが生涯教育なのだと思います。

先日、東京メトロ千代田線に乗って松戸に行きました。綾瀬を過ぎ、JR東日本に代った所で、「3月15日よりワンマン運転になります」と車内アナウンスがありました。ワンマン運転はやがて山手線にも計画されています。このような社会の変化に対応して、自分の生きる術を考えていく際に必要なのが生涯教育であると実感しました。



# 人権と民主政治を身近な問題から考える

～女性の不在・経済の停滞・報道の責任～

講師：西 田 亮 介

(日本大学危機管理学部教授/東京工業大学特任教授)



# 学びの記録

.....

講師 西田 亮介

三鷹市民大学「政治」コースは、1年間にわたって開催された全30回の講座で、「人権と民主政治を身近な問題から考える～女性の不在・経済の停滞・報道の責任～」というタイトルが示すように、現代社会の課題を多角的に考察する内容であった。

コースの企画は市民が主に担当し、そのうち10回を担当した。このコースを通じて、特筆すべき良い点と、今後の改善に繋がる課題を認識することができた。

特筆すべきは、参加者の熱意であろう。これまで、企業や自治体での研修、大学での講義など、様々な場で講演を行ってきた。

だが現実には、それらの多くの場合、参加者の主体的な意欲を感じることは難しく、特に午後からの講義では大半が居眠りをしているような状況も少なくない。

しかし、この三鷹市民大学の参加者は、ほとんどが2時間という長時間の講義中、一睡もすることなく真剣に耳を傾けていた。驚異的とすら言えよう。

さらに質疑応答も非常に活発であった。授業時間を超えて議論が白熱することも珍しくなく、参加者の問題意識の高さと、深く学びたいという意欲が強く感じられた。単に知識を吸収するだけでなく、自らの考えを深め、意見の異なる他者と意見交換することで、より多角的な視点を得ようとする姿勢が見て取れた。

これは、市民が主体的に企画に関わったこと、そしてテーマ設定が現代社会の課題に直結し、身近な問題として捉えやすかったことなどが要因と考えられる。受動的に講義を受けるのではなく、自ら学びの場を創り出し、積極的に参加するという意識が、高い学習効果を生み出していると言える。こうした場合は案外貴重である。

一方で、例えば、カリキュラムの構成や、各回のテーマの深掘り、議論の進め方など、改善の余地はあったかもしれない。より多様な意見を持つ、特に中年以下世代の市民が参加しやすいような工夫や、紙を尊ぶ風潮も見えて取れるが時代に即してライブ含めた配信等のオンラインでの参加形態の導入なども検討する価値があるのではないかな。

総合して今回の経験は、市民の学習意欲の高さと、開かれた主体的な学びの場の重要性を改めて認識する貴重な機会となったといえる。最後に三鷹市生涯学習センターの峰崎恭弘氏には一貫して丁寧なサポートで大変お世話になったことを記して感謝するとともに筆を置くこととしたい。

## プロフィール



にしだ りょうすけ  
西田 亮介さん

1983年、京都府生まれ。博士(政策・メディア)。

慶應義塾大学総合政策学部卒業。同大学院・政策メディア・研究科修士課程修了。

同後期博士課程単位取得退学。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科助教(有期・研究奨励Ⅱ)、中小企業基盤整備機構リサーチャー、立命館大学大学院特別招聘准教授、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授等を経て現職。

専門は社会学。公共政策学。メディアと政治の関係等を研究。

著書に『メディアと自民党』『コロナ危機の社会学』『ネット選挙』ほか多数。

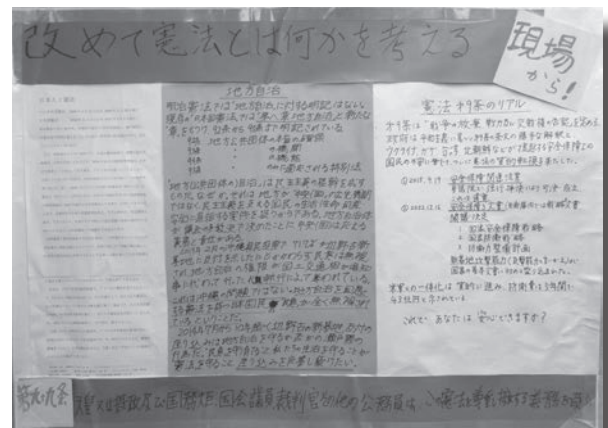
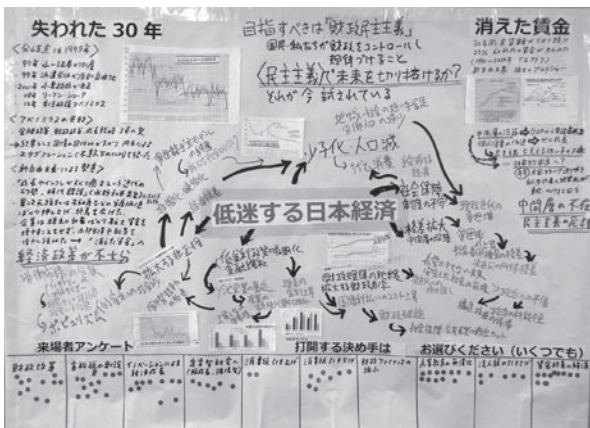
<主な著書>

『コロナ危機の社会学』(朝日新聞出版、2020年)

『メディアと自民党(角川新書)』(KADOKAWA、2015年)

『ネット選挙』(東洋経済新報社、2013年) ほか多数

# 自主学習 及び 生涯学習センター フェスティバルでの プレゼン発表の様子



●カリキュラム

| 回  | 日 付    | 講 義 名                                     | 講 師                               |
|----|--------|-------------------------------------------|-----------------------------------|
|    |        | 学 習 内 容                                   |                                   |
| 1  | 5月11日  | 開講式・オリエンテーション                             | 自主学習                              |
|    |        | ①自己紹介、②運営委員の選出、③質疑応答                      |                                   |
| 2  | 5月18日  | 日本の情報環境概論                                 | 日本大学危機管理学部教授<br>西田亮介さん            |
|    |        | 自己紹介、情報環境の変化、生成AIのインパクトを体験、日本社会の変化の概要     |                                   |
| 3  | 5月25日  | リアル経済を絶望に導くシンボル経済                         | 経済学者・元法政大学教授<br>水野和夫さん            |
|    |        | ケインズを現代の状況から解説、資本主義の定義、シンボルエコノミー・リアルエコノミー |                                   |
| 4  | 6月1日   | 自主学習                                      | 自主学習                              |
|    |        | 自主学習でやりたいことを提案する。                         |                                   |
| 5  | 6月8日   | 議会における女性活躍、世界と日本：女性議員の増加は政治をどのように変えるのか？   | 法政大学名誉教授／未来工学研究所<br>研究員<br>衛藤幹子さん |
|    |        | 女性議員に対する意識、社会に対する効果、世界から比率を見る。            |                                   |
| 6  | 6月15日  | AI、SNS中心の情報化社会と偽情報、民主主義                   | 西田亮介さん                            |
|    |        | 日本での偽情報対策の不備、2024、G 7 から対策も進む感じがした。       |                                   |
| 7  | 6月22日  | 改めて憲法とは何かを考える——「現場」からの視点                  | 早稲田大学名誉教授<br>水島朝穂さん               |
|    |        | 最高法規、権力統制規範、憲法の改正は必要ない。                   |                                   |
| 8  | 6月29日  | 自主学習                                      | 自主学習                              |
|    |        | ジェンダー・経済・情報化・憲法の4つのグループに分かれて討議後、質疑応答      |                                   |
| 9  | 7月6日   | 未来のためのメディア批評①「ガザと沖縄を対置することから何がみえるか」       | ジャーナリスト<br>金平茂紀さん                 |
|    |        | 今起きていることを自分のこととして考える。ウクライナ、ガザ、沖縄          |                                   |
| 10 | 7月13日  | 未来のためのメディア批評②「原発とウクライナを対置することから何がみえるか」    | 金平茂紀さん                            |
|    |        | 沖縄、能登、ウクライナ、ガザ、現場主義報告                     |                                   |
| 11 | 9月14日  | 経済史からみるジェンダー格差(仮)                         | 一橋大学経済研究所教授<br>森口千晶さん             |
|    |        | 歴史を理解すると現在がわかり未来予測ができる。                   |                                   |
| 12 | 9月21日  | 自主学習                                      | 自主学習                              |
|    |        | ①総裁選、②アメリカ大統領選と世界、③少子化、④オールドメディア          |                                   |
| 13 | 9月28日  | 情報化社会と選挙、政治                               | 西田亮介さん                            |
|    |        | 近年の選挙、政治の変化と原因、ネットと政治問題の検討                |                                   |
| 14 | 10月5日  | 現代社会における報道の現状                             | 西田亮介さん                            |
|    |        | 現代、将来において報道は機能しているか、するか                   |                                   |
| 15 | 10月11日 | 【公開講座】アメリカと世界、そして日本                       | 上智大学教授・総合グローバル学部長<br>前嶋和弘さん       |
|    | 10月12日 | 【公開講座】紛争地の現場から                            |                                   |
|    |        |                                           | ジャーナリスト<br>志葉 玲さん                 |

| 回  | 日 付                                | 講 義 名                                      | 講 師                                   |
|----|------------------------------------|--------------------------------------------|---------------------------------------|
|    | 学 習 内 容                            |                                            |                                       |
| 16 | 10月19日                             | 影響力工作とプロパガンダ                               | 西田亮介さん                                |
|    | 2000年代以降の最近の事例に焦点を当てた講義            |                                            |                                       |
| 17 | 10月26日                             | 自主学習                                       | 自主学習                                  |
|    | グループ討議、フェスティバル準備                   |                                            |                                       |
| 18 | 11月 2 日                            | 社会学超入門                                     | 西田亮介さん                                |
|    | 社会学のイメージ、流れ、必要性、何故学ぶのか             |                                            |                                       |
| 19 | 11月 9 日                            | 医療等社会保障財政の現状と課題—保険料率の将来推計を改革のトリガーに—【オンライン】 | 法政大学教授<br>小黒一正さん                      |
|    | 財政、社会保障などの長期資産、地方創生など。             |                                            |                                       |
| 20 | 11月16日                             | 生涯学習センターフェスティバル準備①                         | 自主学習                                  |
|    | 女性の不在、経済の停滞、報道の責任、憲法               |                                            |                                       |
| 21 | 11月30日                             | 生涯学習センターフェスティバル準備②                         | 自主学習                                  |
|    | 4 グループで展示物を作成                      |                                            |                                       |
| 22 | 12月14日                             | 子どもの貧困と教育の無償化                              | 現代教育行政研究会代表<br>前川喜平さん                 |
|    | 子ども少子化対策と政策の内容                     |                                            |                                       |
| 23 | 1 月18日                             | 日本型システムとその課題                               | 西田亮介さん                                |
|    | 日本型経営、日本型福祉、2020年代以降の日本社会          |                                            |                                       |
| 24 | 1 月25日                             | 自主学習                                       | 自主学習                                  |
|    | 4 グループ発表後、活発な意見交換をする。              |                                            |                                       |
| 25 | 2 月 1 日                            | 第 5 次三鷹市基本計画について                           | 自主学習                                  |
|    | 三鷹市企画部企画経営課長丸山氏                    |                                            |                                       |
| 26 | 2 月 8 日                            | 市民の権利としての情報公開と市民社会の今                       | 特定非営利活動法人情報公開クリア<br>リングハウス理事長 三木由希子さん |
|    | 会の活動。個人としての情報公開を求めることと情報の追跡。       |                                            |                                       |
| 27 | 2 月15日                             | 混迷する世界のなかで戦争と平和を考える                        | 元内閣官房副長官補 柳澤協二さん                      |
|    | 考える、戦争を起こしてはならない論                  |                                            |                                       |
| 28 | 2 月22日                             | ジェンダーと民主主義を巡る現状と課題                         | 西田亮介さん                                |
|    | 日本のジェンダーギャップ指数、146か国中116位と努力義務     |                                            |                                       |
| 29 | 3 月 1 日                            | 政治と宗教の現状と課題                                | 西田亮介さん                                |
|    | 宗教とは意見交換。日本人は無宗教か。憲法は宗教をどう規定しているか。 |                                            |                                       |
| 30 | 3 月 8 日                            | 総括                                         | 西田亮介さん                                |
|    | 2024年 5 月から2025年 3 月までの講座を振り返った。   |                                            |                                       |

まずは、豪華な企画に尽力された市職員や運営委員に感謝申し上げます。

長らく理科系人生を送ってきた私にとって、政治や社会をテーマとした教室への参加は還暦を目前にした、ちょっとしたチャレンジでした。なぜ政治コースだったのか。今振り返ってみる、まあうんざりするほどの不合理無理解非寛容無慈悲。。。に対する、ちっぽけで私的な正義感を、少しでも普遍的なものに抽象化したい、という欲求があったのだと思います。行き場のない正義感で一人発憤しても、はた迷惑なだけですもんね。

では受講を終えて、答えは見つかったのか、と言えば、そんな単純ではないことを再確認しただけ、実に多様な正義と論理と表現が相並ぶ姿を目の当たりにすることになりました。毎回、発見があり、考えを深める時間を過ごせた一方で、理系視点では、引いてしまう、という局面も正直あり。

その中で、メイン講師の西田さんの講義は、オーソドックスな学問作法なのでしょうか、内容もさることながら、その方法論に多くの示唆を頂きました。

具体的には、データの裏付け、法理論や法技術に基礎を置いた論理展開、論議の蓄積への目配り、歴史や国際視点からの相対化、といったことでしょうか。私の勝手な観察ですが、西田さんは、こういった手法を駆使することで、内面に隠した熱い動機を洗練させ、自称没道德、クールな外姿を見せているとお見受けしました。ご本人は否定されるはず、的外れかもしれませんが。

このような方法論と、寛容さをあわせもつことに希望を見る、それが私自身の収穫なのだと思います。さらに言えば、多くの人が、この手法を身に着けることで、噛合った健全な議論ができる、その基礎を築くという意味で、市民大学としても、相応しいものだったのではないのでしょうか。

## 学んだこと、考えたこと、そして・・

多事多難な 2024 年だった。激しさを増したガザ侵攻とウクライナ戦争、トランプ再来と揺らぐ国際秩序。国内では裏金、少数与党、ネット選挙と意外な結果、9 年連続の出生数過去最少、世代間対立の予感、税制・社会保障など戦後の分配を支えたはずの制度への不信と将来不安…初めて参加して 30 回の講義を聞きながら、私たちが手にしているはずの「民主主義」の機能、効力、危うさについて改めて思いを致さずにはいられなかった。この制度をこれから先どういう議論を通じて、どこをどう見直して、どう運用していかなる未来を展望していくのか？ 私には大きすぎる課題としか見えないが、とにかく皆で考えていくしかないのだろう。私たちは、そして世界はどこへ向かってゆくのか？

講義とともにそこから派生した政治・経済・社会福祉・歴史など多くの良書にめぐりあい、さまざまな叡智に触れた一年であったが、又たくさんの難問も突きつけられた。ひき続き 2025 年度も(もし受講できれば)市民大学で考え答えを求めていきたい。

最後に望蜀の嘆を一つ、「民主主義」の現在についてもう少し議論を深めたかった。

2022 年度経済コース受講メモでは、CO<sub>2</sub> 排出（気候変動）と生産年齢人口減少に注目しました。2023 年度歴史コース受講メモでは、安富先生の師匠森嶋先生の日本人には、すでに起こってしまったことに対して、起こってしまったことを前提に全体を前に進めようとして、原則に戻らず原則を崩す面もあります。（安富歩著『満州暴走 隠された構造』92 頁）を参考に、構造的衰退国家（気候変動・生産年齢人口減少）への回避の道筋は見えずとしました。以下、本年度、注目した事をメモします。長州藩が英米仏蘭連合艦隊により、馬関砲台を占拠された時の庶民の振舞いについて、英艦に乗船していたアーネスト・サトウによれば、「日本人たちは作業している部隊にはきわめて有効的な態度を示し、自ら進んで大砲の持運びを手伝った。彼等は彼等にさんざ迷惑をかけた玩具を取払うのをまぎれもなく喜んでいた」。（杉田敦編『丸山眞男セレクション』国民主義の「前期的」形成 第二節徳川封建制下における国民意識.25 頁引用参照）とあります。アジア太平洋戦争中の暴力的弾圧から解放された少数の進歩的知識人は、民衆の為にまた民衆とともに活動することを決意した。しかし敗戦を解放と感じたこれらの少数の意識と敗戦を敗北と感じた多数の民衆のあいだには、かなり深刻な心理的な溝が横たわっていた。（杉山光信編『日高六郎セレクション』74～75 頁引用参照）アジア太平洋戦争の民衆の敗戦の実感と、高度経済成長の果実、及び、米国の対日占領政策転換前に施行された日本国憲法で、日本は戦後 79 年ここまで来ました。しかし、前述封建時代から続く国民性と、『現代日本の政治過程』岡 義武編 第二部 支配権力の結集過程, I 支配体制の政策と機構 第一章 政治政策の基本線 辻 清明執筆. 参照）で取り上げている主権者についての考え方には、未だ整理がついていないのが、日本の現状だと思います。

## 受講を終えて

大谷内 千 秋

この政治コースで各先生から、混迷する世界情勢とその原因などを教えていただきました。ここ数年で独裁的リーダーが世界あちこちに出現して紛争や社会の分断を起こしています。世界は多様性や公平性や包括性ある社会を目指していたはずなのに、民主主義の理想とは逆方向に物事を進めていくリーダーに啞然とさせられます。そこには民主主義の基本を形づくる寛容性、自制心、倫理感などありません。そのような政治家たちが世界のリーダーになって、これから世界情勢は大丈夫か、平和は、環境はどうなっていくのかとても心配です。

日本でも昨年の選挙で、対立候補者への誹謗中傷や虚偽発言が問題になりました。SNS などを利用してそれらの情報が拡散していきました。若い世代の投票率を上げるためにインターネット選挙運動ができるようになりました。動画などで政策などを分かりやすくアピールするメリットはあるのですが、政策の中身よりも刺激的内容にひかれる有権者も多く、これで公正な選挙ができるのか不安になります。将来インターネット投票を実現するには、多くの課題を克服していかなければいけないと思いました。

デジタル化が進み、情報はネットで取る人が多くなり、ここ数年で紙の新聞の発行部数がかなり減少したと聞きました。インターネット上には膨大な情報がありますが、偏った情報に気づけなかったり、難しい社会問題などはあまり読まれなくなるかもしれません。デマやフェイクニュースに惑わされないように情報を取っていかなくてはいけないということを切実に考えさせられました。

2017年度の「あゆみ」に「3つのトランプタワー」という感想文を書いた。仕事でニューヨークに出張したときに目にした国連ビル前のトランプタワー、金融街（ウォール街）のトランプタワー、そして五番街のティファニーの隣にそびえるトランプタワーは資本主義、グローバル経済の象徴であり、大統領になったトランプ氏が疲弊した白人労働者に寄り添う存在にはなり得ないだろうと。25年1月、再びトランプ氏が大統領に返り咲いて、その考えを改めた方がいいと思った。トランプ待望論というより、むしろ中間層が没落したことによって民主主義が機能不全を起こしている、といった方が正確ではないか。

日本でも同じような現象が起きている気がしてならない。山一証券の破綻もあった1997年を期に、日本経済は「失われた30年」が続いている。この間、実質的な賃金は下がり続け、労働生産性の上昇率に見合う実質賃金は97～24年で23%少なく、本来なら労働者に支払われるべき60兆円分の賃金が分配されていない。小泉政権以降、アベノミクスに代表される新自由主義の経済政策によって収益が企業や株主に吸収され、貧富の格差が広がるとともに、GDPの6割を占める個人消費が振るわない結果、景気の低迷やゼロ成長が続く悪循環となっている。さらに円安が生活苦に拍車をかけ、老後の年金も目減りしている。戦後、生活に不安を感じることなく民主主義を支えてきた良識的な中間層が急速に失われている。

民主主義の担い手がいなくなることによる危機的状況は、米国では「既成政党ノー」という選択に表われているし、日本ではソーシャルメディア（SNS）に翻弄された東京や兵庫の知事選、減税をうたう少数政党が躍進した衆院選にかいま見ることができる。その先はお金を無責任にばらまくだけのポピュリズムや独裁国家か。負の連鎖を打開する手立ては、24年12月の生涯学習フェスティバルの来場者アンケートでも支持が多かった格差の是正（富裕税の創設、賃金格差の是正）、財政改革であり、定常型社会（脱成長、循環型）の実現だと思う。ただし、世界のこうした風潮の中で起こった歴史的な悲劇であるウクライナやガザの現状を見るにつけ、理想との隔たりはあまりにも大きい。

## 政治コースの受講を終えて

T.K.

政治問題に興味はあったものの、TVやラジオ、新聞などで解説を聞いたり、読んだりするぐらいで政治に関する専門的な知識はあまりありませんでした。しかし、第二次安倍政権の政治と金の問題、経済格差の拡大、国会での議論の無い官邸主導の政策の決定などについて疑問を持ち、もう少し勉強したいと思っていたため、市民大学総合コースの政治コース講座に応募しました。

このコースは、女性の問題にも焦点が当たっており、私自身の問題でもあると感じました。しかしながら政治や経済、報道に関する知識があまりなく、このコースについていけるのか不安でしたが、西田先生を始め、このコースに関する専門分野の先生方が分かりやすく話をしてくださいました。毎回、講義についていくのが精一杯でしたが、各講座とも新しい知識、視点、考え方を知ることができ、受講してよかったと思いました。

2024年は世界でも、日本でも選挙イヤーでした。政治と金の問題、SNSなどの新しい選挙方法の問題、SNSの偽情報やファクトチェックなどの報道の役割、都知事選挙では選挙ポスターなど公職選挙法の問題が持ち上がりました。また、女性の問題では、世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数や国連女性差別撤廃委員会最終勧告などが出されました。まさに今、この講座で学んでいることが次々に起こり、政治はどこか遠いところで行われているものではなく、私たちが当事者であると感じました。そして民主主義や人権について、これからも関心を持ち続け、考え続けて、私たち国民が育んでいかなければいけないものの、またそうしなければ失うものだと痛感しました。

今年度のメイン講師・西田先生の最初の講義に度肝を抜かれた。従来のレジュメがなく QR コードが正面に投影され、スマホで資料を手に入れ、先生の質問に答える形式だった。スマホの操作に慣れない私はついて行けるのか心配になったが、紙による資料配布の救済措置があり助かった。世の中の変わりようを肌で感じた。

市民大学では経済コースが長く社会学に触れるのは初めてだった。西田先生は社会学の定義を「不安を抱えた社会を明らかにしたいと生まれたのが社会学。よって幅が広く、政治経済、フィールドワークなどが体系的でないのが特徴。社会現象を調べる学問で社会の相関関係を追及するのが主で、因果関係の分析には弱かった。」と解説された。原因があってその結果が今で、どうすれば解決できるのかを知るために市民大学に学ぶ私にはちょっと物足りなさを感じた。

憲法9条が実質骨抜きにされている今、水島講師の講義は大変参考になった。憲法だけは常に「変える」側に高い説明責任が課せられること、情報公開と自由の討論、熟慮の期間が必要なことをしっかり覚えておきたい。

自衛隊のイラク派遣に関わった柳澤講師の実体験に基づく、「非戦の安全保障論」は心に滲みた。キーワードの「専守防衛」は地政学的に合理的な守り方に納得。

三木講師の「市民の権利としての情報公開と市民社会の今」は世の中の「おかしい」と思った時に声を上げるきっかけが掴めた。金平講師の「いろんな抵抗や意思表示の仕方がある。とにかく声を上げることが大事」につながった。

自主学習では4つのグループに分かれてそれぞれのテーマで議論したことがコミュニケーションに繋がりました。市民大学は三鷹の文化です。有難うございました。

真冬より寒い日があったりする3月中旬は「あゆみ」の原稿に悩む。あまり読み手がいなくて書くことにした。スタートはQRコードを読み取ることからであった。元来使っていた形式と新しい形式と舐う（もやう）時代を迎えたと感じた。初めての社会学は講師から方向性の指示は無かったが考えるヒントは毎回頂きまだ頭の内が整理できないでいる。

5コースでスタートした総合コース市民大学は常に学ぶ事に対して市民への還元が問われる。何故かと言えば税金を使って講師を招き無料で受講ができる。自主運営をする。その結果として何がどう市民に還元しているか問う人が多くいるからだ。まずは市民大学への参加を誘うのですが反応は多々ある。今回学んで気が付いた事を書く。前内閣官房副長官補柳澤協二さんの講義を重く感じた。今この時代に戦争が勃発するとは思ってもみなかった。戦争は絶対にあってはならない。有事があったら日本は生き残ることは不可能に等しいと話された。日本は専守防衛を掲げているが数多くある原発、戦後生育が良い杉を沢山植林し日本列島を杉林が縦断していることから理解できる。柳澤さんは戦争が起きないようにする為に勉強会をされていると話された。戦争は絶対あってはならない。情報公開制度を講義された三木由紀子さんは使い方によっては両刃になるが判断力を持つ必要性と疑問に思ったことは声を上げることが大切だと感じさせられた。暑い2024年の夏だった。アメリカでは221年ぶりに17年周期蟬と13年周期蟬の大合唱があったという。トランプ大統領の先行きも気になるが自然は元気であってほしい。4億年生命の営みを続けてきた深海魚のシーラカンスのプラスチックゴミを食べた遺骸が発見されたという。社会学は問題を提起する事だと学んだので記した。

## 今、政治学を学ぶということ 2024年度

児 玉 千津子

今年も優秀な講師陣に恵まれ、有意義な「政治コース」に加えていただき、三鷹市に、そして峰崎さんはじめスタッフの皆さんに感謝しています。

2024 年前半の NHK 朝ドラ「虎に翼」は胸の躍る番組でした。水島朝穂先生（6/22 担当）の教え子が制作に携わっていたとか。法という「目に見えない鎖」を可視化し、戦前、戦中を通してそれがどんなに人を縛っていたか、戦後の「憲法の具現化」に「寅子」と個性豊かな仲間たちがどれほど奮闘していたか、襟を正して観ていました。私たちは次世代に誇れるような「目に見えない何か」を遺せたらどうか、忸怩たる思いです。

7/6,13 2 回にわたって担当してくださった金平茂紀さんのお話は忘れられません。「ジャーナリストは現地へ行って自分の見たもの、考えたことを伝えることが大事」、勿論、私はジャーナリストではありませんが、現代を生きる日本国民として、私が現在の沖縄を見たいと思ったきっかけです。10 月末、3 泊 4 日の沖縄平和学習ツアーがあることを知って参加しました。

最初に到着した石垣島は驚きでした。自衛隊基地周辺は近づくことができず、高台からはるか遠く大きな建物を眺めただけでしたが、ぽっかりと切り開かれた空間に要塞のような数々の建物、大変なことになっている…という緊迫感を感じました。そこからバスで海の近くの公園へ移動後、そこで見たのは「戦争の放棄」と彫られた 2.5m ほどの高さの本を開いた形の石碑でした！「戦争の放棄」の石碑の後ろは、石碑の鳩が翼を広げて「本」を支えています。

「巨大基地と憲法九条」そのあまりのコントラストに胸がドキドキし、石垣島民の悲鳴に近い「平和への希求」を聞いた気がして、本土の人間として、いたたまりませんでした。

沖縄本島へ移動後、宜野湾市の中央嘉数高地から普天間基地を見た時も、何でこんな市街地の真ん中にこんな巨大な基地があるのか、辺野古基地のキャンプシュワブ前の座り込みに参加した時も、何で海に面したリゾート地を埋め立てて自然を壊し、巨額な費用をつぎ込み新基地をつくるのか…「もはや新しい戦前である」と言われる意味がよく分かりました。

日本本土と沖縄の人々の見ている現実の違いの大きさに「同じ日本？」と怒りがわきます。「具体的に、現実的に」平和を希求していこうと思います。

金平さん、ありがとうございました。

## 学びと気づきの力

鈴 木 美由樹

政治について SNS で発信される情報にはフェイクニュースも多く、その誤情報により有権者が誤った認識や投票行動をするリスクが増えてきています。また、インターネットのアルゴリズムの弊害として、一方的な意見にばかり触れることで客観的な目を持つことも難しくなっていると感じます。こうしたメディア環境の変化の中で、誤った判断をしてしまう事がないよう、私たちは今まで以上に注意深く、正しく判断できる目を養っていかなければならないでしょう。今回、政治コースのメイン講師の西田亮介先生の講義では、こうしたメディアの特性について、多くの気づきを得ることができました。

また、このコースでは、世界各地でおきている戦争、ジェンダーギャップの問題、貧困による教育格差の問題など社会の分断や格差の状況について、専門の先生方からお話を伺う事で様々な視点から広く学ぶことができました。今、アメリカのトランプ第二次政権発足により、世界ではますます分断がおきる可能性が懸念されています。このような状況下で無意識に分断を助長する側にまわることがないようにこれからも学び続け、気づき力を養っていきたいと思います。

ひところ盛んに使われた「新しい戦前」…嫌な言葉だが頷いてしまう。各分野で危惧される点を重ね合わせるとここにたどり着くか…

もちろんこれは日本国内の動きについて言われたものだが、世界では既に戦争や内戦で人々の生活は破壊され、生命をも奪われている現実がある。国際情勢はさらに混沌とすると現時点では思わざるを得ない。私たちはどう考え、どうすればいいのか、何ができるのか。

さらに問われるのは、日本国内での問題に対する私たちの姿勢だ。「戦後民主主義」は私たちの生活に様々な形で根付いてきている。人権、多様性や個人の尊重、セーフティネット、ジェンダー等、以前は見向きもされなかった問題が取り上げられつつあるのは嬉しいことだ。形式だけでない民主主義手続きを大切にしながら、一つひとつの課題解決が求められている。その背景等を考えつつ、身近な課題解決に取り組むことは「政治」に直結する。私たちが身近な場面で問題を話し合い、当たり前政治を語りたい。

その際に問われるのが何に基づく判断なのかだ。市民大学では、私たちが学ぶことで裏付けと知識・情報を得て責任を持った判断と主張を身に付け、市民としての自覚と判断力を獲得できる。そして、市民大学で学ぶことは本来のジャーナリズムの役割同様、「権力を監視する」役割を担うことになると思います。政府の広報や一部の主張を鵜呑みにするのではなく、市民の疑問や主張をベースに市民大学の「権力監視」の役割を果たしたい。これは政治コースだけではなく、どのコースのさまざまな問題についても言えることなのだと思う。『権力は腐敗する』…だからこそ学びに裏付けられた市民の声が大切なのだ。

## 知的好奇心が満たされる時間

さかお まゆこ

仕事と育児に追われ、学びの時間が思うように取れない日々少し物足りなさを感じていた。そんな時、市の広報誌で本講座を知った。タイトル「人権と民主政治を身近な問題から考える～女性の不在・経済の停滞・報道の責任～」が実に興味深く、応募した。平日の間に溜まった家事をこなすのがルーティーンだった土曜日の朝が、家族の協力のもと、学びの時間に変わった。ちょっとした生活革命だった。

メイン講師の西田亮介先生をはじめ、豪華な講師の方々による講義は、想像以上に知的好奇心が満たされるものであった。なかでも印象に残ったのは、ジャーナリスト金平茂紀さんの「未来のためのメディア批評」である。珠洲原発の建設計画にあたり、推進派と反対派の住人の間で起きた約28年もの対立と、その背景にあった企業の誘致活動の話を知り、物事の複雑さとメディアでは報道されない現実の重みを痛感した。また、物事が結果に至るまでの経緯に目を向けることの重要性にも気づかされた。

日本のジェンダーギャップがテーマの講義においては、共に学ぶ女性の方々は、性別役割分担の考えにより、悔しさを感じる場面を私以上に経験してこられたのではないかと感じた。時が流れ、令和となった現在も、それは形を変えながらも根強く残っている。現代社会を生きる一個人として、たとえ小さなことでも、次世代が少しでも生きやすい社会を実現するために、何ができるのか、これからも考え、行動していきたい。

最後に、この三鷹市民大学という有益な知識と時間を提供する素晴らしい事業に関わるすべての方に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

今回、主に二つの理由から政治コースを選択した。

一つは、学問としての政治を学びたかったこと。政治学が学問として成立しているとすれば、そこには知の体系というものが存在するはずであり、その体系の一端でもいいので覗いてみたいと思った。

もう一つは、「人権と民主主義を身近な問題から考える」というテーマに惹かれたこと。昨今の多様性尊重という流れと、多数決を基本原則とする民主主義とは、時に緊張関係に入る。すでに米国では、多様化政策に対する反動が始まっているのはご案内のとおりである。かつて、欧州では、「自由」と「平等」という矛盾を孕んだ概念を、「連帯」や「博愛」という言葉で包摂しようとしてきた。このような歴史を踏まえ、多様性尊重と民主主義との対立を昇華できるような考え方はあるのだろうか、という問題意識を持っている。従って、本講座のテーマは大いに魅力的であった。

残念ながら当初の目的が達せられたというわけではなかったが、それでも、やはり、この市民大学への参加には大いなる価値があるといえよう。それぞれの分野での識者から直接に講義を受けた後に、質問をぶつけることができるのは、この市民大学の大いなる醍醐味である。

特に時事問題についてだが、真正面から答えることが難しいであろう、聴講生からのセンシティブな質問に対し、講師が答える際の表情や声の調子やらで、言外の意味を読み取ることもできる。これは例えば読書による学習との絶対的な違いであろう。

最後になるが、毎回の講義を飄々とサポートいただいたご担当者の方をはじめ生涯学習センターの方々、また素晴らしい講師陣を招聘いただいた関係委員の皆様のご尽力に多大なる謝意を表したい。以上

## 市民大学で考える機会を得た

**田 中 敏 男**

オリエンテーションで学習の手引きを頂き、これは参考になると思いページをめくってゆくと昨年受講された教育コース O さんの文章が目にとまった。それは経験・センス・知識は重要であるがそれと同様重要なものがある。それは「協調性」と「柔軟性」と指摘されていた。このご指摘は学習の中でこの二点を必要とされる場面が多かったのではないかと思った。なるほど、学習の回を重ねるごとに私を含めて皆さんの特徴が見事に表れ、この言葉を思い出す事が多く大いに反省させられた。

学習を通じて私自身が変わってきた事がある。それは次回のテーマについて情報を入れた上で講師の話を聞こうとした事。その結果、新聞の読み方が違ってきた事。学習のテーマに近い記事があると、その記事を丹念に読み記事の切抜き帳を作った事。その結果、記事の疑問点を把握した上で受講し、それを質問し講義の中で疑問点を解決した事で講義が大変楽しく、知識が増えていったと感じる。因みにどんな切抜き記事があったかその一部を振り返ってみると「AI 時代生産性磨く好機」「フェイク時代の切り札か（本物と証明技術）」「集合知 VS 偽情報」「自民総裁選・経済強く改革断行」「兵庫知事の不信任決議可決」「SNS 選挙知事に斎藤氏再選・動画拡散で支持増幅」「次の国造り、外交・社会保障・投資」等。

その他、問題意識を持っているのは日本の人口減少問題。国力は人口増減で左右されると考える。事実、インド（14 億 5 千万増加率 0.9%）・中国（14 億 2 千万▲ 0.2%）・米国（3 億 5 千万 0.6%）・インドネシア（2 億 8 千万 0.8%）・ロシア（1 億 4 千万▲ 0.4%）日本（1 億 2 千万▲ 0.5%）中国は国力増大していたが、一人っ子政策が影響し人口減少が続く。それに伴い、建設業を中心に不振の経済が続く。前川喜平講師は人口減少の解決策は移民政策とされた。大賛成であるが、移民の増加により事件が多くなったり、近隣との諍いが生じたりする事がある。移民の方にも日本人と同様の給与待遇や福利厚生策を通じ、徐々に問題を減少させてゆく事はできると考える。

## 日本の人権と民主政治を身近な問題から考えるを受講して

R.T.

各講師の方々の講座にいずれも深い感銘を受けたが 特に印象に残った項目は

### ☆ 保守と革新 について

従来保守と改革について観念的にかんがえていたが

保守とは 憲法を守ろうとする

革新とは 憲法を変えようとする

憲法を主体に区別する考え方があること

### ☆ 予測不能な時代

予測不能の時代にいかに対処するか

以上

## 一年を振り返って

M.T.

去年の政治コースが大変良かったので、今年も政治コースを受講しました。今年は社会学者の先生がメイン講師で、社会学的観点から様々な問題を提示されました。今年の政治コースのメインテーマは、「人権と民主政治を身近な問題から考える～女性の不在・経済の停滞・報道の責任～」であり、特に、憲法について講義いただいた水島朝穂さん、メディア批評について講義いただいた金平茂紀さん、ジェンダー格差について講義いただいた森口千晶さん、情報公開制度について講義いただいた三木由希子さん、戦争と平和について講義いただいた柳澤協二さんのお話がとても響きました。

公開講座でのアメリカ大統領選挙前の前嶋和弘さんの講義はタイミングが良かったですし、紛争地で取材された現地の状況についての志葉玲さんのお話も聞けて良かったです。

TV や SNS などでは中々聞くことができない、自ら問題に対峙して行動しておられる方々の生の声は本当に心に響きます。貴重な機会に大変感謝いたします。企画・運営委員、職員の皆様、ありがとうございました。

“もしトラ”が現実となった世界で滑稽に見えることがどうして現実であるのかが、少しずつ分かってきました。そして、物事は理想や正義だけでは測れないことを実感しました。栄華を極めた国々や文明が滅びていく歴史は学べるのに、今を生きている人々は現時点の置かれた環境や社会でグローバルな視点に立った俯瞰的で総合的な判断をすることは難しいのかもしれません。また、時間は流動的であり、常に顧みることが労苦が伴います。それでも、より良い社会、国、世界にしていくことを考えることは諦めたくないと思います。

## 世界は何か別の力学で動き始めている？

C.N.

今年度は「人権と民主政治を身近な問題から考える」という論争的概念満載の講座でした。西田亮介さんの、クールで分析的な講義に始まり、水野和夫さん、金平茂紀さん、水島朝穂さん 三木由希子さんなど、先生方の生きざまがにじみ出るような内容が印象に残りました。

講座で、憲法、ジェンダー、民主主義などについて、考えていた矢先、世界はトランプタワーを中心に、理解しがたい方向に回り始めました。世界には男と女しかいないことになり、ウクライナが戦争を始めたことになり、メキシコ湾はアメリカ湾になりました。これらの裏にはどんなたくらみがあるのか、まだまだ進行中で複雑です。

アメリカ独立宣言の起草者 トマス・ジェファークソンの言葉 「信頼はどこでも専制の親である。自由な政府は信頼ではなく猜疑にもとづいて建設される」という意味をかみしめて生きることになるのでしょうか。

憲法も、国際法もそっちのけで、他国の指導者をばか者呼ばわりする時代を冷静に見つめ、こんな時代だからこそ、今まで学んできたものをより大切に、前を向いて進みたいと思う。これからの世界の国々と日本の対応から目が離せません。

## 自主性×自主性＝市民大学？

古 川 英 一

三鷹市民大学の政治コースに3年間通いました。勉強嫌いで学生時代には講義をさぼってばかりいたこの僕が、仕事の合間をぬって、雨の日は自宅から30分歩いて市民大学に向かいます。はて、さて、その魅力とは？それは、年をとっても、いつになっても学んでみたいという個々人の自主性と、市民大学のプログラムがすべて（メインから個別テーマの先生まで）学習生たちによって作られている、という自主性の2つの自主性の掛け合わせだからではないか、というのが僕の見立てです。

そして一度足を踏み入れると、なかなか抜け出せないという、不思議な吸引力も市民大学にはあるようです。つまり“癖”になるようなのです…大学なら一応4年で卒業できるところ、周りの学習生を見渡すと、10年近いベテランもたくさんおられる。皆さん、自主的に留年を重ねているのでしょうか。それほどまでして学びたいのか、あるいは居心地がよすぎるのか。

この原稿を書くのは3回目なのですが、書いているといつも意識がぽつんと過去へ。

そうまたも、古代ギリシャの丘の上。広場（アゴラ）でわいわいと議論することが、政治学の成り立ちとばかり、われらが学習生に似た風体の人たちが集まっています。日本は今年で戦後80年らしいが、果たして、その歩みは？トランプ何某とやらが超大国のかじ取りを取っているようだが、私たちの民主主義はどうなっていくのだろう？民主主義に欠かせないはずのメディア・ジャーナリズムの現状は？いつまで経っても話はつきず…

はっと現実に戻ってきました。意欲ばかりはあるのに、またもうたた寝か。なにはともあれ続きは、これから三鷹市民大学でたっぷり！

## 1 年間ありがとうございました。

E.F.

極端な主張が支持され、分断が進む世界。政治が自分たちの思いに応えてくれないという思い。

情報が氾濫する中、スピードとコスパに流される私たち。一体何が正しいのか？私たちはどうしたらいいのか？そんな思いでこの政治のコースに参加。

知らないことばかりで、その時はとても学習したような気分になるが、日々の忙しさにすぐ忘れてしまう。一番印象に残っているのは、フェスティバルの準備のためにグループで話し合ったり自分で調べたこと。

私はこのコースの学びを、総合コースが目指している市民の自治力を高め、コミュニティづくり、まちづくりにどの様に活かしていけるのだろう、と改めて考えている。やはり講座ごとにその内容に対して感じたことや考えたことを話したり聞いたりすることで、地域での話し合いにいかせる経験を積むことができるのではないかと思った。また、人権や民主政治は、大きなテーマではあるが、私たちは毎日の暮らしの中での様な事ができるのか。世界の希望が見えなくなっている今だからこそ、自分たちが暮らす地域から考えて、話し合っていかななくてはならないということを改めて感じた。

1 年間、ありがとうございました。

## SNS で政治は変わる？選挙は変わった。

渡 辺 衛

政治コースの過去 2 年間は政治学者による政治学の基本と民主主義の発展を基にして様々な現在の政治課題を解き明かした講義で有った。今年度の取組みはそこから離れ、政治と社会は合わせ鏡との視点で現在の生活に於ける政治の課題を学ぶと言うテーマで社会学者の西田亮介氏をメイン講師に招いた。西田講師は政治と SNS の関係に造詣が深い。今年度は選挙イヤーとされ各国でリーダー選が有り日本でも予定された都知事選に加え予定外の衆院選や兵庫県知事選も有った。そこでは選挙に於ける凄まじい SNS の影響力と公選法では想定していない選挙運動が行われ、我々市民やマスコミが予想しない結果が出た。そんな事態を想定した訳でもなくお招きした西田講師だが図らずも今年度の最大政治課題の理解に最適なメイン講師で有った。只 SNS を駆使する講義スタイルで面食らう場面も有りスマホを使って進める講義では未だガラ携の私は初日の講義には Ipad を持参せず隣席の S さんに画面を見せて頂く次第で有った。しかし西田講師の講義ではもう SNS 無しでは社会は動かない事を学び、年寄りでも時代に合わせて未だ進化する必要を自覚した一年で有った。ゲスト講師の講義にも学ぶ事の多い課題が有り、金平講師の現場に密着するジャーナリスト根性、水島講師には憲法をなおざりにする昨今の政界への指弾を改めて認識し、三木講師には民主主義社会に於ける情報公開の意義とそれを求める行動の重要性を学ばされた。今、世界に拡大する対立と分断、経済格差、デジタル社会の急速な進化の行き先への不安。大きな変動の最中に居る事は理解しても如何対応するか、どこにも持って行く場のない不安を認識させられた一年間で有った。

前年度に引続き2年目の政治コースに参加させて頂きました。

今年もレベルの高い内容の濃い講義を受ける事ができとても満足しています。

学習生の講義への質疑や自主学習での対話も関心深く刺激を受けました。

ただ仕事の都合等でフェスティバルに関わる事が出来ず申し訳なかったと思っています。

今回のメインテーマは「人権と民主政治を身近な問題から考える。女性の不在、経済の停滞、報道の責任」。多岐にわたり人権、女性参画、メディアの問題と、政治を知るのには世界の経済、歴史にも関心を持ち幅広く学ぶ事ができました。西田先生の社会と情報環境の変化の提起がありましたが、まさに兵庫県知事選挙でSNSを利用し再選。トランプ選においてもSNSにおけるフェイクニュースや陰謀論にあふれ、日本の民主主義は今押し寄せるSNSの荒波に呑み込まれてしまうのではと思います。

インターネットが毛細血管のように世界の隅々まで浸透し、世界は狭くなったのでしょうか。

しかし世界で起きているのは分断と対立。

その一方で日本被団協がノーベル平和賞を受賞し、地道な活動で核軍縮交渉に「人道的アプローチ」と呼ばれる新たな観点をもたらしました。

自由と平和、民主主義を守るためこれからも学びを続けたいと思います。

先生方、企画、運営委員、職員の皆様、一年間お世話になりました。ありがとうございました。

令和6年度三鷹市民大学事業総合コース  
学習記録「あゆみ」第57号

発行 公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団  
編集 三鷹市民大学事業総合コース「あゆみ」編集委員会  
〒181-0004 東京都三鷹市新川6-37-1  
元気創造プラザ4階 三鷹市生涯学習センター  
電話 0422-49-2521  
HP <https://www.mitakagenki-plaza.jp/shogai/>  
※「みたかe-bookポータル」に本誌のPDF版を掲載しています。  
<https://mitaka-e-book.actibookone.com/>

